



# Crystal Xcelsius ユーザー ガイド

Crystal Xcelsius Standard/Pro 4.5

Windows

#### 特許

Business Objects は、米国特許 5,555,403、6,247,008 B1、6,578,027 B2、6,490,593 および 6,289,352 を所有します。これらにより、Business Objects が提供および販売する製品は保護されます。

#### 商標

Business Objects、Business Objects のロゴ、Crystal Reports、および Crystal Enterprise は、米国またはその他の国における Business Objects SA または該当する関連会社の商標または登録商標です。その他すべての商標は各社に帰属します。

#### 著作権

Copyright © 2006 Business Objects. All rights reserved.

#### サードパーティ協力会社

本リリースの Business Objects 製品には、サードパーティ協力会社によって使用許諾されたソフトウェアの再頒布が含まれている場合があります。こうした個別のコンポーネントのいくつかは、使用する際に別途ライセンスが必要になることがあります。次のサイトには、使用許諾を要求または許可したサードパーティ協力会社のリストの一部と、関連する必要事項が掲載されています。

<http://www.businessobjects.com/thirdparty> (英語)

# 目次

第 1 章	Crystal Xcelsius Designer について	7
	概要	8
	Xcelsius バージョン 4.5 の新機能	8
	Xcelsius 3.0/3.5 からの XLF ファイルのインポート	9
	Xcelsius システムについて	10
	Xcelsius ツールについて	13
	Xcelsius でのバックアップ ファイルの作成	24
	ビジュアライゼーションのプレビュー	25
	Xcelsius ビジュアライゼーションのサンプルの表示	25
	動的および静的なデータ ソース	25
	テンプレートの使用	27
	グローバル スタイル	27
第 2 章	Crystal Xcelsius のビジュアライゼーションの作成と更新	29
	概要	30
	ビジュアライゼーションの作成	30
	ビジュアライゼーション用のデータの更新	32
第 3 章	Crystal Xcelsius Designer コンポーネントの使用	37
	概要	38
	チャート コンポーネントの使用	38
	単一値コンポーネントの使用	43
	セレクトア コンポーネントの使用	45
	マップ コンポーネントの使用	53
	アートおよび背景コンポーネントの使用	55
	その他のコンポーネントの使用	58

## 目次

	テキスト コンポーネントの使用 .....	63
	Web 接続コンポーネントの使用 .....	64
<b>第 4 章</b>	<b>高度な機能の使用</b> .....	<b>65</b>
	概要 .....	66
	動的ディスプレイの機能 .....	66
	アラート .....	69
	テンプレートの作成 .....	71
	グローバル スタイルの使用 .....	72
<b>第 5 章</b>	<b>Crystal Xcelsius のビジュアライゼーションのエクスポート</b> .....	<b>75</b>
	概要 .....	76
	ビジュアライゼーションの Flash へのエクスポート .....	76
	ビジュアライゼーションの HTML へのエクスポート .....	76
	ビジュアライゼーションの PowerPoint へのエクスポート .....	77
	ビジュアライゼーションの Adobe PDF へのエクスポート .....	78
	Outlook を使用したビジュアライゼーションの電子メール送信 .....	78
	ビジュアライゼーションの Plumtree ポータルへのエクスポート .....	79
	ビジュアライゼーションの Word へのエクスポート .....	80
	ビジュアライゼーションのスナップショットの取得 .....	81
<b>第 6 章</b>	<b>FAQ</b> .....	<b>83</b>
	インストールに関する質問 .....	84
	Microsoft Excel に関する質問 .....	84
	Microsoft PowerPoint に関する質問 .....	85
	トラブルシューティングに関する質問 .....	85
	サポートされる機能に関する質問 .....	88
<b>第 7 章</b>	<b>Crystal Xcelsius Professional と Crystal Reports との統合</b> .....	<b>91</b>
	概要 .....	92
	Live Office データの Crystal Xcelsius ビジュアライゼーションでの使用 .....	93

## 目次

<b>第 8 章</b>	<b>一般機能参照</b>	<b>95</b>
	概要 .....	96
	共通領域 .....	96
	共通ボックス .....	98
	共通リスト .....	99
	共通ボタン .....	102
	共通の [アラート] タブ機能 .....	103
<b>第 9 章</b>	<b>チャート コンポーネント参照</b>	<b>107</b>
	概要 .....	108
	[一般] タブ .....	108
	[ドリルダウン] タブ .....	111
	[動作] タブ .....	115
	[アラート] タブ .....	119
	[表示] タブ .....	120
<b>第 10 章</b>	<b>単一値コンポーネントとは</b>	<b>139</b>
	概要 .....	140
	[一般] タブ .....	140
	[動作] タブ .....	141
	[アラート] タブ .....	146
	[表示] タブ .....	146
<b>第 11 章</b>	<b>セレクトア コンポーネントとは</b>	<b>151</b>
	概要 .....	152
	[一般] タブ .....	152
	[動作] タブ .....	158
	[アラート] タブ .....	165
	[表示] タブ .....	165

## 目次

<b>第 12 章</b>	<b>マップ コンポーネントとは</b>	<b>181</b>
	概要 .....	182
	[一般] タブ .....	182
	[動作] タブ .....	184
	[アラート] タブ .....	185
	[表示] タブ .....	185
<b>第 13 章</b>	<b>背景コンポーネントとは</b>	<b>187</b>
	概要 .....	188
	[一般] タブ .....	188
	[動作] タブ .....	192
<b>第 14 章</b>	<b>テキスト コンポーネントとは</b>	<b>193</b>
	概要 .....	194
	[一般] タブ .....	194
	[動作] タブ .....	195
	[表示] タブ .....	198
<b>第 15 章</b>	<b>Web 接続コンポーネントとは</b>	<b>201</b>
	概要 .....	202
	[一般] タブ .....	202
	[動作] タブ .....	203
	[表示] タブ .....	206
<b>第 16 章</b>	<b>その他のコンポーネント</b>	<b>209</b>
	概要 .....	210
	[一般] タブ .....	210
	[動作] タブ .....	214
	[表示] タブ .....	218
<b>第 17 章</b>	<b>サポートされる Excel の関数</b>	<b>227</b>
	サポートされる Excel の関数 .....	228
	<b>索引</b>	<b>231</b>

# Crystal Xcelsius Designer について

1

章

## 概要

この章では、Crystal Xcelsius Designer、プログラムのコンポーネント、および機能について紹介します。

## Xcelsius バージョン 4.5 の新機能

Xcelsius には、次の新しいコンポーネントが用意されています。

- ローソク足チャート コンポーネントおよび OHLC チャート コンポーネント

OHLC (open-high-low-close) チャートとローソク足チャートは主に株価データの表示に使用します。各マーカーは 4 つの値を表し、これらの値は OHLC チャートではマーカーに接続された線で、ローソク足チャートでは色で表されます。Open には、株価の始値が表示されます。High には、その日の最高値が表示されます。Low には、その日の最安値が表示されます。Close には、株価の終値が表示されます。

- リスト ビュー コンポーネント

リスト ビュー コンポーネントは、Excel ファイルからのセルの任意のグループの WYSIWYG 表現です。各行で複数のアイテムを選択できます。ユーザーはエクスポートされた SWF ファイルで列を並べ替えたり、列の幅を調節したりできます。

- パネル セット コンポーネント

パネル セット コンポーネントは、プレゼンテーション内のファイル間を簡単に移動できる一連のフレーミング オプションです。Jpeg または SWF ファイルをパネル セット コンポーネントのフレームに埋め込み、豊富な書式設定機能を調整してビジュアライゼーションでのコンポーネントの外観をカスタマイズできます。

- スキン

Xcelsius のスキンは、次の 3 種類です。

- Graphite
- Halo
- Windows Classic

スキンについては、[55 ページの「スキン」](#)を参照してください。



Xcelsius には、次の新しい機能が用意されています。

- 対数軸

対数軸は、円チャート コンポーネントを除くすべてのチャート コンポーネントで、[プロパティ] パネルの [動作] タブの [目盛の動作] 領域に、[X 軸目盛] および [Y 軸目盛] リストのオプションとして表示されます。このオプションによって、対数軸上に X 軸および Y 軸の値がプロットされます。対数目盛でプロットされる値は、チャート コンポーネントでは不等間隔で表示されます。小さな値ほど間隔が大きくなり、大きな値ほど間隔が小さくなります。等しい割合に変更すると、等しい間隔で表示されます。

- アニメーションを有効にする

このオプションは、面チャート コンポーネント以外のチャート コンポーネントに、[プロパティ] パネルの [動作] タブのオプションとして含まれます。このオプションを選択すると、ビジュアライゼーションを実行したときに、アニメーションがチャート コンポーネントに追加されます。棒が付いたチャート コンポーネントでは、Xcelsius ビジュアライゼーションの実行時にデータが変化すると、棒が拡大縮小します。点ベースのチャート コンポーネントでは、Xcelsius ビジュアライゼーションの実行時に、点が最大サイズまで拡大します。

- Word へのエクスポート

ビジュアライゼーションを Microsoft Word にエクスポートできます。Word 内のビジュアライゼーションは動的な対話型です。

- モデルのエクスポート

[モデルのエクスポート] オプションによって、ビジュアライゼーションにインポートされている元の Excel ファイルのコピーを使用しているマシンにエクスポートできます。Excel ファイルは、使用しているマシンまたはそれ以外のマシン上に作成されたビジュアライゼーションからエクスポートできます。Excel ファイルをエクスポートするには、[データ] メニューの [モデルのエクスポート] をクリックします。

## Xcelsius 3.0/3.5 からの XLF ファイルのインポート

Xcelsius は、Xcelsius 3.0/3.5 で作成された Xcelsius ビジュアライゼーションをインポートする機能をサポートしています。このインポート機能により、現在の 3.0 および 3.5 ユーザーは既存のビジュアライゼーションをアップグレードして、Xcelsius の新機能を利用できます。ビジュアライゼーションをアップグレードする前に、現在の XLF、JPG および外部 SWF ファイルをバックアップします。

既存のビジュアライゼーションをアップグレードするには、Xcelsius を起動して、[ファイル] > [開く] の順に選択します。アップグレードする XLF を選択し、[開く] をクリックします。Xcelsius は、選択した XLF が古いビジュアライゼーションであることを検出して、Xcelsius にビジュアライゼーションをインポートすると、特定の機能が動作しない可能性があることを警告します。

**注** 最新の Xcelsius バージョンを使ってビジュアライゼーションをインポートして保存した後は、Xcelsius 3.0/3.5 を使ってそのビジュアライゼーションを開くことはできません。

Xcelsius では、Xcelsius 3.0/3.5 から最新バージョンにビジュアライゼーションを移行する際の影響を最小限にします。ただし、一部のビジュアライゼーション、より具体的には一部のコンポーネントの表示方法が元の 3.0/3.5 と多少異なる可能性があります。

よくある変更点は、次のとおりです。

- 一部のコンポーネントの大きさが異なります。ほとんどの場合、大きさの違いは数ピクセルの範囲です。
- 一部のカスタム色が若干異なります。これは、美術面の向上と、スキンの導入によるものです。
- テーブル コンポーネントのサイズと書式が異なります。

コンポーネントの書式が異なる場合、コンポーネントの [プロパティ] パネルを開き、スプレッドシートに結合されているプロパティを再リンクします。

Xcelsius では、すべてのコンポーネントで動的データ ソースをサポートしています。この機能拡張により、セレクトやチャートを含むビジュアライゼーションが影響を受けます。新バージョンで作成したビジュアライゼーションを Xcelsius 3.0/3.5 のビジュアライゼーションと比較して、正しく動作することを確認してください。

## Xcelsius システムについて

### Xcelsius と従来のレポーティング アプリケーションとの違い

Xcelsius は、あらゆる種類のポータル イニシアチブ、Business Intelligence プログラム、Executive Dashboards、バランス スコアカード プロジェクト、マーケティング レポート、および日常的なレポート作成およびプレゼンテーション要件を補完します。Xcelsius は、レポート作成プロセスおよび分析にユーザーが参加できるようにすることで、これを実現します。

## Xcelsius のしくみ

Excel ファイルを Xcelsius にインポートし、ビジュアライゼーションを作成し、ビジュアライゼーションを公開します。

### ▶ Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. 公開する情報を含む Excel ファイルをインポートします。
2. ビジュアライゼーションを作成します。
3. ビジュアライゼーションをコンパイルし、公開します。



### 手順 1 : Excel ファイルのインポート

ビジュアライゼーションを作成する最初の手順として、ビジュアライゼーションをサポートするデータを含む Excel ファイルをインポートします。この手順の間に、Xcelsius は Excel ファイルのコピーを作成し、式、値、セルの書式設定を含むスプレッドシートをインポートします。Excel ファイルがインポートされると、そのコピーが Xcelsius に埋め込まれます。

元の Excel ファイルは継続して使用できますが、行、列、またはデータを削除、または追加した場合、その Excel ファイルを再インポートする必要があります。

### 手順 2 : ビジュアライゼーションの作成

Excel ファイルをインポートしたら、Xcelsius を使用してビジュアライゼーションを作成できます。Xcelsius には、背景からチャートまでのコンポーネントが含まれています。これらを選択して、埋め込みスプレッドシートの 1 つまたは複数のセルにリンクすることができます。チャートを作成する場合、チャート コンポーネントを選択してクリックし、スプレッドシートからチャート データの範囲を選択できます。このプロセスは、Excel を使用してチャートを作成する方法と同様です。

Xcelsius では、マウスをポイントしたり、クリックすることで、動的なビジュアルライゼーションを作成できます。2 つ以上のコンポーネントを結合し、それらをスプレッドシートにリンクできます。たとえば、チャートと結合したポイント アンド クリック ラジオ ボタンを定義できます。各ラジオ ボタンをクリックすると、チャート上に異なる情報が表示されます。

### 手順 3 : ビジュアルライゼーションのコンパイルと公開

最後の手順として、ビジュアルライゼーションをプレビューし、エクスポートします。プレビューによって、ビジュアルライゼーションをテストし、エクスポートした場合の表示と動作を確認できます。

Xcelsius では、さまざまな方法でビジュアルライゼーションを公開できます。ビジュアルライゼーションを公開する方法の詳細については、[75 ページの「Crystal Xcelsius のビジュアルライゼーションのエクスポート」](#)を参照してください。Xcelsius ビジュアルライゼーションは、次の形式で公開できます。

- Macromedia Flash SWF
- HTML
- Microsoft PowerPoint スライド
- Adobe PDF
- Microsoft Outlook
- Microsoft Word
- BusinessObjects Enterprise

## ビジュアルライゼーションの表示

Xcelsius を使用して作成したビジュアルライゼーションには、標準的な表示方法とユーザー定義の表示方法とがあります。ビジュアルライゼーションは、Microsoft Power Point、HTML、およびポータルと完全に互換性があります。

Xcelsius ビジュアルライゼーションは、SWF ファイル形式に準拠しています。SWF は、Flash Player で動作するように設計されたベクター ベースのグラフィック形式です。ベクター ベースの SWF ファイルはスケーラブルなグラフィックを備え、どんな画面サイズでも複数のプラットフォームでスムーズに再生できます。さらに、通常ベクター ベースのファイル サイズは、ビットマップ アニメーションより小さいサイズです。

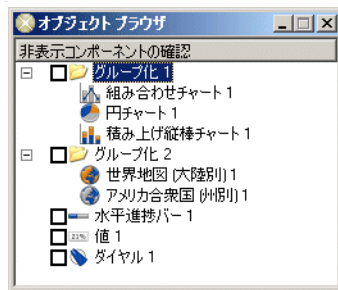
Xcelsius で作成されたビジュアルライゼーションは動的です。想定シナリオによって、ビジュアルライゼーションで条件を調整し、結果を表示できます。対話型コンポーネントによって、ビジュアルライゼーション条件を変更できます。

## Xcelsius ツールについて

Xcelsius の使用を始める前に、以降のいくつかの節で Xcelsius インターフェイスについて説明します。

### オブジェクト ブラウザの使用

オブジェクト ブラウザでは、オブジェクトの選択、非表示、切り取り、コピー、貼り付け、削除、手前に表示、後ろに表示、グループ化、グループ化の解除ができます。また、コンポーネントの「プロパティ」パネルにアクセスできます。



オブジェクト ブラウザは、Xcelsius セッションを開始するとデフォルトで開きます。オブジェクト ブラウザを閉じた後、[表示] メニューの「オブジェクト ブラウザ ウィンドウ」をクリックすると、再度開くことができます。

### 右クリック コンテキスト メニュー

コンテキスト メニューは、ブラウザの任意のコンポーネント上を右クリックすると表示されます。

これは、メニューにグループ共通のプロパティが表示される場合に項目がグループ化される場合を除き、キャンバス上のコンポーネントを右クリックすると表示されるメニューと同じです。

### コンポーネントの選択

オブジェクト ブラウザ上でコンポーネントを選択するには、コンポーネント名またはアイコンをクリックして、キャンバス上のコンポーネントを選択します。

複数のコンポーネントを選択するには、1 つのコンポーネント名またはアイコンをクリックして選択してから、隣接しないコンポーネントの場合は **Ctrl** キーを押しながら、隣接するコンポーネントの場合は **Shift** キーを押しながら、他のコンポーネントをクリックします。

以上の方法を組み合わせる場合は、最初に Shift + クリックでコンポーネントをグループで選択し、次に Ctrl + クリックで個別のコンポーネントを選択します。最初は常に Shift + クリックで選択します。これ以外の順序で行っても、うまく動作しません。

すべてのコンポーネントを選択するには、任意のコンポーネントを 1 つ選択し、**Ctrl+A** を押します。

**注** 非表示のマークが付いたコンポーネントは選択できません。

## コンポーネントの非表示

オブジェクト ブラウザ上のコンポーネントを非表示にするには、コンポーネント名の横にあるチェック ボックスを選択します。

複数のコンポーネントを非表示にするには、複数選択した状態でいずれかのチェック ボックスを選択します。

すべてのコンポーネントを非表示にするには、任意のコンポーネントを 1 つ選択し、**Ctrl+A** を押してすべてのコンポーネントを選択します。次に、任意のコンポーネントの横にあるチェック ボックスを選択します。

## コンポーネントのグループ化

オブジェクト ブラウザで選択されたオブジェクトは、次の方法でグループ化できます。

- 選択したコンポーネントをグループ化するには、選択したいいずれかのコンポーネント上を右クリックし、コンテキスト メニューの [グループ化] をクリックします。
- オブジェクト ブラウザで複数のコンポーネントを選択し、ツールバーの [グループ化] をクリックします。



グループ化したコンポーネントは、ブラウザ内でグループ全体がフォルダとして表され、ツリー表示されます。

グループ フォルダを展開するには、[+] ボタンをクリックするか、フォルダアイコンまたはグループ ラベルをダブル クリックします。

グループを展開したら、グループ内のコンポーネントをダブルクリックするか、右クリックでコンテキスト メニューを表示して、コンポーネントの [プロパティ] パネルにアクセスします。この方法では、コンポーネントのグループ化を解除せずに、プロパティを編集できます。



**ヒント** 選択したコンポーネントのグループ化を解除するには、ツールバーの [グループ化解除] をクリックします。

## コンポーネントの削除

選択したコンポーネントを削除するには、**Delete** を押すか、右クリックのコンテキスト メニューで [削除] を選択します。

削除したコンポーネントを元に戻すには、**Ctrl+Z** を押すか、[編集] メニューの [元に戻す] をクリックします。

グループ内のコンポーネントを削除するには、グループ化を解除する必要があります。

## プロパティ パネルを開く

コンポーネントの [プロパティ] パネルは、単独またはグループで、同じ手順を使って開くことができます。

- アイコンまたはラベルをダブルクリックします。
- コンポーネントを選択し、**Alt+Enter** を押します。
- コンポーネントを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

グループの [プロパティ] パネルは、グループ内の個々のコンポーネントの [プロパティ] パネルとは別に開きます。

- グループ ラベルまたはアイコンを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- グループを選択し、**Alt+Enter** を押します。

**注** グループをダブルクリックして [プロパティ] パネルを開かないようにしてください。個々のコンポーネントの場合と違い、グループ エントリをダブルクリックすると、ツリー内でグループの展開または折りたたみが行われます。

1 つのコンポーネントの [プロパティ] パネルを開いたら、オブジェクト ブラウザのエントリをクリックして、別のコンポーネントの [プロパティ] パネルに移動できます。

## コンポーネント名の変更

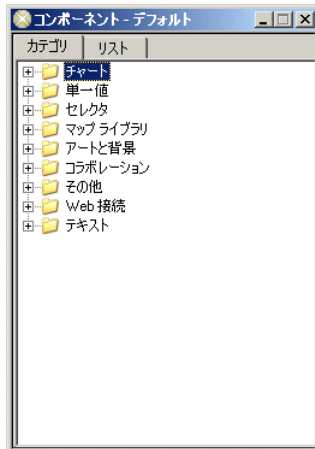
コンポーネントがキャンバス上に配置されると、各コンポーネントにデフォルトの表示名が割り当てられます。これは、[プロパティ] パネルのタイトル バーとオブジェクト ブラウザのエントリに表示される名前です。

デフォルトの表示名を無効にして、独自の名前に変更できます。オブジェクト ブラウザのコンポーネント名をゆっくりダブルクリックします。すばやくダブルクリックすると、[プロパティ] パネルが開きます。ラベル編集モードで名前が表示されます。名前を編集して、**Enter** を押すか、別のコンポーネントをクリックします。

**注** 非表示のマークが付いたコンポーネントの名前は変更できません。

## Components Explorer の使用

Components Explorer には、使用可能なコンポーネントが表示されます。



ウィンドウには、次の 2 つのビューが含まれます。

- カテゴリ ビューは、コンポーネントを機能別にグループ分けして、ツリー表示します。

カテゴリ ビューでは、特定のカテゴリを選択し、フォルダを開いて、選択したカテゴリに該当するコンポーネントを確認できます。Xcelsius には、市場でよく使われるカテゴリと Xcelsius 固有の次のカテゴリが用意されています。

- アートと背景
- チャート
- 統合作業
- マップ
- セレクタ
- 単一値
- テキスト
- Web 接続
- その他
- リスト ビューでは、コンポーネントがアルファベット順に編成されています。  
リスト ビューでは、コンポーネントを名前のアルファベット順で選択できます。



## コンポーネント エクスプローラでのコンポーネント間の移動

マウスまたはキーボードを使用して、Components Explorer 内でコンポーネントに移動できます。

マウスで移動するには、コンポーネントを選択できるまで、カテゴリおよびサブカテゴリをダブルクリックします。

キーボードで移動するには、カテゴリ ウィンドウ内の任意の場所をクリックしてウィンドウを選択してから、開きたいカテゴリの最初の文字を入力します。選択したフォルダを開くには、右の矢印キーを使用し、選択したフォルダを閉じるには、左の矢印キーを使用します。サブカテゴリ間を移動するには、サブカテゴリの最初の文字を入力します。また、上下の矢印キーを使用して、ツリーを上下に移動することもできます。

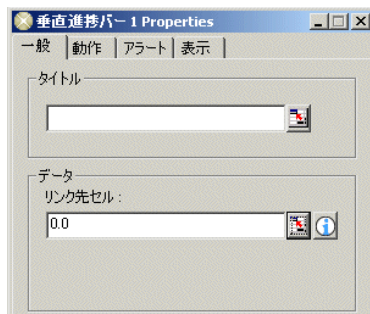
コンポーネントのリスト ビューのキーを使用して移動する場合、フォルダがない場合を除き、同じ動作になります。

コンポーネントが選択されるたびに、キャンバス上に表示した場合のコンポーネントのプレビューがプレビュー ウィンドウに表示されます。プレビュー ウィンドウのフォルダ選択は、空白です。

## [ コンポーネントのプロパティ ] パネルの使用

[コンポーネントのプロパティ] パネルには、各コンポーネント固有の機能が表示されます。コンポーネントをキャンバス領域に配置した後は、選択したコンポーネントをダブルクリックすることで[コンポーネントのプロパティ] パネルにアクセスできます。一般的に、[コンポーネントのプロパティ] パネルの構造はすべてのコンポーネントで同じですが、記述されている機能は、各コンポーネントに固有です。

[コンポーネントのプロパティ] パネルには、次のタブがあります。



- [一般] タブ

選択されたコンポーネントに最小限必要な基本機能について説明します。通常、タイトル領域とデータ ソース リンクまたはコンポーネントが表示値の領域が含まれます。詳細については、[31 ページの「手順 2: データ ソースの選択」](#)をご覧ください。

- 動作

ビジュアライゼーションでのコンポーネントの動作方法に関連する機能について説明します。通常、制限および対話に関連する表示ステータス、エントリ効果、機能を定義する領域が含まれます。詳細については、[66 ページの「動的ディスプレイの機能」](#)をご覧ください。

- アラート

アラートの使用時に必要な関連機能がすべて含まれます。このタブでは、アラート色の数、使用する色、ターゲットまたは予算を定義できます。詳細については、[69 ページの「アラート」](#)をご覧ください。

- 表示

各コンポーネントの表示方法と最終的な外観を変更できる一連の機能が含まれます。サブタブが含まれる場合があります。このタブには、フォントのサイズ、タイトルの場所、色などのオプションがあります。

- ドリル ダウン

チャートのドリルダウン機能を追加するための一連のパラメータが含まれます。

[ドリルダウン] タブについては、[111 ページの「\[ドリルダウン\] タブ」](#)を参照してください。

**注** このタブは、チャート コンポーネントの場合のみ表示されます。

## 複数選択のコンポーネントのプロパティ

キャンバス上で複数のコンポーネントを選択することにより、選択中の各コンポーネントの [コンポーネントのプロパティ] を同時に編集できます。複数のコンポーネントの [コンポーネントのプロパティ] にアクセスするには、複数のコンポーネントを選択し、ダブルクリックします。また、コンポーネントの [プロパティ] にアクセスするには、選択を右クリックし、コンテキスト メニューの [プロパティ] を選択します。

同じ種類のコンポーネントの場合、そのコンポーネントに固有のプロパティを編集できます。たとえば、現在の選択に 3 つの折れ線チャート コンポーネントが含まれる場合、折れ線チャートに固有の [コンポーネントのプロパティ] にアクセスできます。プロパティに対する変更は、選択中の各コンポーネントに適用されます。複数の種類またはグループが混在するコンポーネントの [コンポーネントのプロパティ]

は、[動作] タブの [表示ステータス] パラメータだけです。複数のコンポーネントがグループ化されている場合、[オブジェクト ブラウザ] ウィンドウのサブグループ コンポーネントを右クリックして、グループ内の個々のコンポーネントの [コンポーネントのプロパティ] を編集できます。13 ページの「オブジェクト ブラウザの使用」を参照してください。

## キャンバスの使用

キャンバス領域は、コンポーネントを配置してビジュアライゼーションを作成する白い作業領域です。

### ドラッグ アンド ドロップを使用したコンポーネントのキャンバス上への配置

- ▶ ドラッグ アンド ドロップを使用してコンポーネントをキャンバス上に配置する
- 1. Components Explorer 上でコンポーネントをクリックします。
- 2. 左のマウス ボタンを押して、コンポーネントをキャンバス上にドラッグします。
- 3. マウス ボタンを放します。  
コンポーネントが、キャンバス上のマウス ポインタの位置にドロップされます。
- 4. 各コンポーネントについて、この手順を繰り返します。

### ポイント アンド クリックを使用したコンポーネントのキャンバス上への配置

- ▶ ポイント アンド クリックを使用してコンポーネントをキャンバス上に配置する
- 1. Components Explorer 上でコンポーネントをクリックします。
- 2. キャンバス領域をクリックします。
- 3. 各コンポーネントについて、この手順を繰り返します。

### キャンバスをコンポーネントに合わせる

ビジュアライゼーションを完成したら、最終的な大きさを調整して周囲の白い領域を取り除くことができます。



これを実行するには、ツールバーの [キャンバスをコンポーネントに合わせる] ボタンを使用します。ビジュアライゼーションのサイズが、使用中のコンポーネントに合わせて最適なサイズに調整されます。



また、ツールバーの [+] および [-] ボタンを使用して、キャンバスを少しずつ拡大縮小できます。

## キャンバスをウィンドウに合わせる



キャンバスのサイズをウィンドウに合わせて調整するには、ツールバーの [キャンバスをウィンドウに合わせる] をクリックします。

## キャンバス サイズの変更

ビジュアライゼーションの作成を開始する前に、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックして、キャンバス サイズを変更できます。[ドキュメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

あらかじめ設定されたサイズから標準サイズに変更したり、独自のサイズを作成できます。ビジュアライゼーションの理想的なサイズは、使用する予定のコンポーネントの数量によって異なります。

ポートレットなど、チャートやスライダを含む単純なビジュアライゼーションを作成する場合、サイズは 640 x 840 程度です。複数のチャートおよびセレクトを含むダッシュボードまたは 1 ページのビジュアライゼーションには、画面いっぱいのサイズを使用します。

説明フィールドには、ビジュアライゼーション、作成者、日付、目的の機能についての簡単な説明を記入できます。この情報は、XLF ファイル (XLF は Xcelsius が内部ファイルを保存するファイルの拡張子) を使用する場合、またはビジュアライゼーションをテンプレートとして保存する場合、他のすべての設計者にも表示されます。

## [ モデルのインポート ] ボタンの使用

ツールバーの [モデルのインポート] ボタンを使用して、ビジュアライゼーションをサポートするデータを含む Excel ファイルをインポートします。



最初に Excel ファイルをビジュアライゼーション用にインポートする場合、[モデルのインポート] ダイアログ ボックスでファイルを検索し、選択する必要があります。既に Excel ファイルをアプリケーションにインポートしてある場合、そのファイルを再インポートするか、または新しいファイルを選択することができます。

### ▶ スプレッドシートを Excel から Xcelsius にインポートする

1. [モデルのインポート] ボタンをクリックします。  
[モデルのインポート] ダイアログ ボックスが開きます。
2. [参照] ボタンをクリックします。  
[ファイルを開く] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. Excel ファイルを選択して [開く] をクリックします。



[モデルのインポート] ダイアログ ボックスに戻ります。

4. [OK] をクリックします。

Excel ファイルをインポートすると、Xcelsius アプリケーションで Excel ファイルのミラー コピーが作成されます。このミラー コピーは、元のファイルから独立したファイルです。したがって、Xcelsius ビジュアライゼーションに影響する Excel ファイルを変更した場合、Excel ファイルを再インポートする必要があります。詳細については、[32 ページの「ビジュアライゼーション用のデータの更新」](#)を参照してください。

## フォント オプションの使用

ビジュアライゼーションのコンポーネントが使用するフォントは、[ファイル] メニューの [フォント オプション] を使用して変更できます。

### Unicode フォント オプション

[Unicode フォント オプション] には、ビジュアライゼーションで使用されるフォントをカスタマイズするためのオプションがさらに用意されています。Xcelsius の表示フォントには、次のオプションが使用できます。

- 埋め込みフォント

Xcelsius では、デフォルトで埋め込みフォントを使用します。このオプションは、選択した TrueType フォントを使って文字を生成し、SWF ファイルに埋め込みます。フォントは SWF ファイルに埋め込まれているため、実際に TrueType フォントがインストールされているかどうかに関係なく、フォントは正しく表示されます。ただし、このオプションを使用すると、ビジュアライゼーションのロード時間が増え、ファイル サイズが大きくなります。

**注** アジア言語セットは必要な文字数が多いため、埋め込みフォントはサポートされていません。アジア言語を使用する必要がある場合は、非埋め込みフォントを使用してください。

- 非埋め込みフォント

このオプションは、Unicode が定義する拡張文字セットを必要とするモデルを作成する場合にお勧めします。非埋め込みフォントでは、SWF プレーヤーを使用して、選択した TrueType フォントを直接レンダリングします。

非埋め込みフォントによって、同じビジュアライゼーション内の異なるコンポーネントで、異なるフォントを使用することもできます。ただし、使用するマシン上に TrueType フォントがインストールされているかどうかによって、ビジュアライゼーションのフォントが正しく表示されない場合があります。

**注** チャート コンポーネントなどの一部のコンポーネントは、非埋め込みフォントをサポートしていません。

### ▶ ビジュアルライゼーションのフォントを変更する

1. [ファイル] メニューの [フォント] をクリックします。  
[フォント オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。
  2. 必要なフォント オプションを選択します。
    - ビジュアルライゼーション内のすべてのコンポーネントに 1 つの埋め込みフォントを使用する場合は、次の操作を行います。
      - a. [フォント] リストで、必要なフォントをクリックします。
      - b. [OK] をクリックします。
    - ビジュアルライゼーション内の各コンポーネントに異なるフォントを使用する場合、すなわち非埋め込みフォントを使用する場合は、次の操作を行います。
      - a. [Unicode フォント オプション] をクリックします。
      - b. [Unicode フォント オプション] ダイアログ ボックスで、[非埋め込みフォントを使用] をクリックします。
      - c. [OK] をクリックします。
- これで、コンポーネントの [プロパティ] パネル上のフォント設定を使用して、コンポーネントで使用するフォントを変更できます。

## 最大行数の設定

[データ] メニューの [最大行数] コマンドを使用すると、Xcelsius が有効なデータ ソース選択として許可する最大行数を設定できます。最大行数を多く設定すると、ビジュアルライゼーションのロード時間に影響します。

データ ソースの最大行数設定を超える行数を指定しようとすると、“切り捨てが行われました” という警告メッセージが表示されます。

## [ 書式 ] メニューの使用

[書式] メニューには、ビジュアルライゼーションのコンポーネントの表示方法を書式設定するさまざまなオプションがあります。

### 配置

[配置] オプションを使用すると、選択中の最初のコンポーネントに対する相対的な位置に、コンポーネントまたはコンポーネントのグループの境界ボックスを配置できます。配置機能では、少なくとも 2 つのコンポーネントを選択する必要があります。

次の [配置] オプションがあります。

- 左
- 左右中央
- 右
- 上
- 上下中央
- 下

## 同じサイズに設定

[同じサイズに設定] オプションを使用すると、選択したコンポーネントを別のコンポーネントと同じ幅、高さまたは大きさにすることができます。

## 均等間隔

[均等間隔] オプションを使用すると、選択したコンポーネントを等間隔になるように、水平（左右）および垂直（上下）に分布することができます。

## ドキュメントの中央

[ドキュメントの中央] オプションは、選択したコンポーネントをキャンバスの中央に配置できます。

**注** [ドキュメントの中央] オプションを使用するには、2 つ以上のコンポーネントを選択する必要があります。

次のオプションがあります。

- 縦
- 横
- 両方

## [書式] メニューのその他のコマンド

[書式] メニューでは、次のコマンドも使用できます。

- 前面に移動  
コンポーネントを最上位のレイヤに移動します。
- 背面に移動  
コンポーネントを最下位のレイヤに移動します。
- 前に移動  
コンポーネントを 1 つ前のレイヤに移動します。

- 後ろに移動  
コンポーネントを 1 つ後ろのレイヤに移動します。

## グリッド ツールの使用

[表示] メニューの [グリッド] コマンドは、コンポーネントをキャンバス上に配置するときには便利なレイアウト ツールを提供します。グリッドのカスタマイズでは、次のオプションが使用できます。

- グリッドを表示  
このオプションは、グリッドの表示を制御します。
- グリッドに配置  
このオプションは、選択したコンポーネントをグリッド線に合わせて整列します。
- 上下の間隔  
このオプションは、グリッドの上下の間隔をピクセル単位で設定します。
- 左右の間隔  
このオプションは、グリッドの左右の間隔をピクセル単位で設定します。

## Xcelsius でのバックアップ ファイルの作成

[ツール] メニューの [オプション] コマンドを使用すると、Xcelsius で作業中の XLF ファイルのバックアップ バージョンを作成する方法を設定できます。

- バックアップ XLF ファイルを作成する必要がある場合は、[保存オプション] 領域のすべてのオプションの選択が解除されていることを確認してください。
- バックアップ XLF ファイルを作成する場合は、[常にバックアップ コピーを作成] を選択します。
- バックアップ XLF ファイルを特定の間隔で作成する場合は、[次の間隔で自動的にバックアップを保存] を選択し、間隔を設定します。



## ビジュアライゼーションのプレビュー

Xcelsius を使用すると、最終的なビジュアライゼーションを必要に応じて何度でもプレビューできます。コンポーネント、色、レイアウトをさまざまに組み合わせてみることで、作成したビジュアライゼーションを要件に合わせることができます。

デザイン ビューとプレビューを切り替えるには、[プレビュー] ボタンを使用します。[プレビュー] では、公開された状態でのビジュアライゼーションと対話できます。

## Xcelsius ビジュアライゼーションのサンプルの表示

導入した Xcelsius に含まれるビジュアライゼーションのサンプルは、一部のコンポーネントの動作方法を示します。

### ▶ Xcelsius ビジュアライゼーションのサンプルを表示する

1. [ファイル] メニューの [サンプル] をクリックします。  
[サンプル] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [カテゴリ] ボックスで、[User Guide Samples] をクリックします。
3. [アイテム] ボックスで、サンプルを表示したいコンポーネントをクリックします。  
コンポーネントの説明とビジュアライゼーションのプレビューが表示されます。
4. ビジュアライゼーションのサンプルを表示するには、[OK] をクリックします。

## 動的および静的なデータ ソース

コンポーネントには、スプレッドシートに関連した次の 2 つのレベルの対話機能があります。

- 動的
- 静的

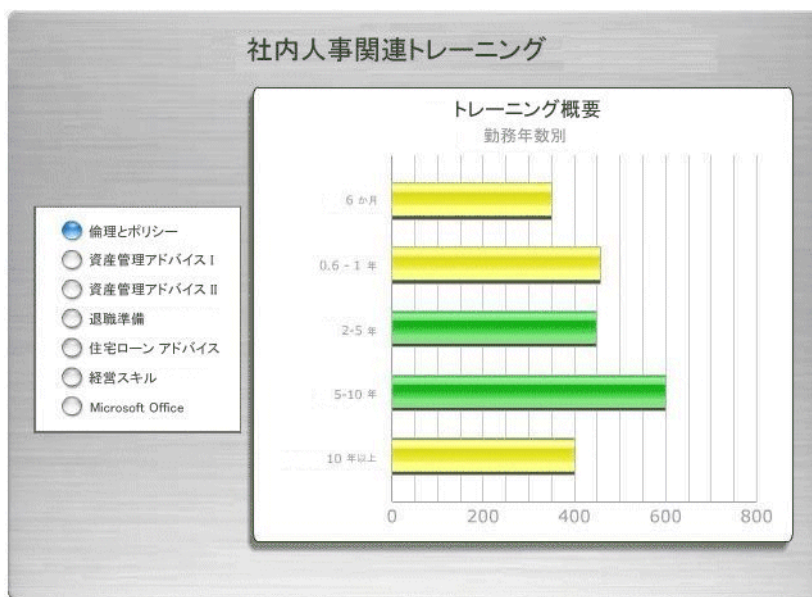
## 動的データ ソース



シミュレーション プロセス中にセルの内容が変化した場合、Xcelsius によってその内容が更新されます。

### 例

ラジオ ボタンやチャートを含むビジュアライゼーションを作成し、複数の人事トレーニング プログラム コースの進捗状況を示します。各コースに同じチャートを使用する必要があるため、動的で簡単なビジュアライゼーションを作成します。次のような外観になります。



動的データ ソースを使用すると、ラジオ ボタンを選択するごとにチャート データが変化します。ラジオ ボタンは、チャートにリンクされている範囲に、各コースのデータを含む行を挿入します。チャートには、データ ソース上の動的リンクが含まれるため、チャートの内容はラジオ ボタンを選択するたびに変わります。詳細については、45 ページの「セレクト コンポーネントの使用」を参照してください。

## 静的データ ソース



シミュレーション中にセルの内容が変化しない場合、Xcelsius はその内容を更新しません。

### 例

チャートとラジオ ボタン コンポーネントを使用する人事チャートでは、動的な機能性を保持しながら、同時に静的なデータソースを持つことができます。[表示ステータス キー] のインポートされた値によって、チャートの表示が決定されます。ビジュアライゼーションを実行したときにチャートが表示されるように値を設定できます。[表示ステータス キー] 値は、チャートが常に表示されるように固定値になっています。たとえば、チャートを値 0.25999 を含む [表示ステータス キー] セルにリンクし、[表示ステータス キー] ボックスの値を手動で変更すると、[表示ステータス] 値が一致しないので、ビジュアライゼーションを実行したときにチャートは非表示になります。

## テンプレートの使用

Xcelsius には、新しいビジュアライゼーションの作成に使用できる一連のテンプレートがあります。既存の Xcelsius テンプレートを使用することも、ゼロからビジュアライゼーションを作成してテンプレートとして保存することもできます。

テンプレートの作成と使用に関する詳細は、[71 ページの「テンプレートの作成」](#)を参照してください。

## グローバル スタイル

グローバル スタイルは、新しいコンポートで使用するデフォルトのビジュアライゼーションを変更できる表示パラメータのセットです。また、グローバル スタイルを既存のビジュアライゼーションに適用して、全体的な表示を変更することもできます。[スタイル] パラメータは、次の 3 つのカテゴリに分かれます。


- スタイル
- テキストとラベル
- ボタンと背景

[スタイル] カテゴリには、マーカー、線、枠線があります。


すべてのコンポーネントは通常、特定の部品で構成されるように定義され、これらの部品は、上記のカテゴリに分類できます。上記のカテゴリが全体として定義されると、グローバル スタイルが作成されます。パラメータは、色パラメータのみで構成され、フォント、テキストの書式、およびアラートには影響しません。

**注** グローバル スタイルは、Xcelsius オーサリング ファイルまたは XLF ファイルでは転送されません。XLF を開いても、XLF で使用されるグローバル スタイルは、それを開いているマシン上にロードされません。XLF が使用するグローバル スタイルが使用できない場合、ビジュアライゼーションの既存のコンポーネントは引き続きそのスタイルを使用しますが、新しいコンポーネントには適用できません。

詳細については、[72 ページの「グローバル スタイルの使用」](#)を参照してください。



## Crystal Xcelsius のビジュアライ ゼーションの作成と更新



# 2

章



# 概要

この章では、Xcelsius ビジュアライゼーションの作成と維持の手順について説明します。

## ビジュアライゼーションの作成

### ▶ Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. ビジュアライゼーションで使用するデータを含む Microsoft Excel ファイルをインポートします。
2. Xcelsius コンポーネントをスプレッドシートにリンクします。
3. ビジュアライゼーションをプレビューし、公開します。

## 手順 1: Excel ファイルのインポート

Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する最初の手順として、ビジュアライゼーションで使用するデータを含む既存の Microsoft Excel ファイルをインポートします。

### ▶ スプレッドシートを Excel から Xcelsius にインポートする

1. [データ] メニューの [モデルのインポート] をクリックします。  
[モデルのインポート] ダイアログ ボックスが開きます。



**ヒント** [モデルのインポート] ダイアログ ボックスは、ツールバーの [モデルのインポート] をクリックすることによってもアクセスできます。



2. [参照] ボタンをクリックします。  
[ファイルを開く] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. Excel ファイルを選択して [開く] をクリックします。  
[モデルのインポート] ダイアログ ボックスに戻ります。
4. [OK] をクリックします。

**注** Xcelsius アプリケーションに、Excel ファイルが元のファイルのコピーとしてインポートされます。続けて元のファイルに対する変更や修正ができます。その後、Excel ファイルを再インポートします。詳細な手順については、[32 ページの「ビジュアライゼーション用のデータの更新」](#)を参照してください。

## 手順 2: データ ソースの選択

Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する 2 番目の手順として、コンポーネントにリンクされたデータ ソースを選択します。この手順では、インポートした Excel ファイルのセルを Xcelsius コンポーネントに割り当てます。

### 例

縦棒チャートを使って店舗別の売上げを、水平スライダを使って単位価格を表示する必要があるとします。

#### ▶ コンポーネントのデータ ソースを選択する

1. コンポーネントをキャンバス上に配置します。
2. 縦棒チャート コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。

詳しい説明は、17 ページの「[コンポーネントのプロパティ] パネルの使用」を参照してください。



3. [データ範囲] セル セレクタ ボタンをクリックします。
4. インポートしたスプレッドシートから、縦棒チャート用のデータを含むセルの範囲を選択し、[OK] をクリックします。
5. チャートのタイトルおよびサブタイトルを入力するか、リンクします。
6. 軸名とカテゴリ ラベルを入力するか、リンクします。
7. 水平スライダ コンポーネントをクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
8. [リンク先セル] セル セレクタ ボタンをクリックします。
9. インポートしたスプレッドシートから単位価格のセルを選択し、[OK] をクリックします。

## 手順 3: ビジュアライゼーションのプレビューと公開

3 番目の手順として、ビジュアライゼーションをプレビューし、公開します。ライブのビジュアライゼーションのプレビューを参照し、シミュレーションの結果をテストし、必要な調整を行い、最後に、ビジュアライゼーションを含む SWF または Flash アニメーションを生成することができます。これらの作業後、ビジュアライゼーションを公開および配布できます。

ツールバーの[プレビュー]ボタンを使用して、デザイン ビューとプレビューを切り替えることができます。プレビューでは、公開された状態でのビジュアライゼーションと対話できます。

プレビューの結果に問題がなければ、ビジュアライゼーションを公開できます。次のいずれかの方法を使用して、ビジュアライゼーションを公開できます。

- Macromedia Flash (SWF) としてエクスポートする
- HTML としてエクスポートする
- Microsoft PowerPoint にエクスポートする
- Adobe PDF としてエクスポートする
- Microsoft Outlook を使用してコンテンツを電子メールで送信する
- Microsoft Word にエクスポートする

詳細については、[75 ページの「Crystal Xcelsius のビジュアライゼーションのエクスポート」](#)を参照してください。

## ビジュアライゼーション用のデータの更新

[ファイル] メニューの [エクスポート設定] コマンドを使用して、データの更新方法を指定できます。Excel ファイルを再インポートしてビジュアライゼーション全体を置換したり、カスタマイズを加えた持続可能なデータ置換方法を作成したりできます。ビジュアライゼーションのデータ更新では、次のオプションが使用できます。

- 現在の Excel データを使用  
このオプションは、現在インポートされているビジュアライゼーションに存在するデータをそのまま使用します。これはデフォルト オプションです。
- 別の Excel ファイルを使用  
このオプションでは、エクスポート時に使用したデータとは異なる Excel ファイルを指定できます。

## Excel ファイルの再インポート

ビジュアライゼーションの作成中に Excel ファイルを Xcelsius に再インポートする必要が生じる場合があります。これは通常、スプレッドシートにデータを追加したり、それを変更したりする場合です。Xcelsius は元の Excel ファイルのコピーを作成し、そのコピーをインポートするので、元の Excel ファイルを変更すると、それを再インポートする必要が生じます。



Excel ファイルを再インポートする際、行、列またはデータを挿入した場合は、以前に作成したリンクは失われるので注意してください。Xcelsius はリンクを静的な参照として維持します。たとえば、最初にチャートを A2:H2 の範囲にリンクし、Excel ファイルを変更した後にチャート範囲が A3:H3 になる場合、Excel ファイルを再インポートした後でリンクを手動で調整する必要があります。リンクを手動で変更するまで、Xcelsius は範囲 A2:H2 をそのまま使用します。

### ▶ Excel ファイルを再インポートする

1. [表示] メニューの [モデルのインポート] をクリックします。

**ヒント** ツールバーの [モデルのインポート] をクリックすることによっても、Excel ファイルを再インポートできます。

2. インポートする Excel ファイルを選択します。
3. 再インポート方法を選択します。

詳細については、この手順に続く説明を参照してください。

4. [OK] をクリックします。

[モデルのインポート] ダイアログ ボックスには、再インポートされたスプレッドシートのデータがビジュアライゼーション内の既存のリンクと対話する方法を指定するための次のオプションがあります。

- データソースの最新表示

このアクションでは、選択したスプレッドシートがインポートされます。Excel ファイルが同じか、若干の変更のみで、以前のリンクをすべて維持する必要がある場合に、このオプションを使用します。以前にスプレッドシートに対して確立されたすべてのリンクは保存されます。ただし、最後のインポート以降、行、列、またはデータを挿入、削除、または変更した場合は、リンクが影響を受ける可能性があります。ビジュアライゼーションを保存する前にリンクを確認してください。

- データソースのクリア

このアクションでは、選択したスプレッドシートがインポートされ、以前に確立されたすべてのリンクは失われます。Excel ファイルが大幅に異なり、すべてのリンクを削除する必要がある場合に、このオプションを使用します。

- スプレッドシートの書式を最新表示

このオプションは、[データ ソースの最新表示] が選択されている場合のみ有効です。更新するスプレッドシートの書式設定パラメータが変更された場合に、このオプションを使用します。

### 名前を変更されたシート の再インポート

名前を変更したシートがあるスプレッドシートを再インポートすると、すべてのリンクと式が失われます。警告メッセージで、次の 2 つのことが推奨されます。

- 同じシート名を使うこと
- [データ ソースのクリア] オプションを使用して再インポートすること

### [ 別の Excel ファイルを使用] オプションの使用

[別の Excel ファイルを使用] オプションを使用すると、ビジュアライゼーションが現在使用しているもの以外の Excel ファイルを使用する SWF ファイルを生成できます。

#### 例

卸価格を使用して目標の売上げを計算するビジュアライゼーションで、最初のインポート値をすべて別のセルに維持しながら、Xcelsius が 1 つのセルを更新するとします。

#### ▶ 別の Excel ファイルからのデータを置換する

1. [データ] メニューの [データ選択の置換] をクリックします。  
[データ選択の置換] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [追加] をクリックします。
3. [範囲の名前] ボックスに「卸価格」と入力します。
4. [範囲の選択] セル セレクタ ボタンをクリックします。  
インポートされたスプレッドシートと [範囲の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. [卸価格] セルを選択し、[OK] をクリックします。  
Excel スプレッドシートが再インポートされるたびに、選択されたセルのみが変更されます。  
[データ選択の置換] ダイアログ ボックスに戻ります。
6. [OK] をクリックします。
7. [ファイル] メニューの [エクスポート設定] をクリックします。  
[エクスポート設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
8. [別の Excel ファイルを使用] をクリックします。
9. [参照] ボタンをクリックし、新しいデータ ソースとして使用する Excel ファイルに移動します。

10. [ファイル] メニューの [エクスポート] をポイントし、[Macromedia Flash (SWF)] をクリックします。

新しいデータ ソースを使用する SWF ファイルが生成されます。

11. キャンバス上のビジュアライゼーションで、[データ] メニューの [データ選択の置換] をクリックします。

この機能により、Excel ファイルが再インポートされるたびに Xcelsius が変更するセルを選択できます。他のすべてのセルはそのまま維持されます。

持続可能なビジュアライゼーションが作成されました。新しい SWF は、Excel ファイルから取得できる最新の卸価格を使用します。卸価格が変更された場合に必要な作業は、新しい SWF ファイルを生成することだけです。卸価格の影響を受けない他のすべてのセルはそのまま維持されます。





# Crystal Xcelsius Designer コンポー ネントの使用



# 3

章



## 概要

この章では、Crystal Xcelsius Designer コンポーネントとその関連機能の概要を説明します。

## チャート コンポーネントの使用

チャートは種類ごとに、それぞれ異なる種類のビジュアライゼーションに適した特定の方法で機能します。

- バブル チャート

3 つの異なるパラメータに基づいてアイテムのグループまたはアイテムの系列を比較できるチャートです。このチャートには、チャート領域におけるアイテムの場所を表す X 軸と Y 軸、およびアイテムのサイズを表す Z 値があります。たとえば、このチャートを使用して市場構成を表すことができます。X 軸には産業種類別の ROI、Y 軸にはキャッシュフロー、Z 軸には市場価格を示すことができます。

- 折れ線チャート

一定期間における傾向を示すのに理想的な単一行または複数行のチャートです。このチャートは、株価や売上げ履歴などの傾向線を強調してビジュアライゼーションする場合に使用します。

- 円チャート

円全体の値として表される特定の合計値に対して、各スライスまたはアイテムの寄与率や分布を表すチャートです。円チャートは、製品別の売上げ寄与率などのビジュアライゼーションに適しています。全体的な円のサイズは、合計の売上げを表します。各スライスは、個々の製品を表します。

- XY チャート

分析を実行する際に 2 つの重要事項を必要とするデータを表示するチャートです。XY チャートには、X 値と Y 値の交点の結果として各ポイントが示されます。たとえば、XY チャートは、ある企業グループについて X 軸の ROI と Y 軸の市場価格を比較してビジュアライゼーションする場合に使用できます。

- 組み合わせチャート

値の範囲と、それらの値の傾向線を表示するのに適している、縦棒チャートと折れ線チャートの組み合わせチャートです。たとえば、組み合わせチャートは株価を調査してビジュアライゼーションする場合に使用でき

ます。折れ線系列には 1 年を通じた株価の履歴が表示され、縦棒チャートにはその株価の取引量が示されます。

- 棒チャートと縦棒チャート

一定期間または特定の範囲の値において 1 つ以上のアイテムを表示したり比較する単一棒または複数棒のチャートです。縦棒チャートは、たとえば、地域別の四半期の人員数を示してビジュアルライゼーションする場合に使用できます。

- 積み上げ縦棒チャートと積み上げ棒チャート

一定期間において複数の変数を比較するチャートです。積み上げ棒チャートは、1 つの変数の上に別の変数を追加することによって 1 つ以上の変数を比較します。このチャートは、マーケティング コスト、一般コスト、管理コストなど一定期間における複数の変数を比較します。コスト コンポーネントはそれぞれ異なる色で表され、各部分はそれぞれ別の変数を表します。合計の棒のサイズは、合計コストを表します。

- 面チャート

垂直軸および水平軸を含む標準のチャートです。水平軸に示される各ポイントは、データ ポイントを表します。各データ ポイントの実際の値は、垂直軸に対してプロットされます。系列ごとに、プロットされたポイントと水平軸をつなげて作成される領域に色が付きます。このチャートは、株価や売上げ履歴などの傾向線を強調してビジュアルライゼーションする場合に使用します。

- レーダー チャートと塗りつぶしレーダー チャート

チャートの中央から外側に向かう放射状の軸を含むチャートです。これらのチャートには、複数の軸を含めることができます。これらのチャートは、データの多次元セットをプロットする場合に役立ちます。塗りつぶしレーダー チャートでは、各軸のポイントをつなげて作成される形状が色で塗りつぶされます。たとえば、レーダー チャートを使用して、株価のさまざまな側面を比較できます。価格、量、価格対収益率、およびその他の関連データをそれぞれの軸で表すことができます。

- 積み上げ面チャート

垂直軸および水平軸を含む標準のチャートです。水平軸に示される各ポイントは、データ ポイントを表します。データ ポイントの実際の値は垂直軸に対してプロットされ、各系列が合計値に追加されます。積み上げ面チャートを使用して、複数の製品の売上げだけでなく、すべての製品の合計売上げやその合計売上げに対する各製品の寄与率を比較できます。

- OHLC チャートとローソク足チャート

OHLC (open-high-low-close) チャートとローソク足チャートは主に株価データの表示に使用します。各マーカーは 4 つの値を表し、これらの値は OHLC チャートではマーカーに接続された線で、ローソク足チャートでは色で表されます。Open には、株価の始値が表示されます。High には、その日の最高値が表示されます。Low には、その日の最安値が表示されます。Close には、株価の終値が表示されます。

## チャート の作成方法

Xcelsius でのチャートの作成方法は、Excel でのチャートの作成方法と似ています。最小要件は、隣接するセルの範囲の値のリストを作成することです。その後、タイトル、サブタイトル、軸のタイトル、系列名などの基本情報を使用してチャートを拡張できます。

### 例

自動車販売会社の店舗あたりの売上げを示す Xcelsius ビジュアライゼーションを作成するには、隣接するセルの範囲にこの情報が含まれている Excel ファイルが必要です。

### ▶ チャート コンポーネントを含む Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. Excel スプレッドシートを Xcelsius にインポートします。  
Xcelsius へのスプレッドシートのインポートについては、[20 ページの「\[モデルのインポート\] ボタンの使用」](#)を参照してください。
2. 縦棒チャートをキャンバス上に配置します。
3. 縦棒チャート コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
4. [チャートのタイトル] ボックスにチャートのタイトルを入力します。  
**ヒント** また、[チャートのタイトル] セル セクタ ボタンをクリックして、インポートしたスプレッドシートからチャートのタイトルを選択することもできます。
5. [チャートのサブタイトル] ボックスにチャートのサブタイトルを入力します。  
**ヒント** また、[チャートのサブタイトル] セル セクタ ボタンをクリックして、インポートしたスプレッドシートからチャートのサブタイトルを選択することもできます。



6. [データ範囲] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートから値の範囲を選択します。

データ範囲は、チャート コンポーネントで表される値のリストです。チャート コンポーネントに表示する値の範囲全体を選択します。

7. [カテゴリ (X) 軸のタイトル] ボックスに軸の名前を入力します。

**ヒント** また、[カテゴリ (X) 軸のタイトル] セル セレクタ ボタンをクリックして、インポートしたスプレッドシートから軸の名前を選択することもできます。

8. [値 (Y) 軸] ボックスに軸の名前を入力します。

**ヒント** また、[値 (Y) 軸] セル セレクタ ボタンをクリックして、インポートしたスプレッドシートから軸の名前を選択することもできます。

**注** 場合によっては、複数の棒チャートを作成する必要があります。これを行うには、[系列] オプションを選択し、1 つ以上の系列を選択します。各系列は、同じ色で表される棒の 1 つのグループを表します。

## ビジュアライゼーションのサンプル: ドリルダウン チャート機能

Xcelsius チャートでは、セレクタと同様の機能を実行できます。チャートにセレクタ機能を含めると、ドリルダウン チャート機能を持つビジュアライゼーションを作成できます。

この例では、複数の支店の年間売上げデータを含む円チャートを表示するビジュアライゼーションを作成します。ユーザーが特定の支店の円のスライスをクリックすると、縦棒チャートにその支店の月間売上げデータが表示されます。

**注** このビジュアライゼーションに使用するスプレッドシート、サンプルの XLF ファイル、およびサンプルの SWF ファイルは、次の場所にあります。

C:\Program Files\Business Objects\Crystal Xcelsius Designer 4.5\samples\User Guide Samples

### ▶ ドリルダウン機能を持つチャートを含む Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. Excel スプレッドシートを Xcelsius にインポートします。

この例では、スプレッドシートにさまざまな支店の月間売上げデータが含まれている必要があります。

Xcelsius へのスプレッドシートのインポートについては、[20 ページの「\[モデルのインポート\] ボタンの使用」](#)を参照してください。

2. 円チャート コンポーネントをキャンバス上に配置します。
3. 縦棒チャート コンポーネントを、キャンバスの円チャート コンポーネントの下に配置します。
4. 円チャート コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
5. [データ範囲] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートからデータ範囲を選択します。  
この例では、個々の支店の合計売上げを含むセルを選択します。
6. [ドリルダウン] タブで、[ドリルダウンを有効にする] をクリックします。  
これで、円チャート コンポーネントのドリルダウン オプションを設定できるようになります。
7. [挿入値] リストで、[行] をクリックします。  
これによって、[出力先] 枠に配置される各アイテムのデータ行を挿入できます。
8. [値の挿入先] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートからセルの空の行を選択します。  
**注** セルは空にする必要があります。空でない場合、ドリルダウン機能は使用できません。
9. [ソース データ] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートからソース データを選択します。  
この例では、その範囲のセルに支店の月間売上げデータが含まれている必要があります。
10. 円チャート コンポーネントの [プロパティ] パネルを閉じます。
11. 縦棒チャート コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
12. [データ範囲] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートからセルの空の行を選択します。  
この例では、円チャート で選択した支店の月間売上げに関するデータが行に挿入されるため、その範囲のセルを空にする必要があります。
13. [チャートのタイトル] セル セレクタ ボタンをクリックし、空のセルを選択します。  
この例では、円チャート コンポーネントで選択したチャートのタイトルがこのセルに挿入されるため、セルを空にする必要があります。
14. 縦棒チャート コンポーネントの [プロパティ] パネルを閉じます。

15. [プレビュー] ボタンをクリックして、円チャート コンポーネントと縦棒チャート コンポーネントの相互関係を表示します。

円チャートのスライスをクリックすると、縦棒チャートが更新されて、選択した支店の月間売上げデータが表示されます。

## 単一値コンポーネントの使用

単一値コンポーネントを使用して、ビジュアルライゼーションにユーザーとの対話を追加できます。単一値とは、スプレッドシート内の単一のセルにコンポーネントがリンクされていることを意味します。その後、このコンポーネントを使用してそのセルの値を変更したり表したりできます。

各コンポーネントを使用して、ビジュアルライゼーションの対話をカスタマイズできます。

- **ダイヤル**

入力コンポーネントです。ダイヤルは、変更して他のコンポーネントに影響を与えることができる変数を表します。たとえば、単位価格を表すことができます。

- **スライダ**

入力コンポーネントです。スライダは、変更して他のコンポーネントに影響を与えることができる変数を表します。たとえば、単位価格を表すことができます。

- **進捗バー**

出力コンポーネントです。進捗バーは、変化する値を表し、その値に応じて進捗バーの領域が塗りつぶされます。

- **メーター**

出力コンポーネントです。メーターは、リンク先の Excel セルでの変更の結果を表します。式を含むセルにメーターをリンクすると、値が変更されるたびにその変更がメーターにも反映されます。

- **値**

式を含むセルにバインドされている場合は入力、値を含むセルにバインドされている場合は出力です。値コンポーネントは、Excel ファイルの単一のセルを表します。

- **スピン ボタン**

入力コンポーネントです。スピン ボタンは、変更して他のコンポーネントに影響を与えることができる変数を表します。ユーザーは、上矢印および下矢印をクリックするか、テキスト ボックスに値を入力して、スピン ボタンと対話できます。

- 再生ボタン

入力コンポーネントです。再生ボタンを使用して、ビジュアライゼーション内のセルの値を増やします。たとえば、再生ボタンを、人員を含むセルにリンクさせることができます。人員数が 1、2、3 またはそれ以上ずつ増加していく場合どうなるでしょうか。再生ボタンによって初期の人員値を取得し、その値を体系的に増やすことができます。

## 入力と出力

単一値コンポーネントは入力コンポーネントと出力コンポーネントに分類されますが、任意の単一値コンポーネントを使用して、それを入力または出力として表すことができます。

ただし、実際には、単一値コンポーネントは、ユーザーとの対話が許可される場合は入力、リンク先のセルを表す場合は出力となります。セルにどの種類の式を含めても、コンポーネントは出力とみなされます。セルに式が含まれていない場合は、入力として表されます。

たとえば、式を含まないセルにスライダをリンクしている場合は、スライダオブジェクトをドラッグしてからセル値を変更して、スライダ値を変更できます。式を含むセルにリンクされているスライダがある場合、そのスライダ値は変更できません。

## ビジュアライゼーションのサンプル：値コンポーネント

店舗責任者は、通常一定期間に販売される特定のレベルの製品に対する X 製品の価格の増減の影響を表したいと考えています。

変更する変数は、単位価格です。このセルは、すべての店舗の売上げに影響します。販売数量は、一定期間に販売された製品の標準数量です。売上げは、数量 x 価格で計算されます。

**注** このビジュアライゼーションに使用するスプレッドシート、サンプルの XLF ファイル、およびサンプルの SWF ファイルは、次の場所にあります。

C:\Program Files\Business Objects\Crystal Xcelsius Designer 4.5\samples\User Guide Samples

### ▶ 値コンポーネントとチャート コンポーネントを含む Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. スプレッドシートを Xcelsius にインポートします。

Xcelsius へのスプレッドシートのインポートについては、[20 ページの「\[モデルのインポート\] ボタンの使用」](#)を参照してください。

2. キャンバスの上に縦棒チャート コンポーネントを配置して、設定します。  
縦棒チャート コンポーネントの設定については、38 ページの「[チャート コンポーネントの使用](#)」を参照してください。
3. 値コンポーネントをキャンバスの左上隅に配置します。
4. 値コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
5. [リンク先セル] セル セレクト ボタンをクリックして、インポートしたスプレッドシートから“単位価格”セルを選択します。
6. 値コンポーネントの表示方法をカスタマイズします。

値コンポーネントをドラッグして、単位価格を増減できます。値コンポーネントをダブルクリックすると、値を入力できます。値コンポーネントが売上げに影響するセルにリンクされているため、チャートは動的に変更されて店舗ごとの新しい売上げが反映されます。

## セレクト コンポーネントの使用

セレクト コンポーネントの機能を使用して、複数のセレクトを含むビジュアルイゼーションを作成できます。

各セレクトを次の他のコンポーネントと組み合わせて動的なビジュアルイゼーションを作成できます。

- コンボ ボックス

クリックするとアイテムの縦型のリストがドロップ ダウン表示される標準のユーザー インターフェイス コンポーネントです。ユーザーは、このリストからアイテムを選択できます。

- リスト ボックス

ユーザーが縦型のリストからアイテムを選択できる標準のユーザー インターフェイスです。

- ラベル メニュー

このコンポーネントを使用して、ユーザーは縦型または横型のリストからアイテムを選択できます。

- ラジオ ボタン

このコンポーネントを使用して、ユーザーは縦型または横型のアイテムグループからアイテムを選択できます。

- 魚眼ピクチャ メニュー

魚眼ピクチャ メニューでは、ユーザーはピクチャまたはアイコンのセットから選択できます。メニュー内の各アイテムの上でマウスを動かすと、アイテムが拡大表示されます。マウスをアイテムの中心に近づければ近づけるほど、アイテムが拡大されます。魚眼レンズと同様の効果を得られます。

- スライド ピクチャ メニュー

スライド ピクチャ メニューでは、ユーザーはアイコンまたはピクチャのセットから選択できます。ユーザーは矢印を使用して複数のアイコンをスクロールできます。または、ユーザーがマウスを動かすと複数のアイテムがスクロールされるようにメニューを設定できます。選択が行われるたびに、その選択アイテムに対応するデータがスプレッドシート内の範囲に挿入されます。メニュー コンポーネントはすべて、ビジュアルライゼーションにナビゲーション機能を提供するために使用されます。

- テーブルおよびリスト ビュー

テーブル コンポーネントは、Excel ファイルからのセルの任意のグループの WYSIWYG 表現です。各行で、複数のアイテムを選択できます。リスト ビュー コンポーネントにはテーブル コンポーネントと同じ機能がありますが、ユーザーはエクスポートされた SWF ファイルで列を並べ替えたり、列の幅を調整したりできます。

**注** テーブル コンポーネントは、表示コンポーネントとしてだけでなく、セレクト コンポーネントとしても使用できます。表示コンポーネントの場合、テーブルはスプレッドシート内のセルの範囲のグラフィック表現になります。[表示データ] セル セレクト ボタンをクリックし、スプレッドシートからセルの範囲を選択します。テーブルをセレクト コンポーネントとして使用するには、[表示データ] 範囲を設定した後に、[挿入オプション] を [行] に設定します。

- チェック ボックス

ユーザーが 2 つの状態（チェック付きとチェックなし）を切り替える標準のユーザー インターフェイス コンポーネントです。

**注** チェック ボックス コンポーネントを使用する場合は、チェックの付いた状態とチェックのない状態の切り替えを制御するための設定を指定する必要があります。[ソース データ] 参照ボタンをクリックし、チェック ボックス コンポーネントをチェックが付いた状態とチェックのない状態のどちらで表示するかを制御する値を設定します。[挿入先] セル セレクト ボタンをクリックし、チェック ボックスがチェックが付いた状態とチェックのない状態のどちらであるかを反映する値を表示する空のセルを選択します。

- アイコン

アイコンは、モバイル セレクトまたはオブジェクトとして使用できます。アイコンは 1 つのセルに含まれている値を表すことができ、その目標値や予算値と比較できます。アイコンは、その値によって色が変わります。詳細については、

69 ページの「アラート」をご覧ください。同時に、アイコンを使用して他のコンポーネントをアクティブにしたり、表示したりできます。詳細については、66 ページの「動的ディスプレイの機能」をご覧ください。

**注** アイコン コンポーネントを使用する場合は、チェックが付いた状態とチェックのない状態の切り替えを制御するための設定を指定する必要があります。[ソース データ] 参照ボタンをクリックし、アイコン コンポーネントをチェックが付いた状態とチェックのない状態のどちらで表示するかを制御する値を設定します。[挿入先] セル セレクト ボタンをクリックし、アイコン コンポーネントがチェックが付いた状態とチェックのない状態のどちらであるかを反映する値を表示する空のセルを選択します。

- 表示切り替えボタン

ユーザーが 2 つの状態（オンとオフ）を切り替えることができる標準のユーザー インターフェイス コンポーネントです。

- フィルタ

フィルタ コンポーネントは、多くの共通アイテムを共有するデータの範囲を取得し、重複するレコードがないようにコンテンツをフィルタします。

- アコーディオン メニュー

アコーディオン メニューは、ユーザーがまずカテゴリを選択し、次にその特定のカテゴリ内のアイテムから選択することができる 2 つのレベルのメニューです。

- ソース データ コンポーネント

ビジュアルなインターフェイスのないコンポーネントです。ユーザーは、コンポーネントの選択されたインデックスの値を変更して、データを他のセルにプッシュできます。

- 再生セレクト

再生セレクトは、定義済みの範囲の 1 つの行または列を、定義した [挿入先] セルに順番に挿入します。[挿入先] セルをチャートにリンクして、再生セレクトが行または列を挿入するたびに、チャートのデータが変更されるようにします。再生セレクト コンポーネントは、ユーザーが各選択アイテムをクリックしなくてもデータを表示できるムービー効果を使用して大量のデータを表示できます。



**注** 各セレクト コンポーネントの [プロパティ] パネルに表示される [情報] ボタンでは、セレクト コンポーネントの機能を説明するアニメーションが表示されます。

## ビジュアライゼーションのサンプル：フィルタ コンポーネント

フィルタ コンポーネントは、大量のデータを示すことができるセレクトです。フィルタ コンポーネントを使用して、2 つ以上の相互に関連付けられたコンボ ボックスを使用できるドリル ダウン ナビゲーションを含むビジュアライゼーションを作成できます。

フィルタ コンポーネントは、多くの共通アイテムを共有するデータの範囲を取得し、重複するレコードがないようにコンテンツをフィルタします。フィルタ コンポーネントで選択が行われると、対応するデータが指定した [挿入先] セルに挿入されます。[挿入先] セルは、チャート コンポーネントのソース データとして使用できます。

たとえば、フィルタ コンポーネントを使用して、ある製品グループの営業担当者あたりの売上げを、新規顧客と既存の顧客に分けて表示することができます。

**注** このビジュアライゼーションに使用するスプレッドシート、サンプルの XLF ファイル、およびサンプルの SWF ファイルは、次の場所にあります。

C:\Program Files\Business Objects\Crystal Xcelsius Designer 4.5\samples\User Guide Samples

### ▶ フィルタ コンポーネントとチャート コンポーネントを含む Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. Excel スプレッドシートを Xcelsius にインポートします。

Xcelsius へのスプレッドシートのインポートについては、[20 ページの「\[モデルのインポート\] ボタンの使用」](#)を参照してください。

2. フィルタ コンポーネントをキャンバスが一番上に配置します。
3. フィルタ コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
4. [ソース データ] セル セレクト ボタンをクリックし、ビジュアライゼーションに含めるすべてのデータを選択します。

この例では、その範囲のセルにフィルタされたデータおよびフィルタに使用されたデータが含まれます。

5. [挿入先] セル セレクト ボタンをクリックし、セルの空の行を選択します。  
この例では、フィルタ コンポーネントで選択した内容に対応するデータがセルの範囲に挿入されるため、その範囲のセルを空にする必要があります。
6. [フィルタの数] ボックスで値を調整します。  
この例では、“製品”、“営業担当者” および“アカウント タイプ”の3つのフィルタを設定します。



7. [タイトル] セル セレクト ボタンをクリックし、ビジュアライゼーションのタイトルを含むセルを選択します。
8. [プロパティ] パネルを閉じます。
9. 棒チャート コンポーネントを、キャンパスのフィルタ コンポーネントの下に配置します。

棒チャート コンポーネントの設定については、38 ページの「[チャート コンポーネントの使用](#)」を参照してください。

## サンプルのビジュアライゼーション：アコーディオンメニュー コンポーネント

アコーディオン メニューは、ユーザーがまずカテゴリを選択し、次にそのカテゴリ内のアイテムから選択することができる 2 つのレベルのメニューです。

カテゴリが選択されると、カテゴリ名が定義した [カテゴリの挿入先] セルに挿入されます。選択されたカテゴリが展開されて、そのカテゴリに固有のアイテムのリストが表示され、他のカテゴリは折りたたまれます。カテゴリ内でアイテムが選択されると、対応するソース データが定義した [アイテムの挿入先] セルに挿入されます。

カテゴリのリストまたは 1 つのカテゴリ内のアイテムのリストが使用可能なスペースよりも大きくなった場合は、スクロール バーが自動的に追加され、使用可能なアイテムをすべてスクロールできるようになります。

たとえば、地域別に編成された会社のすべての営業担当者の売上げデータを表示するビジュアライゼーションを作成できます。

**注** このビジュアライゼーションに使用するスプレッドシート、サンプルの XLF ファイル、およびサンプルの SWF ファイルは、次の場所にあります。

C:\Program Files\Business Objects\Crystal Xcelsius Designer 4.5\samples\User Guide Samples

### ▶ アコーディオン メニュー コンポーネントとチャート コンポーネントを含む Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. Excel スプレッドシートを Xcelsius にインポートします。  
Xcelsius へのスプレッドシートのインポートについては、20 ページの「[\[モデルのインポート\] ボタンの使用](#)」を参照してください。
2. アコーディオン メニュー コンポーネントをキャンパスの左側に配置します。
3. 縦棒チャート コンポーネントをキャンパスの右側に配置します。

4. アコーディオン メニュー コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
5. [追加] をクリックしてカテゴリを追加します。  
この例では、地域ごとに 1 つのカテゴリを作成します。
6. [名前] セル セレクト ボタンをクリックし、最初の地域名を選択します。  
**注** [名前] ボックスに地域名を入力することもできます。
7. [アイテム] セル セレクト ボタンをクリックし、特定のカテゴリの下に一覧表示するアイテムを選択します。  
この例では、その範囲のセルに選択した地域内の営業担当者の名前や識別番号が含まれている必要があります。
8. [ソース データ] セル セレクト ボタンをクリックし、カテゴリ内のアイテムに対応するデータを選択します。  
この例では、その範囲のセルに選択した地域の営業担当者の売上げデータが含まれている必要があります。
9. 地域ごとに手順 5 ～ 8 を繰り返します。
10. [アイテムの挿入先] セル セレクト ボタンをクリックし、セルの空の行を選択します。  
この例では、選択したカテゴリのデータをセルの範囲に挿入できるように、その範囲のセルを空にする必要があります。セルの範囲は、挿入されるデータを含むのに十分な大きさであることが必要です。
11. [プロパティ] パネルを閉じます。
12. 縦棒チャート コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
13. [データ範囲] セル セレクト ボタンをクリックし、セルの空の行を選択します。  
この例では、アコーディオン メニュー コンポーネントで選択した内容に対応するデータを範囲に挿入できるように、その範囲のセルを空にする必要があります。
14. [チャートのタイトル] セル セレクト ボタンをクリックし、アイテム列の空のセルを選択します。  
このセルには、データが表示されている営業担当者の名前または識別番号が表示されます。
15. [プレビュー] をクリックします。  
地域ごとに異なる営業担当者をクリックすると、チャートにはその特定の営業担当者の月間売上げデータが表示されます。

## ビジュアライゼーションのサンプル: スライド ピクチャ メニュー コンポーネント

スライド ピクチャ メニューは、ユーザーがアイコンまたはピクチャのセットから選択できるメニューです。ユーザーは矢印を使用して複数のアイコンをスクロールできます。または、ユーザーがマウスを動かすと複数のアイテムがスクロールされるようにメニューを設定できます。選択が行われるたびに、その選択アイテムに対応するデータがスプレッドシート内の範囲に挿入されます。

たとえば、ユーザーが製品のリストから製品を選択し、それらの製品の年間売上げデータを参照できるビジュアライゼーションを作成できます。スライド ピクチャ メニューには、ユーザーがスクロールできるサムネイル画像のセットが含まれます。ユーザーがスライド ピクチャ メニューから画像を選択すると、その製品の売上げデータが縦棒チャートに表示されます。

**注** このビジュアライゼーションに使用するスプレッドシート、サンプルの XLF ファイル、およびサンプルの SWF ファイルは、次の場所にあります。

C:\Program Files\Business Objects\Crystal Xcelsius Designer 4.5\samples\User Guide Samples

### ▶ スライド ピクチャ コンポーネントとチャート コンポーネントを含む Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. Excel スプレッドシートを Xcelsius にインポートします。

Xcelsius へのスプレッドシートのインポートについては、[20 ページの「\[モデルのインポート\] ボタンの使用」](#)を参照してください。

Excel ファイルには、ユーザーがクリックしたときにスライド ピクチャ メニューにサムネイルとして表示される画像のリストが含まれます。

2. スライド ピクチャ メニュー コンポーネントをキャンバスの一番上に配置します。
3. 縦棒チャートを、キャンバスのスライド ピクチャ メニュー コンポーネントの下に配置します。
4. スライド ピクチャ メニュー コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
5. [ラベル] セル セレクト ボタンをクリックし、スライド ピクチャ メニュー コンポーネントにラベルとして表示されるデータを含むセルを選択します。

この例では、製品のリストを選択します。

6. [URL] をクリックして [URL] セル セレクト ボタンを有効にします。

7. [URL] セル セレクト ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートから画像ファイルを含むセルの範囲を選択します。

画像ファイルを選択すると、スライド ピクチャ メニューによって images という名前のフォルダからサムネイル画像がロードされて、エクスポートされた SWF ファイルと同じ場所に保存されます。

8. [挿入オプション] リストで、動作の種類をクリックします。

この例では、[行] をクリックして、ユーザーがアイテムを選択すると、データの行が挿入されるようにします。このデータの行は、縦棒チャートのソース データになります。

9. [ソース データ] セル セレクト ボタンをクリックし、スライド ピクチャ メニュー コンポーネントで選択が行われたときに [挿入先] セルに挿入されるデータを含むセルの範囲を選択します。

この例では、その範囲のセルに製品の年間売上げデータが含まれている必要があります。

**注** [挿入オプション] リストの動作オプションの中には、[ソース データ] ボックスを使用できないものもあります。

10. [挿入先] セル セレクト ボタンをクリックし、セルの空の行を選択します。

この例では、スライド ピクチャ メニュー コンポーネントで選択した内容に対応するデータをセルの範囲に挿入できるように、その範囲のセルを空にする必要があります。

11. [プロパティ] パネルを閉じます。

12. 縦棒チャート コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。

13. [データ範囲] セル セレクト ボタンをクリックし、ラベル列のセル以外の、スライド メニュー コンポーネントの [挿入先] 範囲として選択したセルの行を選択します。

この例では、その範囲のセルにスライド ピクチャ メニューで現在選択されているアイテムの年間売上げデータが含まれている必要があります。

14. 縦棒チャート コンポーネントを設定します。

チャート コンポーネントの設定については、[38 ページの「チャート コンポーネントの使用」](#)を参照してください。

**注** ビジュアライゼーションをエクスポートする場合は、サムネイル画像が正しくロードされるように、SWF ファイルを images フォルダを含むディレクトリにエクスポートしてください。

## マップ コンポーネントの使用

マップ コンポーネントでは、地域別に表示可能な地理表現を使用してビジュアライゼーションを作成します。

マップ コンポーネントには、2 つの主要な特性があります。それは、地域ごとのデータが表示されるという点と、各地域はセレクトアとしても機能するという点です。これらの 2 つの機能を組み合わせて、ポイントを地域に渡すと、各地域のデータが表示されるビジュアライゼーションを作成できます。同時に、各地域で、追加の情報を含むデータの行を挿入できます。このデータ行は他のコンポーネント（チャート コンポーネントや単一値コンポーネントのセットなど）に表示されます。

### その動作

Xcelsius では、地域コードを使用してマップ内の各地域にデータが関連付けられます。マップ内の各地域には、それぞれ定義済みの地域コードがあります。ソース データ、表示データ、またはターゲット データが選択されると、マップ コンポーネントは、定義済みのコードを、範囲の最初の列または最初の行で検索します。コードが見つかると、一致する行または列のデータが対応する地域に関連付けられます。

デフォルトでは、USA マップは地域コードとして郵便番号の省略形を使用し、ヨーロッパのマップは ISO (International Organization for Standardization) の 2 桁の国コードを地域コードとして使用します。既存のスプレッドシートでマップ コンポーネントを使用するには、地域名を編集して各地域に関連付けられた地域コードを編集します。

**注** Excel ファイルでは、表示データ、ソース データ、挿入先範囲の各種類に対応する隣接するセルの範囲内で、州コードとデータを識別する必要があります。

## ビジュアライゼーションのサンプル：マップ コンポーネント

たとえば、小売企業の州別の売上げを示すビジュアライゼーションを作成します。この場合、ユーザーが州の上でクリックするかポイントを渡すと、その州では、履歴売上げの傾向を示す縦棒チャートを設定するためのデータの行が挿入されます。

**注** このビジュアライゼーションに使用するスプレッドシート、サンプルの XLF ファイル、およびサンプルの SWF ファイルは、次の場所にあります。

C:\Program Files\Business Objects\Crystal Xcelsius Designer 4.5\samples\User Guide Samples

#### ▶ マップ コンポーネントとチャート コンポーネントを含む Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. Excel スプレッドシートを Xcelsius にインポートします。

Xcelsius へのスプレッドシートのインポートについては、[20 ページの「\[モデルのインポート\] ボタンの使用」](#)を参照してください。

2. マップ コンポーネントをキャンバス上に配置します。
3. [地域名] セル セレクタ ボタンをクリックします。

デフォルトでは、USA マップに、アルファベット順の 48 の州および Washington D.C のリストがあります。マップを使用する前に、Excel ファイルで各州を識別するためのコードを示す必要があります。たとえば、Alabama の場合は AL、California の場合は CA を選択できます。USA マップは、Alabama のデータとして AL というコードを含むセル、および California のデータとして CA を含むセルに対応するデータを識別します。

4. [地域名] 参照ボタンをクリックし、各州が正しい州のコードにリンクされているか確認します。
5. [表示データ] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートから州コードおよび州データを選択します。
6. [ソース データ] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートから州コードおよび州データを選択します。

この手順では、マップ コンポーネントがセレクタとして機能するように設定します。

7. [挿入先] セル セレクタ ボタンをクリックし、セルの空の範囲を選択します。  
この例では、マップ コンポーネントで選択した州のデータの範囲がセルの範囲に挿入されるため、その範囲のセルを空にする必要があります。
8. 縦棒チャート コンポーネントを、キャンバスのマップ コンポーネントの下に配置します。
9. [データ範囲] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートからマップ コンポーネントの [挿入先] 範囲で選択したセルの範囲を選択します。

これによって、縦棒チャート コンポーネントには、マップ コンポーネントで選択された州のデータが表示されます。

10. 縦棒チャート コンポーネントを設定します。

チャート コンポーネントの設定については、[38 ページの「チャート コンポーネントの使用」](#)を参照してください。

## アートおよび背景コンポーネントの使用

アートおよび背景を使用して、ビジュアライゼーションを拡張できます。背景コンポーネントを使用して、画像または Flash ムービーを Xcelsius ビジュアライゼーションにインポートできます。

次のアートおよび背景コンポーネントを使用して、ビジュアライゼーションをカスタマイズできます。

- 画像コンポーネント

画像コンポーネントは、JPG 画像を表示するために使用します。JPG 画像を使用して、ロゴまたはアートワークを Xcelsius ビジュアライゼーションに追加できます。また、Flash ムービーをインポートして、ビデオ、アニメーション、およびその他の対話要素を追加することもできます。

- 楕円

ビジュアライゼーションに追加できる楕円です。

- 背景

背景は、レイアウトを補助したりよりよいデザインにするためにビジュアライゼーションに追加できる事前に作成されたアートワークです。背景を使用して仕切を作成し、関連コンポーネントのグループを指定できます。背景は、事実上どのサイズでもその効果と視覚的な整合性が維持されます。

- 折れ線

垂直線と水平線を使用して、ビジュアライゼーションを定義できます。

- 四角形

セクションの輪郭を描画したり、セクションを定義したり、またはセクションを含めるためにビジュアライゼーションに追加できる四角形です。

## スキン

各スキンには、その特定のスキンのルック&フィールを維持するために使用できるさまざまな背景があります。背景の表示オプションと組み合わせると、背景コンポーネントを使用して多様な外観にすることができます。スキンでは、コンポーネントの表示をグローバルに変更できます。

スキンを選択するには、[表示] メニューの [スキンの変更] をクリックします。[スキン] ダイアログ ボックスには、次のオプションが表示されます。

- スキンの選択

リストからスキンの名前を選択します。

- スキンのデフォルト値にリセット

このオプションは、コンポーネントで変更した内容を、選択したスキンのデフォルト値に戻す場合に選択します。このオプションをオフにすると、コンポーネントに加えた変更は維持されます。

## 画像コンポーネント の使用方法

画像コンポーネントを使用して、JPG 画像を表示します。これによって、独自のロゴやアートワークを Xcelsius ビジュアライゼーションに追加できるようになります。

**注** 標準の RGB カラーリングではなく、プログレッシブ JPG および CMYK カラーリングを使用する JPG はサポートされません。

また、Flash ムービーをインポートして、ビデオ、アニメーション、およびその他の対話要素を追加することもできます。エクスポートされた Xcelsius ビジュアライゼーションが Flash ムービーである場合は、この機能を使用して、エクスポートされた Xcelsius ビジュアライゼーションを別の Xcelsius ビジュアライゼーションに追加できます。

**注** Flash Player バージョン 7 以降には新しいセキュリティ機能が備わっているため、Xcelsius ビジュアライゼーションが外部データソースに接続できなくなることがあります。ポリシー ファイルがない場合、あるドメインの SWF ファイルは、別のドメインまたはサブドメイン上のデータにアクセスできません。また、HTTP 経由で提供される SWF ファイルは、HTTPS のサイトにあるデータにはアクセスできません。上記の場合にデータへのアクセスを許可するポリシー ファイルの作成については、Macromedia が提供する、データのロードに関するセキュリティ制限についてのオンライン記事を参照してください。

### 外部ファイルの埋め込み

外部ファイルを画像コンポーネントにインポートする際に、ファイルを埋め込むかどうかを選択できます。ファイルの埋め込みを選択した場合、そのファイルはビジュアライゼーションがエクスポートされるときに作成される SWF ファイルの一部になります。

ファイルを埋め込まない場合、ファイルは実行時に必要に応じて、エクスポートされたビジュアライゼーションにロードされます。ビジュアライゼーションがエクスポートされると、ビジュアライゼーションで使用される埋め込まれていないファイルはすべて、エクスポートされたビジュアライゼーションと名前と場所が同じフォルダに書き込まれます。ビジュアライゼーションに



よって、このディレクトリから外部画像またはムービーがロードされます。外部ファイルを正しくロードするには、ビジュアライゼーションおよびフォルダが同じディレクトリに存在している必要があります。

ファイルを埋め込むかどうかは、特定のニーズによって決まります。

ファイルを埋め込んだ場合の主な利点は以下のとおりです。

- ファイルを埋め込んだ場合は、ビジュアライゼーション全体を 1 つのファイルで配布できます。
- 再ロードが不要なため、動的ディスプレイの速度が高速化されます。
- 埋め込まれたファイルは、動的ディスプレイで非表示であってもその状態を維持します。

ファイルを埋め込まない場合の主な利点は以下のとおりです。

- 動的ディスプレイで非表示になっている場合は外部ファイルがロードされないため、実行時のパフォーマンスが向上します。
- 外部ファイルは必要なときのみロードされるので、アプリケーションのロード時間が短くなります。
- 外部ファイルが変更された場合でも、ビジュアライゼーションを再エクスポートする必要がありません。

選択するオプションに関係なく、Xcelsius では、ファイルのローカル コピーが XLF ファイルに内部で保存されます。元のファイルは、ビジュアライゼーションでアクセスされたり使用されることはありません。XLF ファイルは、そのコンテンツとともに、移動したり電子メールで送信することができます。

場合によっては、イメージのローカル コピーを使用せず、実行時に指定した URL からイメージをロードすることができます。

## ネストされた外部ファイル

Xcelsius では、ビジュアライゼーションで外部の SWF ファイルを使用できます。つまり、これらの SWF ファイルには、他の SWF ファイル、画像、XML ファイルなどの外部資産を含めることができます。相対パスで参照されている SWF で使用されている外部資産は、ホストのビジュアライゼーションの場所から使用可能にする必要があります。

たとえば、images/myImage.gif にある外部画像をロードする SWF ファイルがあり、この SWF ファイルをビジュアライゼーション内で使用すると、SWF ファイルはビジュアライゼーションの場所から images/myImage.gif にある画像をロードします。外部の SWF ファイルへの相対的なロードは行いません。

たとえば、会社のロゴを Xcelsius ビジュアライゼーションに追加できます。

### ▶ 画像コンポーネントを含む Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. 画像コンポーネントをキャンバス上に配置します。
2. 画像コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
3. インポート ] をクリックします。
4. JPG ファイルまたは SWF ファイルに移動して選択します。
5. [開く] をクリックします。

ロゴは、デフォルト サイズでビジュアライゼーションにインポートされます。これで、画像を配置してサイズを変更できます。

## その他のコンポーネントの使用

このカテゴリには、ビジュアライゼーションの拡張に使用できる多彩なコンポーネントのセットが含まれます。

### • トレンド アイコン

トレンド アイコンは、リンク先のセルの値に応じて、示す方向を変更します。

- 値が正の場合、矢印は上方向を示します。
- 値が 0 の場合、矢印は中間を示します。
- 値が負の場合、矢印は下方向を示します。

### • 対話型カレンダー

対話型カレンダー コンポーネントは、日付の選択をビジュアライゼーションに取り込むことができるセレクトアです。

### • ローカル シナリオ ボタン

これを使用して、ユーザーは Xcelsius ビジュアライゼーションの状態をそのローカル マシンに保存できます。その後、これらの状態またはシナリオは、ビジュアライゼーションを閉じた後でもすばやくロードできます。これらのシナリオはローカル マシンに保存され、ビジュアライゼーションが別のマシンで開いている場合は使用できません。

### • グリッド

コンテンツを表示する行および列のグループを表す動的なテーブルです。グリッドでは、テーブルと同様にデータを表示したり、他のコンポーネントに影響を与えるデータの変更を実行できます。

### • パネル セット

パネル セット コンポーネントは、プレゼンテーション内のファイル間を簡単に移動できる一連のフレーミング オプションです。Jpeg または SWF ファイルをパネル セット コンポーネントのフレームに埋め込み、豊富な書式設定機能を調整してビジュアライゼーションでのコンポーネントの外観をカスタマイズできます。

## ビジュアライゼーションのサンプル: 対話型カレンダー コンポーネント

対話型カレンダー コンポーネントは、日付の選択をビジュアライゼーションに取り込むことができるセレクトアです。対話型カレンダー コンポーネントを使用して、年、月、および日単位での参照ができます。対話型カレンダーには、2 つの日付選択モードがあります。オープンエンド モードでは、任意の年および月をスクロールできます。また、年と月の最小値と最大値を設定して、ユーザーがスクロールできる日付の範囲を制限することもできます。対話型カレンダーには、[日] と [日付] の 2 つの挿入オプションがあります。[日付] では、選択した日付がセルに挿入されます。挿入された値には、Excel の一般的な日付書式が設定されます。[日] では、選択した日付を表す数値が挿入されます。

たとえば、さまざまな支店と特定の月の 1 日の売上げを示すビジュアライゼーションを作成できます。チャート内にすべての支店の 1 日の売上げデータを表示します。対話型カレンダー コンポーネントでは、Insert Date 関数を使用して、VLookup 関数で使用するセルに日付値を挿入し、そのチャートのデータの範囲を設定します。日付を選択するたびに、チャートのリンク先の範囲が変わり、選択した日付の支店の売上げデータが表示されます。

**注** このビジュアライゼーションに使用するスプレッドシート、サンプルの XLF ファイル、およびサンプルの SWF ファイルは、次の場所にあります。

C:\Program Files\Business Objects\Crystal Xcelsius Designer 4.5\samples\User Guide Samples

### ▶ 対話型カレンダー コンポーネントとチャート コンポーネントを含む Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. Excel スプレッドシートを Xcelsius にインポートします。  
Xcelsius へのスプレッドシートのインポートについては、[20 ページの「\[モデルのインポート\] ボタンの使用」](#)を参照してください。
2. 対話型カレンダー コンポーネントをキャンバスの一番上に配置します。
3. 棒チャート コンポーネントを、キャンバスの対話型カレンダー コンポーネントの下に配置します。

4. 対話型カレンダー コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
5. [挿入先] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートから空のセルを選択します。

[挿入先] セルは空にする必要があります。空でない場合、対話型カレンダー コンポーネントの機能は使用できません。

日付が選択されると、[チャートのサブタイトル] フィールドにリンクされているセルに値が挿入されます。チャート コンポーネント データ セルの VLookup 関数はこの日付を使用して、“支店別 1 日の売上げ” テーブルで対応するデータを検索します。

6. [動作] タブで、対話型カレンダー コンポーネントのデフォルトの日付を設定します。

**注** [デフォルトの月]、[デフォルトの年]、および [デフォルトの日] のボックスにそれぞれの値を入力するか、隣にあるセル セレクタ ボタンをクリックしてインポートしたスプレッドシートから日付を選択し、デフォルトの日付を設定できます。

7. 対話型カレンダー コンポーネントの日付の範囲を設定します。

**注** [開始月]、[開始年]、[終了月]、および [終了年] のボックスにそれぞれの値を入力するか、隣にあるセル セレクタ ボタンをクリックしてインポートしたスプレッドシートから日付を選択し、日付の範囲を設定できます。

8. [プロパティ] パネルを閉じます。
9. 棒チャート コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
10. [データ範囲] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートからソース データを選択します。
11. [チャートのタイトル] ボックスに入力するか、隣にあるセル セレクタ ボタンをクリックしてインポートしたスプレッドシートからタイトルを選択します。
12. [チャートのサブタイトル] ボックスに入力するか、隣にあるセル セレクタ ボタンをクリックしてインポートしたスプレッドシートからサブタイトルを選択します。
13. [プレビュー] をクリックします。

対話型カレンダー コンポーネントの日付の上でクリックすると、チャート コンポーネントには、その日付のすべての支店の 1 日の売上げが表示されます。

## ローカル シナリオ ボタン コンポーネント

ローカル シナリオ ボタン コンポーネントではビジュアライゼーションの現在の状態を保存できるので、想定分析結果の保存に適しています。これらの結果またはシナリオはいくつでも保存でき、ビジュアライゼーションを閉じた後でもいつでもロードできます。

作成されるシナリオは、各ビジュアライゼーションに固有です。そのため、2つのビジュアライゼーションは、互いの妨げになることなく、同じ名前のシナリオを持つことができます。

ビジュアライゼーションは同じコンピュータ上で移動したり名前を変更したりでき、保存したシナリオにアクセスすることもできます。

プレビュー モードで保存されたシナリオは、プレビュー セッション外では保持されません。これには、PowerPoint または Outlook へのスナップショットやエクスポートも含まれます。

**注** あるコンピュータで作成したローカル シナリオを別のコンピュータに電子メールで送信したり移動した場合、ビジュアライゼーションではそのシナリオにアクセスできなくなります。

### ローカル シナリオ ボタン コンポーネントの機能

ユーザーがシナリオを保存、ロード、削除できるようにするには、ローカル シナリオ ボタン コンポーネントをビジュアライゼーションに追加します。

ユーザーは、そのビジュアライゼーションの実行中に、シナリオのオプションに対応するローカル シナリオ ボタン コンポーネント（[保存]、[ロード]、および [削除]）をクリックします。

これらのオプションのいずれか 1 つが選択されると、ダイアログ ボックスが表示されてユーザーは操作が実行できるようになります。

### Flash Player の設定

Flash Player に十分なローカルの記憶領域が割り当てられている限り、どのビジュアライゼーションにも無制限の数のシナリオを保存できます。シナリオを保存しようとしたときに、ローカルの記憶領域が足りない場合、Flash Player から記憶領域を追加で割り当てるように要求されます。追加の領域が割り当てられると、シナリオは正常に保存されます。追加の領域が割り当てられない場合、シナリオは保存されません。

シナリオを保存しようとしたときに、ローカルの記憶領域が無効になっている場合、ローカル シナリオ ボタン コンポーネントによって、ローカルの記憶領域を有効にして Flash Player 設定を自動的に開くかどうかの確認が行わ

れます。ローカルの記憶領域を有効にしてシナリオを保存するまで、シナリオは保存されません。

Flash Player 設定は、ビジュアライゼーションの任意の場所を右クリックすると開きます。

**注** Flash Player のローカルの記憶領域の量を現在使用している量よりも小さい値に設定したり、[設定しない] ボックスをオフにしてローカルの記憶領域を無効にすると、コンピュータに保存されているすべてのシナリオが消去されます。これには、他のビジュアライゼーションで作成したシナリオも含まれます。Flash Player では、シナリオを消去する前に警告が表示されます。

保存されているシナリオをロードすると、保存したときとほぼ同じ状態にビジュアライゼーションが復元されます。いくつかの表面上の例外はありますが、これらはデータのビジュアライゼーションには直接影響しません。外部の SWF ファイルの状態は、シナリオがロードされるときに復元されません。

## ビジュアライゼーションのサンプル：グリッド コンポーネント

場合によって、ビジュアライゼーションで、基になるデータを表示する従来のテーブルを使用してデータのグラフィカルな表示を補助する必要があります。これを行う 1 つの方法は、値コンポーネントを使用することです。複数の値コンポーネントを必要とするインスタンスでは、グリッド コンポーネントも使用できます。

グリッド コンポーネントは、グローバル関数に応答するために一緒にリンクされている N 個の値コンポーネントのコレクションです。たとえば、フォントのサイズを変更すると、同じフォントのサイズがグリッド コンポーネント内のすべてのセルまたは値に適用されます。

グリッド コンポーネントは、値コンポーネントと同じように機能します。値コンポーネントについては、[45 ページの「セレクト コンポーネントの使用」](#)を参照してください。

グリッド コンポーネントは、入力または出力コンポーネントとして使用できます。グリッド内の各配列値の上にポインタを置いて、基になるデータを変更できます。

たとえば、会社の支店別売上げを表示するビジュアライゼーションを作成するには、チャート コンポーネントの基になるデータを表示するグリッド コンポーネントを配置します。

**注** このビジュアライゼーションに使用するスプレッドシート、サンプルの XLF ファイル、およびサンプルの SWF ファイルは、次の場所にあります。

C:\Program Files\Business Objects\Crystal Xcelsius Designer 4.5\samples\User Guide Samples

### ▶ グリッド コンポーネントを Xcelsius ビジュアライゼーションに追加する

1. グリッド コンポーネントをキャンバス上に配置します。
2. グリッド コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
3. [リンク先セル] セル セクタ ボタンをクリックし、ビジュアライゼーションの [挿入先] 行とチャート コンポーネントの X 軸値を含む行を選択します。

この例では、その範囲のセルに年の名前が含まれている必要があります。

チャート コンポーネントおよびグリッド コンポーネントを使用するビジュアライゼーションでは、データの視覚的表現と点データ表現の両方を使用します。ユーザーが各支店を選択すると、対応するデータがチャートとグリッドの両方に表示されます。

## テキスト コンポーネントの使用

このカテゴリには、コンポーネントをラベル付けしたり、ビジュアライゼーションでテキストを入力するための一連のコンポーネントが含まれます。テキスト コンポーネントに表示される値は静的で、ビジュアライゼーションが更新されても変更されません。

テキスト コンポーネントを使用して、ビジュアライゼーションをカスタマイズできます。

- 入力テキスト

入力テキスト コンポーネントを使用して、ユーザーは値をビジュアライゼーションに入力できます。

- 入力テキスト領域

入力テキスト領域を使用して、ユーザーは入力テキスト コンポーネントと同様に、テキストをビジュアライゼーションに入力できます。ただし、入力テキスト領域では、複数のテキスト行を入力できます。

- ラベル

ラベル コンポーネントでは、無制限の量のテキストを入力してビジュアライゼーションを拡張できます。ラベル コンポーネントを使用して、タイトル、サブタイトル、説明、ヘルプなどを作成できます。

**注** ラベル コンポーネントとインポートされたスプレッドシート間のリンクは動的です。動的なデータ ソースと静的なデータ ソースについては、[25 ページの「動的および静的なデータ ソース」](#)を参照してください。

## Web 接続コンポーネントの使用

このカテゴリには、ビジュアライゼーションを Web にリンクするためのオプションを提供するコンポーネントのグループが含まれています。

- 外部のスライドショー

外部のスライドショー コンポーネントは、URL ベースの画像および SWF ファイルのスライドショーを作成します。

最初にファイルをインポートする必要がある通常の画像コンポーネントとは異なり、外部のスライドショー コンポーネントでは、URL データソースで指定された URL にある画像がロードされます。

### 注

- 画像が通常の画像コンポーネントにインポートされると、そのファイルの独自のローカル コピーが XLF ファイルに内部で保存されます。元のファイルは、ビジュアライゼーションでアクセスされたり使用されることはありません。ファイル データは XLF 内に保存されるため、XLF はそのコンテンツとともに移動したり電子メールで送信することができます。しかし、外部のスライドショーは URL をポイントします。この URL は実行時に変更できます。つまり、画像は XLF とともに送信されません。このため、画像を実行時に SWF で使用できるようにする必要があります。
- 外部のスライドショーの URL が変更されるたびに、その場所にある画像がロードされます。画像がロードされると、現在の画像が、URL データソースにある指定された新しい画像に変わります。
- URL リンク ボタン

押されたときに相対または絶対 URL にリンクするボタンです。





## 高度な機能の使用



# 4

章

## 概要

この章では、Crystal Xcelsius のビジュアライゼーションをカスタマイズするための機能について、紹介します。

## 動的ディスプレイの機能

動的ディスプレイの個別のオプションについては、97 ページの「動的ディスプレイ」を参照してください。

動的ディスプレイによって、2 つのコンポーネントを結合できます。たとえば、特定のチャートを表示する表示切り替えボタンを追加できます。表示切り替えボタンを設定すると、選択されたときにセルに showChart を挿入するか hideChart を挿入するかを切り替えることができます。この出力先セルにチャートをリンクして、そのチャートの表示ステータス キーに showChart を設定すると、表示切り替えボタンによって値 showChart が挿入されるとそのチャートは表示され、hideChart が挿入されると非表示になります。

多数のコンポーネントを切り替える場合があります。その場合は、表示ステータス キーとセレクトアを使用します。たとえば、ビジュアライゼーションで異なるチャート間での切り替えが必要になることがあります。それには、それぞれのチャートに固有の表示ステータス キーを設定します (chart1 と chart2 など)。表示ステータス キーと一致するソース データのリスト ボックスから、そのリスト ボックスにリンクされたそれぞれのチャートの表示ステータスをセルに挿入できます。リスト ボックスの値がセルに挿入されると、対応するチャートが表示され、他のすべてのチャートは非表示になります。

## ビジュアライゼーションのサンプル: 動的ディスプレイ

► チェック ボックス コンポーネントとチャート コンポーネントで動的ディスプレイを使用する Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. Excel スプレッドシートを Xcelsius にインポートします。  
Xcelsius へのスプレッドシートのインポートについては、20 ページの「[モデルのインポート] ボタンの使用」を参照してください。
2. チェック ボックス コンポーネントをキャンパスの一番上に配置します。
3. 縦棒チャート コンポーネントを、キャンパスのチェック ボックス コンポーネントの下に配置します。
4. チェック ボックス コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。

5. [ソース データ] 参照ボタンをクリックし、チェック ボックス コンポーネントがチェックが付いた状態とチェックのない状態のどちらであるかを制御する値を設定し、[OK] をクリックします。

この例では、デフォルト値の 0 および 1 を使用できます。

6. [挿入先] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートから空のセルを選択します。

動的ディスプレイ機能が動作するには、セルは空にする必要があります。

7. [プロパティ] パネルを閉じます。

8. 縦棒チャート コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。

9. 縦棒チャート コンポーネントを設定します。

チャート コンポーネントの設定については、38 ページの「[チャート コンポーネントの使用](#)」を参照してください。

10. [動作] タブで [表示ステータス] セル セレクタ ボタンをクリックし、チェック ボックス コンポーネントについて指定した [挿入先] セルを選択します。

デフォルトでは、ビジュアライゼーションを実行すると、そのチャートは表示されなくなります。そのチャートを有効にするには、ユーザーはチェックボックスをクリックする必要があります。

## ビジュアライゼーションのサンプル: ステータス一覧と表示ステータス

[挿入オプション] リストの [ステータス一覧] オプションについては、152 ページの「[データの挿入](#)」を参照してください。

表示ステータスの機能については、97 ページの「[動的ディスプレイ](#)」を参照してください。

たとえば、各地域のデータを異なるチャートに表示して地域ごとの売上げを示すビジュアライゼーションを作成できます。

▶ ラジオ ボタン コンポーネントと複数のチャート コンポーネントを含む動的ディスプレイを使用して Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. Excel スプレッドシートを Xcelsius にインポートします。

Xcelsius へのスプレッドシートのインポートについては、20 ページの「[\[モデルのインポート\] ボタンの使用](#)」を参照してください。

2. ラジオ ボタン コンポーネントをキャンバスの左側に配置します。

3. ラジオ ボタン コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
4. [ラベル] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートからラジオ ボタン選択を含むセルを選択します。  
この例では、その範囲のセルに地域の名前が含まれます。
5. [挿入オプション] リストで、[ステータス一覧] をクリックします。
6. [挿入先] セル セレクタ ボタンをクリックし、セルの空の範囲を選択します。  
そのセルの範囲は、選択した範囲に対応している必要があります。この例では、その範囲のセルが地域の名前に対応している必要があります。
7. [プロパティ] パネルを閉じます。
8. 円チャート コンポーネントを、キャンバスのラジオ ボタンの横に配置します。
9. 円チャート コンポーネントを設定して、北米地域のデータを表示します。  
チャート コンポーネントの設定については、[38 ページの「チャート コンポーネントの使用」](#)を参照してください。
10. 折れ線チャート コンポーネントを、キャンバスのラジオ ボタンの横に配置します。
11. 折れ線チャート コンポーネントを設定して、中南米地域のデータを表示します。
12. 縦棒チャート コンポーネントを、キャンバスのラジオ ボタンの横に配置します。
13. 縦棒チャート コンポーネントを設定して、ヨーロッパ地域のデータを表示します。
14. 棒チャート コンポーネントを、キャンバスのラジオ ボタンの横に配置します。
15. 棒チャート コンポーネントを設定して、アジア地域のデータを表示します。
16. 円チャート コンポーネントを、キャンバスのラジオ ボタンの横に配置します。
17. 円チャート コンポーネントを設定して、オセアニア地域のデータを表示します。
18. 北米の円チャート コンポーネントの [プロパティ] パネルを開きます。
19. [動作] タブで [表示ステータス] セル セレクタ ボタンをクリックし、ラジオ ボタン コンポーネントに対して指定した北米の [ステータス一覧] セルを選択します。
20. [プロパティ] パネルを閉じます。
21. 他の各地域のチャートについて、手順 18 ～ 20 を繰り返します。

22. [プレビュー] をクリックします。

ラジオ ボタン コンポーネントで選択が実行されると、その選択に対応する [ステータス一覧] セルに数値の 1 が挿入され、それ以外のすべての [ステータス一覧] セルは値 0 を表示します。 [表示ステータス] セルの値が 1 の場合、そのセルにリンクされているすべてのコンポーネントが表示されるため、ラジオ ボタン選択に対応するチャートだけが表示されます。

ラジオ ボタンで選択された地域ごとに、異なる種類のチャートが表示されます。

## アラート

個別のアラート オプションについては、103 ページの「共通の [アラート] タブ機能」を参照してください。

## ビジュアライゼーションのサンプル: アラート を使用する単一値

たとえば、売上げ、在庫、および売上げ原価の日ごとの実際のバランスを、月間の目標と比較して示すビジュアライゼーションを作成できます。

### ▶ メーター コンポーネントでアラートを使用する Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. Excel スプレッドシートを Xcelsius にインポートします。

スプレッドシートのインポートについては、20 ページの「[モデルのインポート] ボタンの使用」を参照してください。

2. メーター コンポーネントをキャンバスの右側に配置します。

3. メーター コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。

4. [タイトル] セル セレクタ ボタンをクリックし、メーター コンポーネントのタイトルを含むセルを選択します。

この例では、メーター コンポーネントのタイトルは Sales (売上げ) です。

5. [リンク先セル] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートから Actual Value for Sales (実際の売上げ値) を含むセルを選択します。

6. [アラート] タブで [アラートを有効にする] をクリックします。

7. [パーセントを使用] をクリックします。

8. [アラートの定義] をクリックします。  
この例では、[高い値が最適] をクリックします。
9. パーセントの制限をカスタマイズします。
10. アラートの色をカスタマイズします。
11. [ターゲット] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートから Target value for Sales（目標の売上げ値）を含むセルを選択します。
12. [オブジェクトでのアラートを有効にする] をクリックします。  
このオプションによって、メーターの針がアラート レベルのどこを指しているかを反映して針の色が変化するようになります。
13. [アラートのレベルの表示を有効にする] をクリックします。  
このオプションによって、アラートの色のスペクトルがメーター コンポーネントに追加されます。
14. [動作] タブで、必要に応じて、メーター コンポーネントに対する初期制限を調整します。  
この例では、上限に 500 を、下限に 99 を設定します。
15. [プロパティ] パネルを閉じます。
16. メーター コンポーネントをコピーして、キャンバスの元のコンポーネントの横に 2 つのコピーを貼り付けます。
17. 2 つ目のメーター コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
18. そのメーター コンポーネントが Inventory（在庫）データを表示するようにカスタマイズします。  
[アラートの定義] に [中間の値が最適] を設定します。
19. [プロパティ] パネルを閉じます。
20. 3 つ目のメーター コンポーネントをダブルクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。
21. そのメーター コンポーネントが Cost of Good Sold（売上げ原価）データを表示するようにカスタマイズします。  
[アラートの定義] に [低い値が最適] を設定します。
22. [プロパティ] パネルを閉じます。
23. [プレビュー] をクリックします。

## テンプレートの作成

この節では、Xcelsius のテンプレートについて説明します。Xcelsius には、新しいビジュアルイゼーションの作成に使用できる一連のテンプレートがあります。既存の Xcelsius テンプレートを使用することも、ゼロからビジュアルイゼーションを作成してテンプレートとして保存することもできます。

テンプレートを開くには、[ファイル] メニューの [テンプレートから新規作成] をクリックします。使用できるライブラリの一覧が表示されます。各ライブラリには、[アイテム] セクションに表示されるテンプレートのグループが含まれています。一覧からテンプレートを選択すると、画面に右側にそのテンプレートのプレビューが表示されます。これらは対話型のテンプレートです。クリックすると、それらのコンポーネントが目的とする機能が表示されます。一覧からテンプレートを選択し、[OK] をクリックします。

選択されたテンプレートは、新しいビジュアルイゼーションとしてキャンバスに挿入されます。これで、そのテンプレートを追加、削除、または変更し、それを新しいビジュアルイゼーションとして、または変更済みまたは新規のテンプレートとして保存できます。

## カスタムメイドのライブラリとテンプレート

独自のライブラリおよびテンプレートを作成できます。たとえば、企業ポータルで使用する一連のポートレットを作成している場合、作成したビジュアルイゼーションをテンプレートとして保存して、更新が必要になった場合に再利用できるようにします。複数のライブラリおよびテンプレートを作成できます。

### ▶ 新しいテンプレートを作成する

1. テンプレートとして保存する Xcelsius ビジュアルイゼーションを作成します。
2. [ファイル] メニューの [名前を付けて保存] をクリックします。  
[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. そのテンプレートを保存するライブラリのフォルダに移動します。  
**注** 新しいライブラリを作成するには、Xcelsius のインストール ディレクトリの /template の下に、新しいフォルダを作成します。
4. XLF ファイルの名前を入力し、[保存] をクリックします。  
そのファイル名が、新しいテンプレートの名前になります。
5. [ファイル] メニューの [エクスポート] をポイントし、[Macromedia Flash (SWF)] をクリックします。

6. XLF テンプレートを保存したフォルダに移動します。
7. その XLF ファイルに対して入力した SWF ファイルと同じファイル名を入力し、[保存] をクリックしてビジュアライゼーションをエクスポートします。

ビジュアライゼーションのエクスポートによって、テンプレートのプレビュー [テンプレートから新規作成] ウィンドウの [プレビュー] セクションに表示されます。

これで、このビジュアライゼーションはテンプレートとして使用できます。次に [テンプレートから新規作成] ウィンドウを開くと、そのテンプレートを使用してプレビューできます。

優れたテンプレートになるビジュアライゼーションを作成した場合は、弊社 (CrystalXcelsiussupport@businessobjects.com) に電子メールで送信してください。

## グローバル スタイルの使用

グローバル スタイルは、ビジュアライゼーションの外観を変更するものです。ビジュアライゼーション全体をカスタマイズすることも、特定のコンポーネントのみに適用することもできます。グローバル スタイルは、コンポーネントの階層に影響します。これは、指定した基本色が補助色に優先してコンポーネントに影響するということです。グローバル スタイルは、スタイル、テキストとラベル、およびボタンと背景というアプリケーション カテゴリに分類されます。既存のグローバル スタイルやその組み合わせを変更したものを基にして、独自のグローバル スタイルを作成できます。グローバル スタイルの変更は、ビジュアライゼーションの色にのみ影響します。フォント、テキストの書式、およびアラートには影響しません。

**注** グローバル スタイルは、XLF ファイルとともに転送されません。XLF が使用するグローバル スタイルが使用できない場合、ビジュアライゼーションの既存のコンポーネントは引き続きそのスタイルを使用しますが、新しいコンポーネントには適用できません。

## 現在のグローバル スタイルの変更

現在のグローバル スタイルを変更するには、[表示] メニューの [スタイルの変更] をクリックします。[グローバル スタイル] ダイアログ ボックスが表示されます。スタイルを変更する前は、そのビジュアライゼーションにはデフォルトのスタイルが適用されています。デフォルト スタイルは、特殊な



グローバル スタイルです。そのスタイル パラメータはスキンから取得され、変更できません。デフォルト スタイルは、ビジュアライゼーションを元の外観に戻すときに使用できます。

[グローバル スタイル] ダイアログ ボックスで、[現在のスタイル] リストから [グローバル スタイル] を選択します。[適用] をクリックして、選択したグローバル スタイルをキャンバス上のすべてのコンポーネントに適用します。[OK] をクリックして、選択したグローバル スタイルをそのキャンバスに今後配置されるコンポーネントに適用します。ビジュアライゼーションに適用されたグローバル スタイルは、コンポーネント エクスプローラに表示されます。

## グローバル スタイルの作成

グローバル スタイルは、作成したビジュアライゼーションのスタイル パラメータを変更してスタイルとして保存すると、作成されます。

**注** グローバル スタイルを作成するときは、一連のカスタム カラーを定義します。通常、カスタム カラーは 5 色で十分です。コンポーネントに色を割り当てる前に、それらの色をカスタム カラー パレットに追加します。カラー パレットにアクセスするには、任意のカスタム カラー セレクタ ボタンをクリックします。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

### ▶ グローバル スタイルを作成する

1. Xcelsius ビジュアライゼーションを作成します。
2. [表示] メニューの [スタイルの変更] をクリックします。  
[グローバル スタイル] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [現在のスタイル] リストで、変更するグローバル スタイルを選択します。
4. [名前を付けて保存] をクリックします。  
[Crystal Xcelsius スタイルの保存] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. 新しいスタイルの名前を入力し、[保存] をクリックします。
6. [線と境界線] 領域で [基本色] カラー セレクタ ボタンをクリックし、新しい基本色を選択します。

この例では、オレンジ色を選択します。

**注** [現在のスタイル] リストにはそのスタイルが変更済みのラベルが付けられますが、そのスタイルを保存するとこれは更新されます。

7. 新しいスタイルの別の色を変更します。
8. [名前を付けて保存] をクリックし、そのスタイルを置換します。
9. [適用] をクリックします。  
新しいスタイルがキャンバス上のすべてのコンポーネントに適用されます。
10. [OK] をクリックします。  
新しいスタイルは、そのビジュアライゼーションに追加されるすべてのコンポーネントに適用されます。

**注** Xcelsius を終了するとグローバル スタイルはビジュアライゼーションに影響しません。グローバル スタイルを継続するには、そのグローバル スタイルを再適用または選択する必要があります。

## グローバル スタイルの転送

グローバル スタイルは、XLF ファイルとともに転送されません。1 つのマシンで作成したグローバル スタイルを他のマシンでも使用できるようにするには、スタイル情報を格納したファイルを転送する必要があります。作成したすべてのスタイルに対応して、スタイルと同じ名前の XGS ファイルが作成されています。XSG ファイルには、すべてのスタイル情報が格納されています。デフォルトでは、これらのファイルは Xcelsius のインストール ディレクトリである /styles ディレクトリに保存されます。

1 つのマシンから別のマシンにグローバル スタイルをコピーするには、単純にソース マシンから対応する XGS ファイルを別のマシンにコピーします。コピー先のマシンの Xcelsius インストール ディレクトリである /styles ディレクトリにファイルが配置されると、[グローバル スタイル] ダイアログ ボックスの [現在のスタイル] リストに自動的に新しいグローバル スタイルが表示されます。手動でインポートするときは、[現在のスタイル] リストの参照をクリックし、XGS ファイルを検索して [保存] をクリックします。

# Crystal Xcelsius のビジュアライ ゼーションのエクスポート

5

章

## 概要

この章では、Crystal Xcelsius のビジュアライゼーションのエクスポートについて説明します。

## ビジュアライゼーションの Flash へのエクスポート

ビジュアライゼーションが完成したら、その内容を Macromedia Flash (SWF) ファイルとしてエクスポートできます。SWF ファイルは、スタンドアロンの Flash Player でローカルに実行したり、ブラウザで開いたり、Web サイトの一部として使用したり、各種のプログラムにインポートしたりできます。

### ▶ Xcelsius ビジュアライゼーションを Flash にエクスポートする

1. Xcelsius ビジュアライゼーションを作成します。
2. [ファイル] メニューの [エクスポート] をポイントし、[Macromedia Flash (SWF)] をクリックします。

[Export Macromedia Flash (SWF)] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. SWF ファイルの名前を入力し、[保存] をクリックします。

Xcelsius によって、Macromedia Flash ファイルが生成されます。

**注** ビジュアライゼーションの中に非埋め込みの外部ファイルがある場合、それらのファイルを含むフォルダも、エクスポートされたファイルと同じ名前と場所で生成されます。ビジュアライゼーションでは、実行時にこのディレクトリから外部ファイルがロードされます。外部ファイルを正しくロードするには、ビジュアライゼーションおよびフォルダが同じディレクトリに存在する必要があります。

## ビジュアライゼーションの HTML へのエクスポート

すべてのコンピュータが、ブラウザで Flash ファイルを開くように設定されているわけではありません。SWF のビジュアライゼーションを HTML に埋め込むと、ファイルをダブルクリックすることでビジュアライゼーションを HTML ファイル経由で表示できます。生成された HTML ドキュメントは SWF のビジュアライゼーションを参照します。

### ▶ Xcelsius ビジュアライゼーションを HTML にエクスポートする

1. Xcelsius ビジュアライゼーションを作成します。
2. [ファイル] メニューの [エクスポート] をポイントし、[HTML] をクリックします。

[HTML に公開] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. HTML ファイルの名前を入力し、[保存] をクリックします。

Xcelsius は、HTML ファイルを生成し、同じディレクトリに同じ名前の SWF ファイルを生成します。HTML ファイルが正しく動作するには、これらのファイルを一緒に保持する必要があります。

## ビジュアライゼーションの PowerPoint へのエクспорт

ビジュアライゼーションが完成したら、それを PowerPoint のスライドとしてエクспортできます。そのスライドは、Microsoft PowerPoint を使用して変更できます。



ビジュアライゼーションを PowerPoint のスライドとしてプレビューできます。ツールバーの [Powerpoint に送る] ボタンをクリックします。PowerPoint が起動し、ビジュアライゼーションがスライドとして挿入されます。スライド内のビジュアライゼーションは、動的な対話型です。プレビュー プレゼンテーションを PowerPoint プレゼンテーションとして保存できます。

**注** ビジュアライゼーションによって相対的に参照される外部ファイルは、プレビュー プレゼンテーションには表示できません。

### ▶ Xcelsius ビジュアライゼーションを PowerPoint にエクспортする

1. Xcelsius ビジュアライゼーションを作成します。
2. [ファイル] メニューの [エクспорт] をポイントし、[PowerPoint スライド] をクリックします。

[Export PowerPoint (PPT)] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. PPT ファイルの名前を入力し、[保存] をクリックします。

Xcelsius は、PowerPoint (PPT) ファイルと、同じ名前の SWF ファイルを生成します。生成された PowerPoint ファイルが自動的に開かれ、ビジュアライゼーションがプレゼンテーションの最初のスライドに表示されます。プレゼンテーションが実行される際、ビジュアライゼーションは動的な対話型です。

**注** ビジュアライゼーションがエクспортされると、外部コンポーネントによって使用される外部ファイルが作成され、エクспортされたビジュアライゼーションと名前と場所が同じフォルダに配置されます。ビジュアライゼーションが正しく動作するには、外部ファイルがビジュアライゼーションと同じフォルダに存在している必要があります。

## ビジュアライゼーションの Adobe PDF へのエクスポート

ビジュアライゼーションが完成したら、その内容を Adobe PDF ファイルとしてエクスポートできます。PDF ファイルは、ローカルで表示したり、ブラウザで開いたり、Web サイトに配置したりできます。PDF に埋め込まれたビジュアライゼーションは、動的な対話型です。



ビジュアライゼーションを PDF としてプレビューできます。ツールバーの [Adobe Acrobat PDF に送る] ボタンをクリックします。Adobe Acrobat が起動し、ビジュアライゼーションが最初のページに表示されます。PDF 内のビジュアライゼーションは、動的な対話型です。プレビュー プレゼンテーションを PDF として保存できます。

### ► Xcelsius ビジュアライゼーションを Adobe PDF にエクスポートする

1. Xcelsius ビジュアライゼーションを作成します。
2. [ファイル] メニューの [エクスポート] をポイントし、[Adobe PDF] をクリックします。

[Export Adobe PDF] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. PDF ファイルの名前を入力し、[保存] をクリックします。

Xcelsius によって、Adobe PDF ファイルが生成されます。生成された PDF ファイルが自動的に開かれ、ビジュアライゼーションがドキュメントの最初のページに表示されます。PDF ファイル内のビジュアライゼーションは、動的な対話型です。

**注** ビジュアライゼーションがエクスポートされると、外部コンポーネントによって使用される外部ファイルが作成され、エクスポートされたビジュアライゼーションと名前と場所が同じフォルダに配置されます。ビジュアライゼーションが正しく動作するには、外部ファイルがビジュアライゼーションと同じフォルダに存在する必要があります。

## Outlook を使用したビジュアライゼーションの電子メール送信

ビジュアライゼーションが完成したら、それを Microsoft Outlook を使用してエクスポートできます。



ビジュアライゼーションを Outlook でプレビューできます。ツールバーの [Outlook に送る] ボタンをクリックします。Outlook が起動し、ビジュアライゼーションが電子メールに挿入されます。ビジュアライゼーションは動的

な対話型です。この電子メールを、エクスポートされたビジュアライゼーションとして使用できます。

▶ **Xcelsius ビジュアライゼーションを Outlook を使用してエクスポートする**

1. Xcelsius ビジュアライゼーションを作成します。
2. [ファイル] メニューの [エクスポート] をポイントし、[Outlook] をクリックします。

Xcelsius によって、SWF ファイルが生成されます。Outlook が起動し、新しい電子メール メッセージに SWF ファイルが添付されます。このメッセージはカスタマイズして送信できます。

## ビジュアライゼーションの Plumtree ポータルへのエクスポート

ビジュアライゼーションが完成したら、それを Plumtree ポータルにエクスポートできます。Plumtree ポータル内のビジュアライゼーションは、動的な対話型です。

▶ **Xcelsius ビジュアライゼーションを Plumtree ポータルにエクスポートする**

1. Xcelsius ビジュアライゼーションを作成します。
2. [ファイル] メニューの [エクスポート] をポイントし、[Macromedia Flash (SWF)] をクリックします。  
[Export Macromedia Flash (SWF)] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. SWF ファイルの名前を入力し、[保存] をクリックします。

Xcelsius によって、Macromedia Flash ファイルが生成されます。

4. SWF のビジュアライゼーションを Web サーバーに配置します。
5. Xcelsius で、[ファイル] メニューの [エクスポート] をポイントし、[Plumtree] をクリックします。

[Plumtree エクスポート オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。

6. Plumtree ポータル内でのビジュアライゼーションのサイズをカスタマイズします。

**注** ビジュアライゼーションの縦横の比率を維持するには、[目盛 ->X] および [目盛 ->Y] をクリックします。

7. [URL パス] ボックスに、Web サーバーに配置したビジュアライゼーションの URL を入力します。

8. [公開] をクリックします。

Xcelsius は、その URL パスでビジュアライゼーションを参照する SWF ファイルの名前を持つ HTML ファイルを生成します。

**注** SWF ファイルは、URL パスに設定した場所にエクスポートする必要があります。HTML ファイルには、SWF ファイルへのアクセス権が必要です。

HTML ファイルからガジェットを作成することで、Xcelsius ビジュアライゼーションを Plumtree ポータルに直接追加できます。ガジェットの作成については、Plumtree のマニュアルを参照してください。

## ビジュアライゼーションの Word へのエクスポート

ビジュアライゼーションが完成したら、それを Microsoft Word ドキュメントにエクスポートできます。Microsoft Word ドキュメント内のビジュアライゼーションは、動的な対話型です。



ビジュアライゼーションを Word ドキュメントとしてプレビューできます。ツールバーの [Microsoft Word に送る] ボタンをクリックします。Microsoft Word が起動し、ビジュアライゼーションが最初のページに表示されます。Microsoft Word ドキュメント内のビジュアライゼーションは、動的な対話型です。プレビュー ドキュメントを Word ドキュメントとして保存できます。

### ► Xcelsius ビジュアライゼーションを Word にエクスポートする

1. Xcelsius ビジュアライゼーションを作成します。
2. [ファイル] メニューの [エクスポート] をポイントし、[Word] をクリックします。

[Export Word (DOC)] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. Word ドキュメントの名前を入力し、[保存] をクリックします。

Xcelsius は、Word ドキュメントを生成し、ビジュアライゼーションの SWF をドキュメントに埋め込みます。



**注** Word 内のビジュアライゼーションが静的な場合は、Microsoft Word の [コントロール ツールボックス] ツールバーの [デザイン モードの終了] ボタンをクリックします。



## ビジュアライゼーションのスナップショットの取得

スナップショットのメニュー項目を使用して、現在のプレビュー データをエクスポートできます。スナップショット機能を有効にするには、プレビュー モードにする必要があります。[ファイル] メニューの [スナップショット] をポイントし、次のエクスポート方法のいずれかをクリックします。

- Excel に戻る

プレビュー モードでの変更が反映された Excel スプレッドシート (XLS) が生成されます。

### 注

- このオプションは、Excel スプレッドシートがビジュアライゼーションにインポートされている場合のみ有効です。
- ビジュアライゼーションにインポートされた元の Excel ファイルのコピーをエクスポートするには、[データ] メニューの [モデルのエクスポート] をクリックしてファイルを保存します。

- Macromedia Flash (SWF)

プレビュー モードでの変更が反映された Macromedia Flash (SWF) ファイルが生成されます。

- HTML

プレビュー モードでの変更が反映された HTML ファイルと Macromedia Flash (SWF) ファイルが生成されます。

- PowerPoint スライド

プレビュー モードでの変更が反映された Macromedia Flash (SWF) ファイルを含むスライド 1 枚の Microsoft PowerPoint ファイルが生成されます。

- Outlook

プレビュー モードでの変更が反映された Macromedia Flash (SWF) ファイルを含む Microsoft Outlook 電子メールが生成されます。

- Adobe PDF

プレビュー モードでの変更が反映された Adobe PDF ファイルが生成されます。





FAQ

6

章

## インストールに関する質問

### Crystal Xcelsius を使用するには、Macromedia Flash をインストールする必要がありますか

Crystal Xcelsius が正しく機能するには、Macromedia Flash Player が必要です。インストールの過程で Macromedia Flash をインストールしなかった場合は、Macromedia 社の Web サイト (<http://www.macromedia.com>) から Flash をダウンロードしてインストールできます。

### Microsoft Office をアップグレードまたはインストールした後、Crystal Xcelsius が機能しないのですが、なぜですか

Crystal Xcelsius は、インストールの際、自動的にインストール済みの Microsoft Office のバージョンで動作するように設定されます。お使いのマシンの Microsoft Office のバージョンをアップグレードまたは変更する場合、その新しいバージョンで Crystal Xcelsius が正しく動作するには、Crystal Xcelsius を再インストールする必要があります。

## Microsoft Excel に関する質問

### 名前を変更したスプレッドシートが含まれる Excel ファイルを再インポートできますか

名前を変更したスプレッドシートについては 34 ページの「名前を変更されたシートの再インポート」を参照してください。

### テーブルの外観が Excel スプレッドシートと違うのはなぜですか

テーブル コンポーネントは Verdana フォントのみをサポートします。おそらく、お使いの Excel スプレッドシートでは異なるフォントを使用しているためにスプレッドシートとテーブルの外観に若干の違いがあるものと考えられます。表示を一致させるには、スプレッドシートのフォントを Verdana に変更してください。

## Microsoft PowerPoint に関する質問

### Crystal Xcelsius SWF ファイルを既存の PowerPoint プレゼンテーションに埋め込むにはどうすればいいですか

Crystal Xcelsius では、PowerPoint へのエクスポート オプションを使用して、現在の SWF ファイルを新しい PowerPoint プレゼンテーションに埋め込むことができます。詳細については、[77 ページの「ビジュアライゼーションの PowerPoint へのエクスポート」](#)をご覧ください。

## トラブルシューティングに関する質問

### コンポーネント が指数書式を表示しないのはなぜですか

指数書式が設定された数値を視覚的に表示することは、現時点ではサポートされていません。指数書式の数値に関する計算には影響はありません。

### URL ボタンが動作しないのはなぜですか

URL が正しく機能するには、URL に “http://” を含める必要があります。

### 保存したシナリオがおかしいのですが何が起こったのでしょうか

[シナリオ] ボタンによるシナリオの保存とロードのトラブルについては、[61 ページの「ローカル シナリオ ボタン コンポーネントの機能」](#)を参照してください。

### スライド、ダイアル、またはその他の単一値コンポーネントをドラッグできないのはなぜですか

式を伴うセルにリンクされた単一値コンポーネントの値は調整できません。これにより、ビジュアライゼーションでの不整合が回避されます。

## SWF ファイルが正しく印刷されないのはなぜですか

Flash Player は透過オブジェクトを正しく印刷しないので、Flash Player のメニューを使用して SWF ファイルを印刷することはできません。ブラウザを使用して SWF ファイルを印刷した場合も、不正な縦横比率になる可能性があります。

### ▶ SWF ファイルを正しく印刷する

1. SWF ファイルのスクリーン ショットを取得します。  
**ヒント** Ctrl キーと PrintScreen キーを同時に押して全画面をキャプチャするか、Alt キーと PrintScreen キーを使用してアクティブ ウィンドウをキャプチャします。
2. スクリーン ショットをイメージ処理プログラムに貼り付けます。
3. そのプログラムの印刷オプションを使用して印刷します。

## サーバー ビジーのメッセージを受け取ったのはなぜですか

サーバー ビジーのメッセージは、Excel に保留されている処理があるか、Excel が命令を実行するのにビジーであることを意味します。Excel が編集処理中でないことを確認し、警告ダイアログ ボックスの [再試行] をクリックします。

## 「A script in this movie is causing Flash Player to run slowly...」 というメッセージを受け取ったのはなぜですか

Crystal Xcelsius のビジュアライゼーションを表示するために使用される Macromedia Flash Player は、スクリプトの実行に 60 秒以上かかるとこのメッセージを表示します。Crystal Xcelsius のビジュアライゼーションは複雑なので、低速のマシンで大きなビジュアライゼーションを実行すると、特に起動時にこのメッセージが表示される場合があります。メッセージ ダイアログ ボックスで [いいえ] をクリックすると、ビジュアライゼーションは正しくロードされます。

**注** プレビュー モードでスクリプトを中止するために [はい] をクリックすると、プレビューが動作を停止します。ビジュアライゼーションを正しくプレビューするには、キャンバス モードに切り替えてからプレビュー モードに戻る必要があります。

## ビジュアライゼーションがおかしな状態で開始されるのはなぜですか

ビジュアライゼーションをロードする際、すべてのセレクトはデフォルトの選択データを「挿入先」の範囲に挿入し、他のコンポーネントをデータと一緒に取り込みます。複数のセレクトがデータを同じ範囲に挿入する場合、最上位レベルのセレクトが最後に挿入します。これによって、他のセレクトによって挿入されたデフォルトのデータは無効になります。

オブジェクト ブラウザを使用して、コンポーネントの順序を表示し、レイアウトオプションでその順序を変更できます。

## データ ソースが最新表示されないのはなぜですか

特定のデータ ソースは、緑の Excel アイコンで静的であることが示されます。これらのデータ ソースはビジュアライゼーションの過程で最新表示されません。25 ページの「動的および静的なデータ ソース」を参照してください。

## VLOOKUP 配列の式ベース インデックスが実行時に変更されないのはなぜですか

VLOOKUP 関数の速度と効率を維持するために、Crystal Xcelsius は VLOOKUP 配列のインデックス列の式を再計算しません。

インデックス列に式を含む VLOOKUP 関数がある場合、インデックス列のセルは常に式の初期値を保持しています。

## URL ベースのイメージがプレビュー モードで表示されないのはなぜですか

### 相対パス

SWF ファイルのプレビューは一時ディレクトリで生成されるので、プレビュー モードでは相対パスのイメージへの参照は表示されません。

SWF ファイルを相対パスが有効な場所にエクスポートする場合は、イメージが正しくロードされます。

## Web サイトの jpeg ファイル

Web サイトで jpeg ファイルを参照する場合、その jpeg ファイルがプログレッシブ jpeg でないことを確認してください。プログレッシブ jpeg は段階的にロードされるので、回線容量が小さいユーザーでも全体のイメージがロードされるまで待つことなくイメージをすばやく表示できます。

Crystal Xcelsius は URL で参照されるプログレッシブ jpeg を表示できません。プログレッシブ jpeg を参照するときに埋め込みオプションを選択する場合、Crystal Xcelsius はプログレッシブ jpeg を完全に表示します。

## ビジュアライゼーションをプレビューしようとするとき、「切り捨てが行われました」というメッセージを受け取るのはなぜですか

Crystal Xcelsius では、式またはコンポーネントのソース データで参照できる行数の最大値にデフォルトの値が設定されています。プレビューをクリックしたときに「切り捨てが行われました」というメッセージを受け取る場合、行設定の最大値を超えるセル配列への参照を行う関数がビジュアライゼーションに含まれています。

この設定は、[データ] メニューの [最大行数] で変更できます。[最大行数] 設定は Crystal Xcelsius のビジュアライゼーションのパフォーマンスを最適化するために用意されています。

## 国際設定が XLF で使用されないのはなぜですか

スプレッドシートが XLF に再インポートされていない場合、XLF はマシンの国際設定を使用します。これらの設定には小数点や桁区切り文字などがあります。

## サポートされる機能に関する質問

### Crystal Xcelsius でサポートされる Excel の関数は何ですか。

関数の全リストについては、Crystal Xcelsius のインストール ディスクにあるオンライン リファレンス ガイドの 228 ページの「サポートされる Excel の関数」を参照してください。



## 1 回のスプレッドシート 選択での最大行数の制限はどのくらいですか

選択に関しては最大行数の制限はありません。ただし、選択サイズはビジュアライゼーションのパフォーマンスに影響を与える場合があります。Crystal Xcelsius では、512 行を超えて選択すると警告されます。

## Crystal Xcelsius は、他の Excel ファイルにリンクする Excel ファイルをサポートしますか

いいえ。この機能は、Crystal Xcelsius ではサポートされていません。

## 使用可能な Excel ファイルの最大サイズはどのくらいですか

Crystal Xcelsius で使用できる Excel スプレッドシートのサイズには制限がありません。ただし、ビジュアライゼーションのパフォーマンスに影響を与える要因は数多くあります。これには以下があります。

- キャンバス上のコンポーネントの数
- シミュレーション中に変更されるデータの量
- 実行される計算の複雑さ

コンピュータの性能もパフォーマンスに大きな影響を与えるので、他のユーザーに配布するビジュアライゼーションを開発する際は留意してください。

## Crystal Xcelsius がサポートしている Excel の地域の書式設定はどれですか

Crystal Xcelsius は、マシンで使用されている地域の書式設定を自動的に検出し、出力を適切に調整します。

たとえば、地域設定が日付区切り文字として “/” を使用する場合、2004 年 1 月 2 日は Crystal Xcelsius のビジュアライゼーションで 2004/1/2 と表示されます。地域設定で日付区切り文字に “-” を使用する場合、エクスポートされたビジュアライゼーションの日付は 04-1-2 のようになります。

これらの設定は、Windows コントロール パネルの [地域と言語のオプション] にあります。次の項目は、自動的に調整されます。

- 小数点の記号

- 桁区切り記号
- 一般的な書式名
- 月
- 日
- 年
- 時
- 分
- 秒
- 時刻の区切り記号
- 日付の区切り記号


## 標準以外の文字でサポートされるものは何ですか

現時点でサポートされる標準以外の文字は次のとおりです。


Ç	ë	æ	Ü	€
ü	è	Æ	á	
é	ï	ô	í	
â	î	ö	ó	
ä	ì	ò	ú	
à	Ä	û	ñ	
å	Å	ù	Ñ	
ç	É	Ö	ß	

## Excel マクロが動作しないのはなぜですか

現時点で、Crystal Xcelsius は Excel スプレッドシートのマクロをサポートしていません。



# Crystal Xcelsius Professional と Crystal Reports との統合



# 7

章



## 概要

Crystal Xcelsius Professional 4.5 を使用すると、アンマネージド Crystal Reports データを使用して対話型プレゼンテーションを作成できます。Live Office の新しい機能で、アンマネージド Crystal Reports XI Release 1 データから Xcelsius ビジュアライゼーションを作成できます。

ここでは、Live Office に組み込まれた Excel スプレッドシートを Crystal Xcelsius ファイルのデータ ソースとして使用する方法について説明します。

### 注

- ここで説明される機能は、Live Office XI Release 2、Crystal Reports XI Release 1、および Crystal Xcelsius Professional 4.5 でのみ使用できます。
- このマニュアルでは、Live Office と Crystal Reports の作業知識があることを仮定しています。

## このマニュアルで使用される用語

このマニュアルに固有の用語がいくつかあります。以下を参照してください。

- XLF

Crystal Xcelsius Designer のデザイン ファイルです。アプリケーションで作成されるファイルで、創作する Xcelsius ビジュアライゼーションの機能がすべて設定されています。

- SWF

Macromedia Flash ファイルです。Crystal Xcelsius では、Macromedia Flash を使用して対話型ファイルを生成します。

- Xcelsius ビジュアライゼーション

Xcelsius ファイルの最終出力です。たとえば、Designer でファイルを作成し PowerPoint 形式にエクスポートする場合、その PowerPoint ファイルが Xcelsius ビジュアライゼーションになります。

- Live Office 組み込み

Live Office データ ソースから作成した Excel スプレッドシートのことです。

- アンマネージド Crystal レポート、アンマネージド Crystal レポート データ

BusinessObjects Enterprise システムまたは Crystal Reports Server システムに格納されていない Crystal レポートまたは Crystal レポート データを指します。

## Live Office データの Crystal Xcelsius ビジュアライゼーションでの使用

Crystal Xcelsius Designer 4.5 で、アンマネージド Crystal レポートから作成した Excel スプレッドシートを使用して、Crystal Xcelsius の XLF（デザインファイル）や SWF（Macromedia Flash ファイル）を作成できます。

Live Office の新機能により、アンマネージド Crystal レポートを基にしたレポート ビューを作成できます。これらの機能やその使用方法については、『Live Office ユーザーズ ガイド』の「アンマネージド レポートからのレポート ビューの作成」を参照してください。

## Live Office 組み込み Excel スプレッドシートからの Xcelsius ビジュアライゼーションの作成

Live Office 組み込み Excel スプレッドシートのデータを使用して Xcelsius ビジュアライゼーションを作成できます。「Live Office 組み込み」とは、スプレッドシートのデータが Crystal レポートから作成されたレポート ビューであることを意味します。

**注** 以下の手順では、Live Office の作業知識があることを仮定しています。

### ▶ Live Office を使用して Xcelsius ビジュアライゼーションを作成する

1. 新しい キャンバスを開き、データを表示するのに使用するコンポーネントをキャンバスに配置します。
2. コンポーネントをダブル クリックして、プロパティ パネルを開きます。
3. [一般] タブで、[表示データ] フィールドの隣にあるセル セレクタ ボタンをクリックします。

モデルをインポートするよう指示があります。

4. [モデルのインポート] ダイアログ ボックスで、[参照] ボタンをクリックし、Live Office を使用して作成した Excel スプレッドシートに移動します。
5. スプレッドシートをクリックし、[OK] をクリックします。
6. Crystal Xcelsius ビジュアライゼーションに含めるセル範囲を選択し、[OK] をクリックします。

スプレッドシートが閉じられ、新しいデータが Crystal Xcelsius Designer に反映されます。

## 新しいデータによるビジュアライゼーションの更新

Live Office 組み込み Excel スプレッドシートが新しいデータで更新された場合、この新しいデータをビジュアライゼーションに反映させるには、スプレッドシートをもう一度インポートします。

### ▶ スプレッドシートを再インポートする

1. [表示] メニューの [モデルのインポート] をクリックします。

**ヒント** ツール バーの [モデルのインポート] ボタンをクリックして Excel ファイルを再インポートすることもできます。

2. インポートする Excel ファイルを選択します。
3. 再インポートの方法を選択します。

詳細は、この手順に続く表を参照してください。

4. [OK] をクリックします。

[モデルのインポート] ダイアログ ボックスに、再インポートするスプレッドシートのデータとビジュアライゼーションの既存のリンクとの連携方法を指定するオプションが表示されます。

- データ ソースの最新表示

この操作は、選択したスプレッドシートをインポートします。Excel ファイルが同じか変更がわずかであり、以前のリンクをすべて保持する必要がある場合、このオプションを使用します。以前に設定されたスプレッドシートへのリンクは、すべて保存されます。ただし、前回のインポートの後、列や行、データが挿入、削除、または変更されている場合、リンクに影響が及ぶ可能性があります。リンクを確認してからビジュアライゼーションを保存します。

- データ ソースのクリア

この操作は、選択したスプレッドシートをインポートして、以前に設定したリンクをすべて消去します。Excel ファイルが大幅に異なり、リンクをすべて削除する必要がある場合、このオプションを使用します。

- スプレッドシートの書式を最新表示

このオプションは、[データ ソースの最新表示] を選択した場合のみ利用可能です。スプレッドシートの一部の書式設定パラメータが変更されており、それを更新したい場合、このオプションを使用します。

スプレッドシートの再インポートに関する詳細は、[32 ページの「Excel ファイルの再インポート」](#)を参照してください。



一般機能参照

8



章

## 概要

この章では、大部分のコンポーネントに共通のプロパティ パネルの機能について説明します。作業対象のコンポーネントによっては、一部の機能が使用できない場合もあります。

## 共通領域

このセクションで示す領域は、大部分のコンポーネントに共通しており、常に同じ機能を含みます。

## フォント の設定

フォントの設定領域では、コンポーネントのフォント プロパティをカスタマイズできます。



### フォント

フォント ボックスは、フォントの名前を表示します。すべてのコンポーネントのフォントは、デフォルトで Verdana に設定されます。Xcelsius ビジュアルライゼーションで非埋め込みフォントを使用するように選択した場合は、フォント ボックスを使ってコンポーネントのフォントを変更できます。フォントの変更については、[21 ページの「フォント オプションの使用」](#)を参照してください。

### サイズ

フォント サイズを設定するには、サイズ ボックスで 8 ～ 72 の値を選択するか入力します。

### 太字

太字ボタンをクリックすると、テキストが太字になります。

### 斜体

斜体ボタンをクリックすると、テキストが斜体になります。

### 下線

下線ボタンをクリックすると、テキストに下線が付きます。

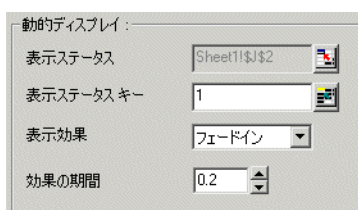


## 色

カラー セレクタ ボタンをクリックすると、フォントの色をカスタマイズできます。カラー セレクタ ボタンの詳細については、102 ページの「カラー セレクタ ボタン」を参照してください。

## 動的ディスプレイ

〔動的ディスプレイ〕領域は〔動作〕タブに表示されます。〔動的ディスプレイ〕領域の機能は、コンポーネントのディスプレイ動作を制御します。



### 表示ステータス

〔表示ステータス〕セル セレクタ ボタンでは、インポートしたスプレッドシートから空セルを選択して、コンポーネントの表示 / 非表示を制御できます。ユーザーが空セルを選択すると、それに対応する変数が空セルに挿入されます。セル セレクタ ボタンの詳細については、102 ページの「セル セレクタ ボタン」を参照してください。

**注** 既に同じコンポーネント内でリンクされているセルまたはセルの範囲に〔表示ステータス〕セル セレクタ ボタンをリンクしないでください。リンクした場合は、データソースのいずれかが動的に変更されてもそれは最新表示されなくなります。

### 表示ステータス キー

〔表示ステータス キー〕セル セレクタ ボタンでは、コンポーネントが表示可能になるときの表示ステータス変数の値を指定できます。セル セレクタ ボタンの詳細については、102 ページの「セル セレクタ ボタン」を参照してください。

### 表示効果

〔表示効果〕リストの次の項目によって、コンポーネントが表示されときの表示効果が決まります。

- なし  
コンポーネントは表示効果がありません。

- フェードイン  
コンポーネントは半透明状態で表示され、しだいに塗りつぶし状態になります。
- 展開  
コンポーネントは、少しずつ表示されながらフル サイズになります。
- 最初に横に展開  
コンポーネントは、最初に横方向に表示され、次に縦方向に表示されます。

### 効果の期間

[効果の期間] ボックスでは、表示効果の持続期間を決めることができます。このボックスは、[表示効果] リストの [フェードイン]、[展開]、または [最初に横に展開] をクリックした場合にのみ使用可能になります。0 ～ 10 の値を入力できます。0 は最短期間、10 は最長期間を表します。

## 共通ボックス

### 透明度

[透明度] ボックスでは、コンポーネントの一部に透明度を設定できます。0 ～ 100 の値を入力できます。0 は完全な透明、100 は完全な塗りつぶしを表します。

### 幅

[幅] ボックスでは、線の太さを決めます。0 ～ 100 の値を入力できます。0 は最も細い線、100 は最も太い線を表します。

### 左右の位置調整

[左右の位置調整] ボックスでは、[位置] リストに指定した位置を基準にテキストを左右に調整します。左右の位置調整値を入力するには、[左右の位置調整] ボックスに数値を入力するか、[左右の位置調整] ボックスの横にある上下の矢印を使用します。負の値はタイトルを左方向に調整し、正の値はタイトルを右方向に調整します。

## 上下の位置調整

[上下の位置調整] ボックスでは、[位置] リストに指定した位置を基準にテキストを上下に調整します。上下の位置調整値を入力するには、[上下の位置調整] ボックスに数値を入力するか、[上下の位置調整] ボックスの横にある上下の矢印を使用します。負の値はタイトルを下方向に調整し、正の値はタイトルを上方向に調整します。

## 共通リスト

### 位置

[位置] リストでは、テキストの位置を指定できます。コンポーネントの中には、[位置] リストの次の項目の一部が使用できないものがあります。

- 中央上
- 左上
- 右上
- 左
- 右
- 中央
- 左下
- 中央下
- 右下

### 配置

[配置] リストの次のいずれかの項目をクリックして、テキストの配置を決めます。

- 左
- 中央
- 右

## 数値書式

[数値書式] リストでは、Xcelsius ビジュアルライゼーションで表示される数値データに既定の書式を適用できます。[数値書式] リストの一部の書式には、数値データの表示をカスタマイズできるオプションがあります。

### 一般設定

一般書式は数値データをそのとおりに表示します。この書式にはカスタマイズするオプションはありません。

### 数値

数値書式には数値の書式をカスタマイズするオプションがあります。

#### 負の値

[負の値] リストでは、次の負の値の書式を選択できます。

- マイナスの前置記号
- 赤色のテキスト
- かっこ
- かっこ付き赤色のテキスト

#### 小数点以下の桁数

[小数点以下の桁数] では、表示する小数点以下の桁数を入力できます。0 ～ 20 の値を入力できます。

#### 桁区切り (,) を使用する

[桁区切り (,) を使用する] チェック ボックスをオンにすると、3 桁ごとにカンマが挿入されます。

### 通貨

通貨書式には通貨の書式をカスタマイズするオプションがあります。

#### 負の値

[100 ページの「数値」](#) を参照してください。

#### 小数点以下の桁数

[100 ページの「数値」](#) を参照してください。

## 前置記号

〔前置記号〕チェック ボックスをオンにすると、通貨の値の先頭に記号が付加されます。この記号のデフォルトは、「\$」に設定されます。デフォルトの記号を変更するには、横にある〔前置記号〕ボックスに希望する記号を入力します。〔前置記号〕ボックスは、〔前置記号〕チェック ボックスをオンにした場合にのみ使用できます。

## 後置記号

〔後置記号〕チェック ボックスをオンにすると、通貨の値の末尾に記号が付加されます。横にある〔後置記号〕に希望する記号を入力します。〔後置記号〕ボックスは、〔後置記号〕チェック ボックスをオンにした場合にのみ使用できます。

## パーセント

パーセント書式には、パーセント値の表示をカスタマイズするオプションが 1 つあります。

### 小数点以下の桁数

[100 ページの「数値」](#)を参照してください。

## 日付

日付書式には、Xcelsius ビジュアルライゼーションの日付を書式化するオプションが 1 つあります。

### タイプ

〔タイプ〕リストから希望する日付書式を選択します。

## 時刻

時刻書式には、Xcelsius ビジュアルライゼーションの時刻を書式化するオプションが 1 つあります。

### タイプ

〔タイプ〕リストから希望する時刻書式を選択します。

## テキスト

テキスト書式は数値を標準テキストとして表示します。この書式にはカスタマイズするオプションはありません。

## スプレッドシートから

[スプレッドシートから] 書式では、Xcelsius がサポートしない、インポートしたスプレッドシートの数値書式を維持できます。[スプレッドシートから] をクリックすると、文字列の書式が[文字列の書式]ボックスに表示されます。

## 共通ボタン

このセクションで示されるボタンは、大部分のコンポーネントの [プロパティ] パネルに表示されます。

## セル セレクタ ボタン

セル セレクタ ボタンでは、インポートしたスプレッドシートのセルまたはセルの範囲を選択して、Xcelsius ビジュアライゼーションをさまざまなデータ値にリンクできます。セル セレクタ ボタンの種類は次のとおりです。



- 動的データ

動的データ セル セレクタ ボタンでは、動的データを含むセルを選択できます。Xcelsius ビジュアライゼーションを最新表示すると、動的データ セルの値に対する変更が Xcelsius ビジュアライゼーションに反映されます。



- 静的データ

静的データ セル セレクタ ボタンでは、静的データを含むセルを選択できます。Xcelsius ビジュアライゼーションを最新表示しても、静的データセルの値は変更されません。

セル セレクタ ボタンをクリックすると、インポートしたスプレッドシートが表示されます。選択するセルの周囲にボックスを描きます。選択したセルの場所を示す番号が [範囲の選択] ダイアログ ボックスに表示されます。

[プロパティ] パネルに戻るには、[範囲の選択] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックします。選択したセルの場所を示す番号が、セル セレクタ ボタンの横にあるボックスに表示されます。

## カラー セレクタ ボタン



カラー セレクタ ボタンでは、コンポーネントの一部にカスタム カラーを選択できます。

カラー セレクタ ボタンをクリックすると、[色] ダイアログ ボックスが表示されます。希望する色をパレットから選択するか、[色の作成] ボタンをクリックして別の色を選択します。終了したら、[OK] をクリックして [プロパティ] パネルに戻ります。

## 参照ボタン



参照ボタンでは、インポートしたスプレッドシートから値を選択する代わりに、コンポーネントの値を手動で入力できます。参照ボタンをクリックすると、ダイアログ ボックスが表示されます。ダイアログ ボックスで、セルに値を直接入力します。終了したら、[OK] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じ、[プロパティ] パネルに戻ります。

## 情報ボタン



情報ボタンでは、[プロパティ] パネル上の機能の連携動作について情報を提供します。情報ボタンをクリックすると、新しいウィンドウが開き、アニメーションムービーが機能の動作をガイドします。ムービーのさまざまなページに移動し、[再生] ボタンや [一時停止] ボタンをクリックして必要な情報を検索することができます。終了したら、ウィンドウを閉じて [プロパティ] パネルに戻ります。

## 共通の「アラート」タブ機能

アラートによって、既定値に達したことをユーザーに知らせることができます。[アラート] タブの各機能は、Xcelsius ビジュアライゼーションが対話型で実行する場合にコンポーネントに対するアラートの動作を制御します。コンポーネントの中には、このセクションで示す機能の一部を使用できないものがあります。

## アラートを有効にする

[アラートを有効にする] チェック ボックスは、アラートがコンポーネントに対して有効かどうかを制御します。

## アラートの方法

コンポーネントのアラートの方法を定義するには、[アラートの方法] 領域で次のオプションのいずれかをクリックします。

- 値を使用  
アラートは、インポートしたスプレッドシートに指定した値を使用します。
- パーセントを使用  
アラートは、[アラート レベル] スライダを使って指定したパーセントを使用します。

## アラート の定義

コンポーネントに最適な値の型を定義するには、[アラートの定義] 領域で次のオプションのいずれかをクリックします。

- 低い値が最適

最適な値の型がターゲット値よりも低い場合にこのオプションを使用します。たとえば、支出のアラートを設定し、支出をできるだけ低く抑えたい場合に [低い値が最適] を選択します。

- 高い値が最適

最適な値の型がターゲット値よりも高い場合にこのオプションを使用します。たとえば、収入のアラートを設定し、収入をできるだけ高くする場合に [高い値が最適] を選択します。

- 中間の値が最適

[中間の値が最適] は、[アラートの方法] で [値を使用] をクリックした場合は使用できません。最適な値の型がターゲット値に限りなく近い場合にこのオプションを使用します。たとえば、在庫のアラートを設定し、在庫量をできるだけ一定にする場合に [中間の値が最適] を選択します。

## アラート 変数

[アラート変数] リストは、多変数コンポーネントにのみ使用できます。X 軸値または Y 軸値を使ってアラートを発生するかどうかを指定できます。

## 値のレベル

[値のレベル] は [値を使用] をクリックした場合にのみ表示されます。アラートの値のレベルを指定するには、次の 2 つの方法があります。

- インポートしたスプレッドシートから値のレベルを選択する場合は、[値のレベル] セル セクタ ボタンをクリックします。セル セクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セクタ ボタン」](#)を参照してください。
- 値のレベルを手動で入力する場合は、[値のレベル] 参照ボタンをクリックします。[参照] ボタンに関する説明は、[103 ページの「参照ボタン」](#)を参照してください。



## 色の数

「色の数」ボックスは、「パーセントを使用」をクリックした場合にのみ表示され、アラート色の数を指定できます。アラート色の変更するには、「色の数」ボックスの横にある上下の矢印を使用します。2 ～ 10 のアラート色を持つことができます。

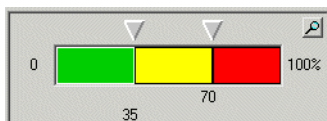
## コントロール パネルの制限



「コントロール パネルの制限」ボタンは、「パーセントを使用」をクリックした場合にのみ表示されます。「コントロール パネルの制限」ボタンをクリックすると、「コントロール パネルの制限」ダイアログ ボックスが表示されるので、最大と最小のパーセント値を設定できます。

## アラート レベルのカラー スケール

「パーセントを使用」をクリックした場合に、アラート レベルのカラー スケールを使って、アラートの色を生成するパーセントを指定できます。これらのパーセントを指定するには、スケールの下側に表示される希望のパーセントまでスケールの上にある矢印をドラッグします。



「値を使用」をクリックした場合は、アラート レベルのカラー スケールの色は「値のレベル」で指定した値を表します。

## 塗りつぶしの色

「塗りつぶしの色」の横にあるカラー セレクタ ボタンでは、さまざまなアラートレベルの塗りつぶし色をカスタマイズできます。アラート色をカスタマイズするには、アラートレベルのカラー スケールでカスタマイズする色をクリックします。クリックした色のカラー セレクタ ボタンが有効になります。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## フォントの色

「フォントの色」は、「値でのアラートを有効にする」を選択した場合にのみ使用できます。「フォントの色」の横にあるカラー セレクタ ボタンでは、値でのアラートの表示に使用されるフォントの色をカスタマイズできます。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## データなし

「データなし」の横にあるカラー セレクタ ボタンでは、データの無いコンポーネント部分のアラートの色をカスタマイズできます。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## アラート レベルの表示

「アラート レベル表示」領域の次の 3 つのチェック ボックスでは、アラートの表示方法をカスタマイズできます。

- オブジェクトでのアラートを有効にする  
「オブジェクトでのアラートを有効にする」チェック ボックスは、コンポーネントのアラート色を表示できるかどうかを制御します。
- 値でのアラートを有効にする  
「値でのアラートを有効にする」チェック ボックスは、アラート色ボックスで表示される値の表示 / 非表示を制御します。
- アラート レベルの表示を有効にする  
「アラート レベルの表示を有効にする」チェック ボックスは、すべてのアラート色とアラート色で示される値の範囲をコンポーネントが表示するかどうかを制御します。

**注** 「アラート レベルの表示」領域は、単一値のコンポーネントの大部分で使用でき、それ以外のすべてのコンポーネントで使用できません。

## ターゲット

ターゲット値を指定するには、「ターゲット」ボックスに数値を入力します。この方法は、単一値のコンポーネントに対して最適に動作します。

その他に、「ターゲット」セル セレクタ ボックスを使って、インポートしたスプレッドシートからターゲット データを選択することもできます。この方法は、チャートのコンポーネントに対して最適に動作します。セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

チャート コンポーネント 参照

9

章

## 概要

この章では、[チャート] フォルダにあるコンポーネントのプロパティ パネルの機能について説明します。

## [一般] タブ

### すべてのチャート コンポーネント に共通

#### データ範囲

この領域のオプションでは、選択したチャートのデータをすべて含む Excel データの範囲を選択します。

##### データ範囲

[データ範囲] をクリックすると、この領域のオプションが有効になります。横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、スプレッドシートからデータの範囲を選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページ](#)の「セル セレクタ ボタン」を参照してください。

##### 系列

このオプションは、系列情報が含まれている書式を制御します。次のオプションがあります。

- 行  
選択した範囲の行に系列情報が含まれていることを示すには、このオプションをクリックします。
- 列  
選択した範囲の列に系列情報が含まれていることを示すには、このオプションをクリックします。

#### 系列

この領域のオプションでは、コンポーネントの個々の系列データを編集します。

[名前] パラメータ、[X 値] パラメータ、および [Y 値] パラメータはすべて、[系列] ボックスで選択されて青色で強調表示されている系列名に適用されます。

## 系列

[系列] をクリックすると、このセクションのオプションが有効になります。リスト ボックスの系列をクリックすると、その系列のデータを編集できます。

## 追加

[追加] をクリックすると、新しい系列がチャートに追加されます。

## 削除

[削除] をクリックすると、系列がチャートから削除されます。[系列] ボックスで選択した系列が削除されます。

## 名前

[名前] ボックスに系列の名前を入力するか、横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、選択した系列の名前を設定します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## X 値

[X 値] ボックスの横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、選択した系列の X 値を選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、OHLC チャート コンポーネントとローソク足チャート コンポーネントには適用されません。

## Y 値

[Y 値] ボックスの横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、選択した系列の Y 値を選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、バブル チャート コンポーネントと XY チャート コンポーネントにのみ適用されます。

## サイズ

[サイズ] ボックスの横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、選択した系列のサイズ値を設定します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、バブル チャート コンポーネントにのみ適用されます。

### 始値

[始値] ボックスの横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、系列の始値を選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、OHLC チャート コンポーネントとろうそく足チャート コンポーネントにのみ適用されます。

### 高値

[高値] ボックスの横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、系列の高値を選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、OHLC チャート コンポーネントとろうそく足チャート コンポーネントにのみ適用されます。

### 低値

[低値] ボックスの横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、系列の低値を選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、OHLC チャート コンポーネントとろうそく足チャート コンポーネントにのみ適用されます。

### 終値

[終値] ボックスの横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、系列の終値を選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、OHLC チャート コンポーネントとろうそく足チャート コンポーネントにのみ適用されます。

### カテゴリ軸ラベル

[カテゴリ軸ラベル] ボタンの横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、選択した系列のカテゴリ軸ラベルを選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## タイトル

この領域のオプションでは、選択したコンポーネントのさまざまなタイトルを設定できます。

### チャートのタイトル

[チャートのタイトル] ボックスにチャートのタイトルを入力するか、横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、コンポーネントのタイトルを設定します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

### チャートのサブタイトル

[チャートのサブタイトル] ボックスにチャートのサブタイトルを入力するか、横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、コンポーネントのサブタイトルを設定します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

### カテゴリ (X) 軸のタイトル

[カテゴリ (X) 軸のタイトル] ボックスに X 軸タイトルを入力するか、横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、コンポーネントの X 軸タイトルを設定します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

### 値 (Y) 軸のタイトル

[値 (Y) 軸のタイトル] ボックスに Y 軸タイトルを入力するか、横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、コンポーネントの Y 軸タイトルを設定します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## [ドリルダウン] タブ

### 大部分のチャート コンポーネント に共通

#### ドリルダウンを有効にする

[ドリルダウンを有効にする] をクリックすると、このタブのオプションが有効になります。

#### 注

- このタブは、面チャート、積み上げ面チャート、レーダー チャート、塗りつぶしレーダー チャートの各コンポーネントには適用されません。
- このタブのオプションは、系列が [一般] タブのコンポーネントに追加されている場合にのみ使用できます。

### チャートのドリルダウン オプション

この領域のオプションは、選択時のチャート コンポーネントの動作を定義します。次のオプションがあります。

- 系列の挿入先

[系列の挿入先] セル セレクタ ボタンをクリックして、現在選択されている系列名の挿入先セルを選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページ](#)の「セル セレクタ ボタン」を参照してください。

- 挿入値

[挿入値] リストのオプションをクリックして、選択時に挿入されるデータの構造を決めます。次のオプションがあります。

- 位置

ターゲット セルがチャート コンポーネントにリンクされます。チャート コンポーネントで選択すると、選択した位置の値がターゲット セルに入力されます。

- 値

ターゲット セルがチャート コンポーネントにリンクされます。チャート コンポーネントで選択すると、選択したソース データの値がターゲット セルに入力されます。

- 行

ターゲット行がチャート コンポーネントにリンクされます。チャート コンポーネントで選択すると、選択したソース データ値の行がターゲット行に入力されます。

- 列

ターゲット列がチャート コンポーネントにリンクされます。チャート コンポーネントで選択すると、選択したソース データ値の列がターゲット列に入力されます。

- ステータス一覧

セルのターゲット範囲がチャート コンポーネントにリンクされます。チャート コンポーネントで選択すると、その選択を表す範囲のターゲットセルに 1 の値が入力され、同じ範囲のその他のセルに 0 の値が入力されます。



- 系列

[系列] リストのオプションをクリックして、設定先の系列を選択します。チャートの各系列は個々に設定する必要があります。

- 値の挿入先

[値の挿入先] ボックスの横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、選択したデータの挿入先セルを選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

- 変数の選択

[変数の選択] リストのオプションをクリックすると、挿入するデータのディメンションが決まります。次のオプションがあります。

- X 値

このオプションは、X と Y のディメンションを持つチャート コンポーネントに使用できます。ソース データの X 値が挿入されます。

- Y 値

このオプションは、X と Y のディメンションを持つチャート コンポーネントに使用できます。ソース データの Y 値が挿入されます。

- 始値

このオプションは、OHLC チャート コンポーネントとろうそく足チャート コンポーネントにのみ使用できます。ソース データの始値のディメンションから値が挿入されます。

- 高値

このオプションは、OHLC チャート コンポーネントとろうそく足チャート コンポーネントにのみ使用できます。ソース データの高値のディメンションから値が挿入されます。

- 低値

このオプションは、OHLC チャート コンポーネントとろうそく足チャート コンポーネントにのみ使用できます。ソース データの低値のディメンションから値が挿入されます。

- 終値

このオプションは、OHLC チャート コンポーネントとろうそく足チャート コンポーネントにのみ使用できます。ソース データの終値のディメンションから値が選択されます。

**注** [変数の選択] リストは、値が [挿入値] リストで選択されている場合にのみ有効です。

- ソース データ

[ソース データ] ボックスの横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、コンポーネントで選択するときに挿入されるデータを選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、[挿入オプション] リストで行または列が選択されている場合にのみ有効です。

### ドリルダウンの動作

この領域のオプションでは、選択されていることをコンポーネントが認識する方法を定義します。

[更新のタイミング] リストでオプションをクリックして、コンポーネントの認識方法を定義します。次のオプションがあります。

- マウス クリック

アイテムをクリックして選択します。

- マウス オーバー

アイテムの上をポインタが通過すると選択されます。

### デフォルトのオプション

この領域のオプションでは、コンポーネントのデフォルトのステータスを設定します。次のオプションがあります。

- デフォルトの系列

デフォルトの [系列] リストのオプションをクリックして、デフォルト値を設定する系列を選択します。

- デフォルト値

[デフォルト値] リストの値をクリックして、Xcelsius ビジュアルイゼーションのロード時にデフォルトで選択される系列の要素を選択します。このオプションは、Xcelsius ビジュアルイゼーションのロード時に [値の挿入先] ボックスに挿入されるデフォルトのデータも決めます。

## [動作] タブ

### すべてのチャート コンポーネント に共通

#### 動的ディスプレイ

[動的ディスプレイ] 領域で使用できるオプションについては、97 ページの「動的ディスプレイ」を参照してください。

#### 範囲オプション

この領域のオプションは、チャートによる範囲データの処理方法を制御します。

##### 系列：後ろの空白を無視

[系列：後ろの空白を無視] をクリックすると、末尾の空でない系列の後ろに続くすべての空系列がチャート コンポーネントで表示されなくなります。このオプションを使用すると、可変個の系列をチャート コンポーネントで表示できます。

##### 注

- チャート コンポーネントはデータ範囲内の一部のデータを表示しない場合がありますが、Xcelsius ビジュアライゼーションのパフォーマンスは、表示のサイズではなく範囲のサイズによって影響を受けます。
- このオプションは、円チャート コンポーネントには適用されません。

##### 値：後ろの空白を無視

[値：後ろの空白を無視] をクリックすると、末尾の空でない値の後ろに続くすべての空値がチャート コンポーネントで表示されなくなります。このオプションを使用すると、可変量のデータをチャート コンポーネントで表示できます。

**注** チャート コンポーネントはデータ範囲内の一部のデータを表示しない場合がありますが、Xcelsius ビジュアライゼーションのパフォーマンスは、表示のサイズではなく範囲のサイズによって影響を受けます。

### 大部分のチャート コンポーネント に共通

#### 目盛の動作

この領域のオプションは、データの変化に合わせてチャート軸の拡大縮小を制御します。

**注** この領域のオプションは、円チャート コンポーネントには適用されません。

#### 自動縮小

[自動縮小] をクリックすると、目盛の動作が設定されます。軸目盛は、データの変化に合わせて拡大するだけで、縮小することはありません。このオプションは、チャートがアニメーションで使用される場合にお勧めします。目盛を [自動縮小] に設定すると、チャートが最小化されます。

#### 自動調整

[自動調整] をクリックすると、目盛の動作が設定されます。軸目盛はデータの変化に合わせて拡大および縮小します。

#### 手動調整

[手動調整] をクリックすると、目盛の動作が設定されます。軸目盛はデータの変化に合わせて変化することはありません。最小と最大の目盛値は、設計時にツール ユーザーによって設定されます。

#### Y 軸の最小値

[Y 軸の最小値] ボックスに入力するか、横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、チャート コンポーネントの Y 軸に表示できる最小値を選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、[手動調整] が選択されている場合にのみ有効です。

#### Y 軸の最大値

[Y 軸の最大値] ボックスに入力するか、横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、チャート コンポーネントの Y 軸に表示できる最大値を選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、[手動調整] が選択されている場合にのみ有効です。

#### X 軸の最小値

[X 軸の最小値] ボックスに入力するか、横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、チャート コンポーネントの X 軸に表示できる最小値を選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、[手動調整] が選択されている場合にのみ有効です。

## X 軸の最大値

[X 軸の最大値] ボックスに入力するか、横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、チャート コンポーネントの X 軸に表示できる最大値を選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、[手動調整] が選択されている場合にのみ有効です。

## Y 軸目盛

[Y 軸目盛] のオプションをクリックして、チャート コンポーネントの Y 軸の書式を選択します。次のオプションがあります。

- 線形

このオプションをクリックすると、Y 軸値が線形目盛でプロットされます。線形目盛でプロットされる値は、チャート コンポーネントでは等間隔で表示されます。

- 対数

このオプションをクリックすると、Y 軸値が対数目盛でプロットされます。対数目盛でプロットされる値は、チャート コンポーネントでは不等間隔で表示されます。小さな値ほど間隔が大きくなり、大きな値ほど間隔が小さくなります。等しい割合に変更すると、等しい間隔で表示されます。

## X 軸目盛

[X 軸目盛] のオプションをクリックして、チャート コンポーネントの X 軸の書式を選択します。次のオプションがあります。

- 線形

このオプションをクリックすると、X 軸値が線形目盛でプロットされます。線形目盛でプロットされる値は、チャート コンポーネントでは等間隔で表示されます。

- 対数

このオプションをクリックすると、X 軸値が対数目盛でプロットされます。対数目盛でプロットされる値は、チャート コンポーネントでは不等間隔で表示されます。小さな値ほど間隔が大きくなり、大きな値ほど間隔が小さくなります。等しい割合に変更すると、等しい間隔で表示されます。

## 縮小の感度

このオプションは、チャート コンポーネントの目盛の動作を調整します。[縮小の感度]を設定すると、データの変化に合わせて拡大する軸目盛の値が決まります。

スライダをドラッグして、[縮小の感度]を設定します。感度を上げるには、スライダを右方向にドラッグします。スライダを左端に移動した場合には、軸目盛は、チャート目盛が変更されるときに小さい倍率で拡大します。スライダを右端に移動した場合には、軸目盛は、チャート目盛が変更されるときに大きな倍率で拡大します。

**注** このオプションは、[自動縮小] が選択されている場合にのみ有効です。

### ラベルの固定幅

[ラベルの固定幅] をクリックすると、軸ラベルの幅が固定されるため、目盛が変化しても幅はサイズ変更されません。

### ラベル単位の省略形の編集

[ラベル単位の省略形の編集] 参照ボタンをクリックすると、[ラベル単位の省略形] ダイアログ ボックスが表示されます。

参照ボタンについては、[103 ページの「参照ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、[ラベルの固定幅] が選択されている場合にのみ使用できます。

### [ラベル単位の省略形] ダイアログ ボックス

[表示される符号] ボックスで、軸ラベルで表示される単位の省略形を編集します。

## アニメーション

**注** このセクションのオプションは、面チャート コンポーネントと積み上げ面チャート コンポーネントには適用されません。

### アニメーションを有効にする

[アニメーションを有効にする] をクリックすると、Xcelsius ビジュアライゼーションの実行時にアニメーションがチャート コンポーネントに追加されます。棒が付いたチャート コンポーネントでは、Xcelsius ビジュアライゼーションの実行時にデータが変化すると、棒が拡大縮小します。点ベースのチャート コンポーネントでは、Xcelsius ビジュアライゼーションの実行時に、点が最大サイズまで拡大します。

## 実行時オプション

この領域のオプションは、生成される SWF ファイルのチャートで表示される設定オプションを制御します。これらのオプションでは、生成される SWF ファイルのチャートコンポーネントの [目盛の動作] 領域を実行時に変更できます。

## フォーカス ボタンを表示



[フォーカス ボタンを表示] をクリックすると、実行時の設定メニューにフォーカス ボタンが表示されます。フォーカス ボタンをクリックすると、チャート軸が現在のデータに基づいて拡大縮小します。

## 目盛のリセット ボタンを表示



[目盛のリセット ボタンを表示] をクリックすると、実行時の設定メニューにリセット ボタンが表示されます。リセット ボタンをクリックすると、最初にチャートがロードされたときのチャートの目盛にチャート軸が戻ります。

## 目盛の動作オプションを表示



[目盛の動作オプションを表示] をクリックすると、実行時の設定メニューに目盛の動作オプションが表示されます。目盛の動作オプションをクリックすると、チャート コンポーネントの目盛の動作が変更されます。次回にチャート データが変更されると、チャート軸が新しい設定に基づいて拡大縮小します。目盛の動作オプションには次のオプションがあります。

- [オン] をクリックすると、目盛の動作が [自動縮小] に設定されます。
- [オフ] をクリックすると、目盛の動作が [手動調整] に設定されます。
- [自動] をクリックすると、目盛の動作が [自動調整] に設定されます。

### 注



- 実行時オプションが有効になると、生成される SWF ファイルのチャートに実行時アイコンが表示されます。
- ポインタが実行時アイコンの上を通過すると、有効なオプションに基づいて実行時メニューのすべてまたは一部が表示されます。



## [アラート] タブ

[アラート] タブで利用できる機能については、103 ページの「共通の [アラート] タブ機能」を参照してください。

**注** [アラート] タブのオプションは、折れ線チャート、縦棒チャート、積み上げ縦棒チャート、棒チャート、積み上げ棒チャート、組み合わせチャート、バブル チャート、XY チャート、レーダー チャートの各コンポーネントにのみ適用されます。

## [表示] タブ

### すべてのチャート コンポーネント に共通

#### [タイトル] ボタン

##### チャート タイトル

この領域のオプションは、選択したチャートのタイトル領域を設定します。次のオプションがあります。

- タイトルを表示

[タイトルを表示] をクリックすると、選択したチャート コンポーネントにタイトルとサブタイトルが表示されます。

**注** この領域の他のオプションを有効にするために、[タイトルを表示] を選択する必要があります。

- タイトルのフォントの設定

フォントの設定については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。

- サブタイトルのフォントの設定

フォントの設定については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。

- 配置

[配置] リストの配置書式をクリックすると、チャートのタイトルとチャートのサブタイトルをカスタマイズできます。次の書式があります。

- 左
- 中央
- 右

- 境界線を表示

[境界線を表示] をクリックすると、タイトル領域の周囲に境界線が表示されます。

- 境界線の色

[境界線を表示] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、境界線の色を設定します。

カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。



- 塗りつぶしを表示

[塗りつぶしを表示] をクリックすると、タイトル領域の背景が塗りつぶされた背景色で表示されます。

- 塗りつぶしの色

[塗りつぶしの色] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、背景の塗りつぶしの色を設定します。

カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

- 幅

境界線の [幅] ボックスの値を調整して、境界線の幅を制御します。

## 凡例

この領域のオプションは、選択したチャートの凡例領域を設定します。次のオプションがあります。

- 凡例を表示

[凡例を表示] をクリックすると、チャート コンポーネントに凡例が表示されます。

**注** この領域の他のオプションを有効にするために、[凡例を表示] を選択する必要があります。

- 凡例のフォントの設定

フォントの設定については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。

- 境界線を表示

[境界線を表示] をクリックすると、凡例領域の周囲に境界線が表示されます。

- 境界線の色

[境界線を表示] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、境界線の色を設定します。

カラー セレクタ ボタンについては、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。

- 塗りつぶしを表示

[塗りつぶしを表示] をクリックすると、凡例領域の背景が塗りつぶされた背景色で表示されます。

- 塗りつぶしの色

[塗りつぶしの色] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、背景の塗りつぶしの色を設定します。

カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

- 幅

境界線の [幅] ボックスの値を調整して、境界線の幅を制御します。

- 配置

[配置] リストのオプションをクリックして、チャート コンポーネントの凡例領域の位置を設定します。次のオプションがあります。

- 上
- 左
- 右
- 下

- 左右の位置調整

左右の位置調整については、[98 ページの「左右の位置調整」](#)を参照してください。

- 上下の位置調整

上下の位置調整については、[99 ページの「上下の位置調整」](#)を参照してください。

## [レイアウト] ボタン

### チャート領域

この領域のオプションは、チャート コンポーネントに背景と境界線の表示を設定します。次のオプションがあります。

- 背景を表示

[背景を表示] をクリックすると、チャート コンポーネントの背景が表示されます。

- カスタム カラーを使用

[カスタム カラーを使用] をクリックすると、チャート領域の色をカスタマイズする機能が有効になります。

- 背景色

[背景色] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックすると、背景色をカスタマイズできます。

カラー セレクタ ボタンについては、102 ページの「カラー セレクタ ボタン」を参照してください。

## プロット領域

この領域のオプションは、チャート コンポーネントにプロット領域を設定します。次のオプションがあります。

- 境界線を表示

[境界線を表示] をクリックすると、プロット領域の周囲に境界線が表示されます。

- 境界線の色

[境界線を表示] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックすると、境界線の色をカスタマイズできます。

カラー セレクタ ボタンについては、102 ページの「カラー セレクタ ボタン」を参照してください。

- 塗りつぶしを表示

[塗りつぶしを表示] をクリックすると、プロット領域の背景が塗りつぶされた背景色で表示されます。

- 塗りつぶしの色

[塗りつぶしを表示] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、背景の塗りつぶしの色を設定します。

カラー セレクタ ボタンについては、102 ページの「カラー セレクタ ボタン」を参照してください。

- 余白

[余白] ボックスの値を調整して、プロット領域の外側の端とチャート領域の外側の端との間隔を制御します。

- 幅

[幅] ボックスの値を調整して、境界線の幅をカスタマイズします。

- 主仕切を使用

[主仕切を使用] をクリックすると、主仕切オプションが有効になります。このオプションは、X 軸に表示される値ラベルの数を制御します。[主仕切を使用] ボックスに入力するか、横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして、チャート コンポーネントで表示される主仕切の値を選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページ](#)の「セル セレクタ ボタン」を参照してください。

#### 注

- このオプションは、円チャート コンポーネントには適用されません。
- このオプションは、[動作] タブの [目盛の動作] 領域で [手動] が選択されている場合にのみ有効です。
- 間隔を使用

[間隔を使用] をクリックすると、Y 軸に表示される値の間隔をカスタマイズできます。[間隔を使用] ボックスに入力するか、横にあるセル セレクタ ボタンをクリックして値間の間隔を選択します。

セル セレクタ ボタンについては、[102 ページ](#)の「セル セレクタ ボタン」を参照してください。

**注** このオプションは、円チャート コンポーネントには適用されません。

- 補助仕切

[補助仕切] ボックスの値を調整して、主なグリッドライン間に表示される線数を制御します。

**注** このオプションは、円チャート コンポーネントには適用されません。

### 水平グリッドライン

**注** この領域のオプションは、円チャート コンポーネントには適用されません。

この領域のオプションは、チャート コンポーネントのプロット領域の水平グリッドラインの表示を制御します。次のオプションがあります。

- 主グリッドライン

[主グリッドライン] をクリックすると、チャート コンポーネントのプロット領域に主水平グリッドラインが表示されます。

- 主グリッドラインの色

[主グリッドライン] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックすると、主グリッドラインの色をカスタマイズできます。

カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページ](#)の「カラー セレクタ ボタン」を参照してください。

- 主グリッドラインの幅

[主グリッドラインの幅] ボックスの値を調整して、主グリッドラインの幅をカスタマイズします。

- 補助グリッドライン  
[補助グリッドライン] をクリックすると、チャート コンポーネントのプロット領域に補助水平グリッドラインが表示されます。
- 補助グリッドラインの色  
[補助グリッドライン] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックすると、補助グリッドラインの色をカスタマイズできます。  
カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。
- 補助グリッドラインの幅  
[補助グリッドラインの幅] ボックスの値を調整して、補助グリッドラインの幅をカスタマイズします。

## 垂直グリッドライン

**注** この領域のオプションは、円チャート コンポーネントには適用されません。

この領域のオプションは、チャート コンポーネントのプロット領域の垂直グリッドラインの表示を制御します。次のオプションがあります。

- 主グリッドライン  
[主グリッドライン] をクリックすると、チャート コンポーネントのプロット領域に主垂直グリッドラインが表示されます。
- 主グリッドラインの色  
[主グリッドライン] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックすると、主グリッドラインの色をカスタマイズできます。  
カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。
- 主グリッドラインの幅  
[主グリッドラインの幅] ボックスの値を調整して、主グリッドラインの幅をカスタマイズします。
- 補助グリッドライン  
[補助グリッドライン] をクリックすると、チャート コンポーネントのプロット領域に補助垂直グリッドラインが表示されます。
- 補助グリッドラインの色  
[補助グリッドライン] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックすると、補助グリッドラインの色をカスタマイズできます。  
カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

- 補助グリッドラインの幅

[補助グリッドラインの幅] ボックスの値を調整して、補助グリッドラインの幅をカスタマイズします。

## 大部分のチャート コンポーネント に共通

### Y 軸ボタン

**注** このボタンで有効になるオプションは、円チャート コンポーネントには適用されません。ボタンは円チャート コンポーネントの [表示] タブに表示されますが、有効にはなりません。

#### 垂直軸のタイトル

この領域のオプションは、チャート コンポーネントに垂直軸のタイトルを設定します。次のオプションがあります。

- タイトルを表示

[タイトルを表示] をクリックすると、チャート コンポーネントに垂直軸のタイトルが表示されます。

- タイトルのフォントの設定

フォントの設定については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。

#### 垂直軸

このセクションのオプションを使って、垂直軸の表示を設定します。

- 軸を表示

[軸を表示] をクリックすると、チャート コンポーネントの垂直軸が表示されます。

- 軸の色

[軸を表示] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、軸の色を設定します。

カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、垂直軸と目盛に適用されます。

- 幅

[軸の幅] は軸の幅を制御します。[幅] ボックスの値を調整して、軸の幅を設定します。

**注** このオプションは、垂直軸と目盛に適用されます。

- 主目盛を表示  
[主目盛を表示] をクリックすると、垂直軸と主グリッドラインが交差する場所に水平目盛が表示されます。  
**注** このオプションは、棒チャート コンポーネントには適用されません。
- 補助目盛を表示  
[補助目盛を表示] をクリックすると、垂直軸と補助グリッドラインが交差する場所に水平目盛が表示されます。  
**注** このオプションは、棒チャート コンポーネントには適用されません。

### 垂直軸ラベル

この領域のオプションは、垂直軸に沿って表示される値ラベルの表示を設定します。次のオプションがあります。

- ラベルを表示  
[ラベルを表示] をクリックすると、垂直軸に値ラベルが表示されます。値ラベルは、垂直軸と主グリッドラインが交差する場所に表示されます。
- フォントの設定  
フォントの設定については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。
- 数値形式  
[数値書式]リストについては、[100 ページの「数値書式」](#)を参照してください。  
**注** このオプションは、棒チャート コンポーネントには適用されません。

## X 軸ボタン

**注** このボタンで有効になるオプションは、円チャート コンポーネントには適用されません。ボタンは円チャート コンポーネントの [表示] タブに表示されますが、有効にはなりません。

### 水平軸タイトル

この領域のオプションは、チャート コンポーネントに水平軸のタイトルを設定します。次のオプションがあります。

- タイトルを表示  
[タイトルを表示] をクリックすると、チャート コンポーネントに水平軸のタイトルが表示されます。
- タイトルのフォントの設定  
フォントの設定については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。

#### 水平軸

この領域のオプションは、水平軸の表示を設定します。次のオプションがあります。

- 軸を表示

[軸を表示] をクリックすると、チャート コンポーネントの水平軸が表示されます。

- 軸の色

[軸を表示] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、軸の色を設定します。

カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、水平軸と目盛に適用されます。

- 幅

[軸の幅] は軸の幅を制御します。[幅] ボックスの値を調整して、軸の幅を設定します。

**注** このオプションは、水平軸と目盛に適用されます。

- 主目盛を表示

[主目盛を表示] をクリックすると、水平軸と主グリッドラインが交差する場所に垂直目盛が表示されます。

**注** このオプションは、縦棒チャート コンポーネントと折れ線チャート コンポーネントには適用されません。

- 補助目盛を表示

[補助目盛を表示] をクリックすると、水平軸と補助グリッドラインが交差する場所に垂直目盛が表示されます。

**注** このオプションは、縦棒チャート コンポーネントと折れ線チャート コンポーネントには適用されません。

#### 水平軸ラベル

この領域のオプションは、水平軸に沿って表示される値ラベルの表示を設定します。

- ラベルを表示

[ラベルを表示] をクリックすると、値ラベルが水平軸に表示されます。値ラベルは、水平軸と主グリッドラインが交差する場所に表示されます。

- フォントの設定

フォントの設定については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。



- 数値形式

[数値書式]リストについては、[100 ページの「数値書式」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、折れ線チャート、縦棒チャート、レーダー チャート、塗りつぶしレーダー チャートの各コンポーネントには適用されません。

## 系列ボタン

**注** このボタンで有効になるオプションは、面チャート、積み上げ面チャート、塗りつぶしレーダー チャートの各コンポーネントには適用されません。

### 値

この領域のオプションは、選択したコンポーネントに値ラベルの表示を設定します。値ラベルは、ポインタが値マーカー記号の上を通過するときに表示されます。次のオプションがあります。

- 値を表示

[値を表示] をクリックすると、ポインタがマーカー記号の上を通過するとき値ラベルが表示されます。

**注** このオプションは、XY チャート コンポーネントとバブル チャート コンポーネントには適用されません。

- フォントの設定

フォントの設定については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、XY チャート コンポーネントとバブル チャート コンポーネントには適用されません。

- 数値形式

[数値書式]リストについては、[100 ページの「数値書式」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、XY チャート コンポーネントとバブル チャート コンポーネントには適用されません。

- 現在の値

このオプションは、値ラベルに表示される値を制御します。次のオプションがあります。

- X 値
- Y 値
- サイズ

**注** このオプションは、XY チャート、バブル チャート、OHLC チャート、ろうそく足チャートの各コンポーネントにのみ適用されます。

### プロットの設定

この領域のオプションは、チャート コンポーネントにプロット領域のマーカーを設定します。次のオプションがあります。

- マーカーを表示

[マーカーを表示] をクリックすると、チャート コンポーネントに線マーカーが表示されます。

**注** このオプションは、折れ線チャート、組み合わせチャート、レーダーチャートの各コンポーネントにのみ適用されます。

- カスタム カラーを使用

[カスタム カラーを使用] をクリックすると、チャート コンポーネントの表示をカスタマイズできます。

**注** このオプションは、組み合わせチャート コンポーネントには適用されません。

- マーカーのサイズ

[マーカーのサイズ] ボックスの値を調整して、チャート コンポーネントに表示されるマーカーのサイズを設定します。

**注** このオプションは、折れ線チャート、組み合わせチャート、レーダーチャートの各コンポーネントにのみ適用されます。

- 透明度

透明度については、[98 ページの「透明度」](#)を参照してください。

- 線を表示

[線を表示] をクリックすると、円スライス間に境界線が表示されます。

**注** このオプションは、円チャート コンポーネントにのみ適用されます。

- 幅

このオプションは、境界線の幅を制御します。[幅] ボックスの値を調整して、線の幅をカスタマイズします。

**注** このオプションは、円チャート コンポーネントにのみ使用できます。

- 強調表示を表示

[強調表示を表示] をクリックすると、マーカーの強調表示が有効になります。このオプションを有効にすると、チャート マーカー記号の背景に円形の強調効果が表示されます。

**注** このオプションは、レーダー チャート コンポーネントにのみ適用されます。

- 棒の幅

[棒の幅] ボックスの値を 1 ～ 100 に調整して、チャート コンポーネントに表示される棒の幅を設定します。

**注** このオプションは、棒チャート コンポーネントにのみ適用されます。

- 透明度

透明度については、98 ページの「透明度」を参照してください。

- 棒の間隔

[棒の間隔] ボックスの値を 1 ～ 100 に調整して、チャート コンポーネントに表示される棒の間隔を設定します。

**注** このオプションは、積み上げ縦棒チャート コンポーネントと積み上げ棒チャート コンポーネントにのみ適用されます。

- 棒のオーバーラップ

[棒のオーバーラップ] ボックスの値を 1 ～ 100 に調整して、チャート コンポーネントに表示される棒の重なり合う幅を設定します。 [棒のオーバーラップ] ボックスの値を上げると、棒の重なり合いが大きくなります。

## 棒チャート

この領域のオプションは、チャート コンポーネントに系列マーカの表示を設定します。次のオプションがあります。

- 系列

[系列] リストのオプションをクリックして、変更する系列を選択します。 [棒の色] オプションは、選択した系列にのみ適用されます。

- 棒の色

[棒の色] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、チャート コンポーネントに表示される棒の表示をカスタマイズします。

**注** この領域のオプションは、縦棒チャート、積み上げ縦棒チャート、棒チャート、積み上げ棒チャートの各コンポーネントにのみ適用されます。

## 線とマーカー

**注** このセクションのオプションは、折れ線チャート、面チャート、積み上げ面チャート、レーダー チャートの各コンポーネントにのみ適用されます。

この領域のオプションは、チャート コンポーネントに系列マーカの表示を設定します。次のオプションがあります。

- 系列

[系列] リストのオプションをクリックして、変更する系列を選択します。

- 線の色

[線の色] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、チャート コンポーネントに表示される線の表示をカスタマイズします。

カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、折れ線チャート コンポーネントとレーダーチャート コンポーネントにのみ適用されます。

- 幅

[幅] ボックスの値を調整して、選択した系列の線の幅を設定します。

**注** このオプションは、折れ線チャート コンポーネントとレーダーチャート コンポーネントにのみ適用されます。

- マーカー

[マーカー] リストのマーカー書式をクリックして、チャート コンポーネントに表示されるマーカー記号を設定します。次のオプションがあります。

- 円
- 星印
- ダイヤモンド形
- 三角形
- X

**注** このオプションは、折れ線チャート コンポーネントとレーダーチャート コンポーネントにのみ適用されます。

- マーカーの色

[マーカー] ボックスの横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、チャート コンポーネントに表示されるマーカーの色をカスタマイズします。

カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、折れ線チャート コンポーネントとレーダーチャート コンポーネントにのみ適用されます。

### マーカー

**注** この領域のオプションは、OHLC チャート コンポーネントとろうそく足チャート コンポーネントにのみ適用されます。

この領域のオプションは、チャート コンポーネントに表示されるマーカーをカスタマイズします。次のオプションがあります。

- 系列

[系列] リストのいずれかの項目をクリックすると、色をカスタマイズする系列が指定されます。

- 正の色

[正の色] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、始値より終値が高い系列の色をカスタマイズします。

カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

- 負の色

[負の色] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、始値より終値が低い系列の色をカスタマイズします。

カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## 系列の設定

**注** この領域のオプションは、面チャート、積み上げ面チャート、塗りつぶしレーダー チャートの各コンポーネントにのみ使用できます。

この領域のオプションは、チャート コンポーネントに表示される系列の表示をカスタマイズします。次のオプションがあります。

- 透明度

透明度については、[98 ページの「透明度」](#)を参照してください。

## 円チャート コンポーネント に固有

### 系列ボタン

#### スライス

この領域のオプションは、円チャート コンポーネントに円スライスの表示を設定します。

- データ要素

[データ要素] リストのオプションをクリックして、カスタマイズするスライスを選択します。

- スライスの色  
[スライスの色] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、  
[データ要素] リストで選択したスライスの色をカスタマイズします。  
カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## 組み合わせチャート コンポーネント に固有

### 系列ボタン

#### カスタム プロットの設定

この領域のオプションは、組み合わせチャート コンポーネントにプロット領域のマーカーを設定します。次のオプションがあります。

- 棒の幅  
[棒の幅] ボックスの値を 1 ～ 100 に調整して、組み合わせチャート コンポーネントに表示される棒の幅を設定します。
- 透明度  
透明度については、[98 ページの「透明度」](#)を参照してください。

#### 線プロットの設定

この領域のオプションは、組み合わせチャート コンポーネントにプロット領域のマーカーを設定します。

- マーカーを表示  
[マーカーを表示] をクリックすると、選択したチャートに線マーカーが表示されます。
- マーカーのサイズ  
[マーカーのサイズ] ボックスの値を調整して、組み合わせチャート コンポーネントに表示されるマーカーのサイズを設定します。
- 透明度  
透明度については、[98 ページの「透明度」](#)を参照してください。

#### 系列マーカー

この領域のオプションは、組み合わせチャート コンポーネントに表示される系列マーカーの表示をカスタマイズします。次のオプションがあります。

- カスタム カラーを使用  
[カスタム カラーを使用] をクリックすると、選択したマーカーの表示をカスタマイズできます。

- 系列

[系列] リストのオプションをクリックして、変更する系列を選択します。このセクションの他のオプションは、選択した系列にのみ適用されます。

- 系列タイプ

[系列タイプ] のオプションをクリックして、選択した系列を表すマーカーのタイプを選択します。

- 棒の色

[棒の色] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、組み合わせチャート コンポーネントに表示される棒の表示をカスタマイズします。

カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、[系列タイプ] が [縦棒] に設定されている場合にのみ有効になります。

- 線の色

- [線の色] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、組み合わせチャート コンポーネントに表示される線の表示をカスタマイズします。

**注** このオプションは、[系列タイプ] が [折れ線] に設定されている場合にのみ有効になります。

- 線の幅

線の [幅] ボックスの値を調整して、選択した系列の線の幅を制御します。

**注** このオプションは、[系列タイプ] が [折れ線] に設定されている場合にのみ有効になります。

- マーカー

[マーカー] リストのマーカー書式をクリックして、組み合わせチャート コンポーネントに表示されるマーカー記号を設定します。次のオプションがあります。

- 円
- ダイヤモンド形
- 星印
- 三角形
- X

- マーカーの色

[マーカー] ボックスの横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、組み合わせチャート コンポーネントに表示されるマーカーの表示をカスタマイズします。

カラー セレクタ ボタンについては、102 ページの「[カラー セレクタ ボタン](#)」を参照してください。

## バブル チャート コンポーネント に固有

### 系列ボタン

#### プロットの設定

この領域のオプションは、バブル チャート コンポーネントにプロット領域のマーカーを設定します。次のオプションがあります。

- カスタム カラーを使用  
[カスタム カラーを使用] をクリックすると、バブル チャート コンポーネントの表示をカスタマイズできます。
- バブル サイズ  
[バブル サイズ] ボックスの値を 1 ～ 100 に調整して、バブル チャート コンポーネントに表示されるバブルのサイズをカスタマイズします。
- 透明度

透明度については、98 ページの「[透明度](#)」を参照してください。

#### バブル

この領域のオプションは、バブル チャート コンポーネントに系列マーカーの表示を設定します。次のオプションがあります。

- 系列  
[系列] リストのオプションをクリックして、変更する系列を選択します。バブルの [色] オプションは、選択した系列にのみ適用されます。
- バブルの色  
[色] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、バブル チャート コンポーネントに表示されるバブルの表示をカスタマイズします。  
カラー セレクタ ボタンについては、102 ページの「[カラー セレクタ ボタン](#)」を参照してください。



## XY チャート コンポーネント に固有

### 系列ボタン

#### プロットの設定

この領域のオプションは、XY チャート コンポーネントにプロット領域のマーカーを設定します。次のオプションがあります。

- カスタム カラーを使用  
[カスタム カラーを使用] をクリックすると、XY チャート コンポーネントの表示をカスタマイズできます。
- 記号のサイズ  
[記号のサイズ] ボックスの値を調整して、XY チャート コンポーネントに表示される記号のサイズをカスタマイズします。
- 透明度  
透明度については、98 ページの「[透明度](#)」を参照してください。

#### 記号

このセクションのオプションは、XY チャート コンポーネントに系列マーカーの表示を設定します。次のオプションがあります。

- 系列  
[系列] リストのオプションをクリックして、変更する系列を選択します。バブルの [色] オプションは、選択した系列にのみ適用されます。
- シンボル  
[シンボル] リストの記号書式をクリックして、組み合わせチャート コンポーネントに表示される記号を設定します。次のオプションがあります。
  - 円
  - ダイヤモンド形
  - 星印
  - 三角形
  - X
- 記号の色  
[シンボル] リストの横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、XY チャート コンポーネントに表示される記号の表示をカスタマイズします。  
カラー セレクタ ボタンについては、102 ページの「[カラー セレクタ ボタン](#)」を参照してください。

## 塗りつぶしレーダー チャート コンポーネント に固有

### 系列ボタン

#### 系列の色

この領域のオプションは、塗りつぶしレーダー チャート コンポーネントに系列マーカーの表示を設定します。次のオプションがあります。

- 系列

[系列] リストのオプションをクリックして、変更する系列を選択します。このセクションの他のパラメータは、選択した系列にのみ適用されます。

- 塗りつぶしの色

[塗りつぶしの色] の横にあるカラー セレクタ ボタンをクリックして、塗りつぶしレーダー チャート コンポーネントにデータを表示するために、塗りつぶしされる領域の表示をカスタマイズします。

カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページ](#)の「[カラー セレクタ ボタン](#)」を参照してください。

#### 系列の設定

- 透明度

透明度については、[98 ページ](#)の「[透明度](#)」を参照してください。

単一値コンポーネントとは

10

章

## 概要

この章では、[単一値] フォルダ内のコンポーネントに使用するプロパティパネルの機能について説明します。

## [一般] タブ

[一般] タブでは、単一値コンポーネントをデータにリンクすることができます。

## 全コンポーネント 共通

このセクションは、すべての単一値コンポーネントに適用されます。

### タイトル

単一値コンポーネントにタイトルを付けるには、[タイトル] テキスト ボックスに適切なタイトルを入力します。[タイトル] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートからタイトルを選択することもできます。セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## 一部のコンポーネント を除き 共通

このセクションは、二点スライダ コンポーネントを除くすべての単一値コンポーネントに適用されます。

### リンク先セル

単一値コンポーネントをデータとリンクするには、手作業で[リンク先セル] ボックスにデータ値を入力します。[リンク先セル] セル セレクタ ボタンをクリックして、インポートしたスプレッドシート内のセルに単一値コンポーネントをリンクすることもできます。単一値コンポーネントの値を変更すると、リンク先セルの値も変わります。セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## 二点スライダ コンポーネント 専用

このセクションは、次のコンポーネントに適用されます。

- 二点スライダ -0
- 二点スライダ -1

### 低い値データ

[低い値データ] には、二点スライダ コンポーネントの左ポインタのデフォルト値を指定します。低い値データを手作業で入力するには、[低い値データ] ボックスに適切な値を入力します。[低い値データ] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートから値を選択することもできます。セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

### 高い値データ

[高い値データ] には、二点スライダ コンポーネントの右ポインタのデフォルト値を指定します。高い値データを手作業で入力するには、[高い値データ] ボックスに適切な値を入力します。[高い値データ] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートから値を選択することもできます。セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## [動作] タブ

[動作] タブでは、Xcelsius ビジュアライゼーションが対話形式で実行されているときの、単一値コンポーネントの動作を決定します。

## 全コンポーネント 共通

このセクションの機能は、すべての単一値コンポーネントの「動作」タブに表示されます。作業対象のコンポーネントによっては、一部の機能が使用できない場合もあります。

### 動的ディスプレイ

[動的ディスプレイ] 領域にある機能の詳細については、[97 ページの「動的ディスプレイ」](#)を参照してください。

## 初期制限の計算

[初期制限の計算] リストには、単一値コンポーネントに制限を設定し、初期値が制限を超えないようにするためのオプションが表示されます。作業対象のコンポーネントによっては、一部のオプションが使用できない場合があります。

- 手動  
制限の最小値と最大値を手作業で設定します。
- 値ベース  
値の前後のきわめて狭い範囲で制限を設定します。
- ゼロ ベース  
特定の値を含み、上限または下限をゼロとする範囲で制限を設定します。
- ゼロ中心  
特定の値とゼロを含む範囲で制限を設定します。
- アラート ベース  
すべてのアラート レベルを含めた範囲で制限を設定します。

[初期制限の計算] リストは、再生ボタン、スピニング ボタン、および値コンポーネントには使用できません。

## 下限の動作

[下限の動作] リストでは、単一値コンポーネントに最小値の動作を設定する3つのオプションを指定できます。作業対象のコンポーネントによっては、一部のオプションが使用できない場合があります。

- 固定  
この値を最小値より小さい数に設定することはできません。
- 調節可能  
Xcelsius ビジュアライゼーションが対話形式で実行されている場合、最小値を調節できます。このオプションは、値コンポーネントを除くすべてのコンポーネントに使用できます。
- 始値  
この値には、最大値と競合しなければ、任意の数を設定できます。

**注** [下限の動作] リストは、再生ボタン コンポーネントには使用できません。

## 上限の動作

[上限の動作] リストでは、単一値コンポーネントに最大値の動作を設定する3つのオプションを指定できます。作業対象のコンポーネントによっては、一部のオプションが使用できない場合もあります。

- 固定

この値を最大値より大きい値に設定することはできません。

- 調節可能

Xcelsius ビジュアライゼーションが対話形式で実行されている場合、最大値を調節できます。このオプションは、値コンポーネントを除くすべてのコンポーネントに使用できます。

- 始値

この値には、下限と競合しなければ、任意の数を設定できます。

[上限の動作] リストは、再生ボタン コンポーネントには使用できません。

## 最小値

コンポーネントの最小値を設定するには、[最小値] ボックスに値を入力します。[最小値] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートから値を選択することもできます。セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## 最大値

コンポーネントの最大値を設定するには、[最大値] ボックスに値を入力します。[最大値] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートから値を選択することもできます。セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## 増分サイズ

[増分サイズ] ボックスを使用すると、手作業で入力される値を制限するために一定の増分量を指定できます。[増分サイズ] ボックスに適切な値を入力します。

## 目盛に合わせる

[目盛に合わせる] チェック ボックスをオンにすると、値に合わせてコンポーネントがグラフィック表示されます。

**注** [目盛に合わせる] オプションは、再生ボタンおよび値コンポーネントには使用できません。

## 再生オプション

[再生オプション] 領域では、単一値コンポーネントでの再生ボタンの動作をカスタマイズできます。

**注** [再生オプション] 領域は、二点スライダおよびスピン ボタン コンポーネントには使用できません。

### 再生時間

[再生時間] ボックスには、連続再生の持続時間を秒単位で設定できます。1 から 100 までの値を入力できます。最短の持続期間が 1 で、最長が 100 です。

### 再生ボタンを表示する

[再生ボタンを表示する] チェック ボックスをオンにすると、そのコンポーネントに再生ボタンが表示されます。

### 自動的に巻き戻す

[自動的に巻き戻す] チェック ボックスは、Xcelsius ビジュアライゼーションが対話形式で実行されているときに、そのコンポーネントの連続再生を自動的に巻き戻すかどうかを指定します。

### 自動的に再生する

[自動的に再生する] チェック ボックスは、Xcelsius ビジュアライゼーションが対話形式で実行されているときに、そのコンポーネントの連続再生を自動的に再生するかどうかを指定します。

### サウンドを有効にする

[サウンドを有効にする] チェック ボックスをオンにすると、そのコンポーネントのサウンドが有効になります。

### スライダを表示する

再生ボタン コンポーネントに限り、[スライダを表示する] チェック ボックスは [再生オプション] 領域に表示されます。このチェック ボックスで、再生ボタン コンポーネントのスライダを表示するかどうかを設定します。

### 巻き戻し / 早送りを表示する

再生ボタン コンポーネントに限り、[巻き戻し / 早送りを表示する] チェック ボックスは [再生オプション] 領域に表示されます。このチェック ボックスで、再生ボタン コンポーネントの巻き戻し / 早送りボタンを表示するかどうかを設定します。



## 前 / 次を表示する

再生ボタン コンポーネントに限り、[前 / 次を表示する] チェック ボックスは[再生オプション] 領域に表示されます。このチェック ボックスで、再生ボタン コンポーネントの前 / 次ボタンを表示するかどうかを設定します。

## 一部のコンポーネント に共通

このセクションの機能は、Single Value フォルダの特定のコンポーネントに適用されます。

### マウスの感度

[マウスの感度] スライダは、ポインタの動きに対するコンポーネント値の感度を設定します。感度を高く設定すると、ポインタのわずかな動きで、値が大幅に変化します。感度を低く設定すると、ポインタの動きによる値の変化が小さくなります。[マウスの感度] スライダは、値、メーター、およびダイアル コンポーネントに使用できます。

### マウス トラッキング

[マウス トラッキング] の下にあるオプションのどちらかをクリックして、コンポーネントの値を変更するときに必要なポインタ操作を指定します。

- 縦

値を変更するには、ポインタを上下に移動させる必要があります。

- 放射状

値を変更するには、円を描くようにポインタを移動させる必要があります。

[マウス トラッキング] オプションは、メーターおよびダイアル コンポーネントのみに使用できます。

### 値ボックスの自動サイズ変更

[値ボックスの自動サイズ変更] チェック ボックスをオンにすると、表示する数に合わせてコンポーネントのサイズが自動的に変更されるようになります。[値ボックスの自動サイズ変更] チェック ボックスは、スピン ボタンおよび値コンポーネントの場合のみ表示されます。

### オブジェクトの弾力性

[オブジェクトの弾力性] スライダは、メーター コンポーネントの場合のみ表示され、針の動きの弾力性を決定することができます。

## 10 | 単一値コンポーネントとは [アラート] タブ

### スクロールの動作

[スクロールの動作] オプションは、値コンポーネントの場合のみ表示されます。[スクロールの動作] の下のオプションをクリックして、値を変更するために必要な操作を決定します。

- 手動

値を変更するには、ポインタを上下にドラッグさせる必要があります。

- 自動

ポインタを値コンポーネントの上または下までドラッグして、値を変更します。

## [アラート] タブ

[アラート] タブの機能の詳細については、[103 ページの「共通の \[アラート\] タブ機能」](#)を参照してください。

## [表示] タブ

[表示] タブでは、単一値コンポーネントの表示をカスタマイズすることができます。

## 全コンポーネント 共通

このセクションの機能は、ほとんどすべての単一値コンポーネントに適用されます。

### [タイトル] ボタン

#### タイトルを表示

[タイトルを表示] チェック ボックスは、コンポーネントのタイトルの表示を制御します。[タイトルを表示] をオンにすると、値の表示をカスタマイズするために、次のオプションを使用できるようになります。

- 位置

[位置] リストの詳細については、[99 ページの「位置」](#)を参照してください。

- 左右の位置調整

[左右の位置調整] ボックスの詳細については、[98 ページの「左右の位置調整」](#)を参照してください。

- 上下の位置調整  
[上下の位置調整] ボックスの詳細については、[99 ページの「上下の位置調整」](#)を参照してください。
- フォントの設定  
フォントの設定領域にある機能の詳細については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。

## 値を表示

[値を表示] チェック ボックスは、コンポーネントで選択された値の表示を制御します。[値を表示] をオンにすると、値の表示をカスタマイズするために、次のオプションを使用できるようになります。

- 位置  
[位置] リストの詳細については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。
- 左右の位置調整  
[左右の位置調整] ボックスの詳細については、[98 ページの「左右の位置調整」](#)を参照してください。
- 上下の位置調整  
[上下の位置調整] ボックスの詳細については、[99 ページの「上下の位置調整」](#)を参照してください。
- フォントの設定  
フォントの設定領域にある機能の詳細については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。
- 数値形式  
[数値形式] リストの詳細については、[100 ページの「数値書式」](#)を参照してください。
- 左  
このオプションは、二点スライダ コンポーネントの場合のみ表示されます。[左] ボックスを使用して、低い値のラベルを[位置] リストで指定した位置より左右に移動することができます。負の値を指定すると低い値のラベルは左に移動し、正の値を指定すると、右に移動します。
- 右  
このオプションは、二点スライダ コンポーネントの場合のみ表示されます。[右] ボックスを使用して、高い値のラベルを[位置] リストで指定した位置より左右に移動することができます。負の値を指定すると低い値のラベルは左に移動し、正の値を指定すると、右に移動します。

## 10 | 単一値コンポーネントとは

[表示] タブ

- 下

このオプションは、二点スライダ コンポーネントの場合のみ表示されます。  
[下] ボックスを使用して、低い値のラベルを [位置] リストで指定した位置より上または下に移動することができます。負の値を指定すると低い値のラベルは下方に移動し、正の値を指定すると、上方に移動します。

- 上

このオプションは、二点スライダ コンポーネントの場合のみ表示されます。  
[上] ボックスを使用して、高い値のラベルを [位置] リストで指定した位置より上または下に移動することができます。負の値を指定すると高い値のラベルは下方に移動し、正の値を指定すると、上方に移動します。

### [レイアウト] ボタン

#### カスタム カラーを使用

[カスタム カラーを使用] チェック ボックスをオンにすると、コンポーネントの一部の色をカスタマイズするために、次のオプションを使用できるようになります。作業対象のコンポーネントによっては、一部のオプションが使用できない場合もあります。

- 低い値マーカーの色
- 高い値マーカーの色
- 内側余白の色
- 背景色
- 上マーカー
  - デフォルトの矢印
  - 選択された矢印
  - デフォルトの塗りつぶし
  - 選択された塗りつぶし
- 下マーカー
  - デフォルトの矢印
  - 選択された矢印
  - デフォルトの塗りつぶし
  - 選択された塗りつぶし
- 背景を表示
- 再生ボタンの色
- 再生記号の色

- スライダー内側余白の色
- マーカーの色
- 制限の塗りつぶしの色
- 塗りつぶしの色
- ポインタ
- リム
- 中間
- 背景
- グリップ

色をカスタマイズするには、隣接するカラー セクタ ボタンをクリックします。カラー セクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セクタ ボタン」](#)を参照してください。

## 一部のコンポーネントに共通

このセクションの機能は、特定のタイプの単一値コンポーネントに適用されます。

### [タイトル] ボタン

このセクションの機能は、進捗バー、メーター、およびスライダー コンポーネントに適用されます。

#### 制限を表示

[制限を表示] チェック ボックスは、コンポーネントの上限と下限の表示を制御します。[制限を表示] チェック ボックスをオンにすると、上限と下限の表示をカスタマイズするために、次のオプションを使用できるようになります。

- フォントの設定

フォントの設定領域にある機能の詳細については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。

### [レイアウト] ボタン

このセクションの機能は、進捗バー、メーター、スライダー、およびダイアル コンポーネントに適用されます。

## 目盛を表示

[目盛を表示] チェック ボックスは、コンポーネントの目盛（値を示す小さなマーカ）の表示を制御します。[目盛を表示] をオンにすると、目盛の表示をカスタマイズするために、次のオプションを使用できるようになります。

- 目盛の数

[目盛の数] ボックスには、コンポーネントに表示される大目盛の数を指定します。2 から 21 までの値を入力できます。

- サブ目盛の数

[サブ目盛の数] ボックスには、大目盛の間に表示される小目盛の数を指定します。0 から 21 までの値を入力できます。

- 目盛の色

目盛の色をカスタマイズするには、隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックします。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

- 最小角度

このオプションは、メーターおよびダイアル コンポーネントにのみ適用されます。[最小角度] ボックスには、針が回転できる最小の角度を指定します。

**注** [最小角度] は、[下限の動作] リストから [オープン] を選択した場合は使用できません。

- 最大角度

このオプションは、メーターおよびダイアル コンポーネントにのみ適用されます。[最大角度] ボックスには、針が回転できる最大の角度を指定します。

**注** [最大角度] は、[下限の動作] リストから [オープン] を選択した場合は使用できません。

セレクト コンポーネントとは

11

章

## 概要

この章では、[セレクト] フォルダ内のコンポーネントに使用するプロパティパネルの機能について説明します。

## [一般] タブ

### 全セレクト コンポーネント 共通

#### データの挿入

この領域のオプションを使用して、セレクト コンポーネントに必要なデータと、選択されたときのコンポーネントの動作を定義します。

**注** アコーディオン メニュー コンポーネントの [プロパティ] パネルの [データの挿入] 領域は、[データ] 領域と同じです。

#### 挿入先

[挿入先] ボックスの横のセル セレクト ボタンをクリックして、選択したデータを挿入するセルを選択します。

セル セレクト ボタンの詳細については、「General Chapter」を参照してください。

**注** [挿入先] ボックスは、[アコーディオン メニュー] の [プロパティ] パネルでは、アイテムの場合 [アイテムの挿入先] ボックス、カテゴリの場合 [カテゴリの挿入先] ボックスと同じです。

#### 挿入オプション

このリストのオプションは、選択が行われたときに挿入されるデータの構造を決定します。6 個のパラメータがあります。

- 位置

ターゲット セルは、セレクト コンポーネントにリンクされます。セレクト コンポーネントで選択が行われた場合、選択された位置の値がターゲット セルに入れます。

- ラベル

ターゲット セルは、セレクト コンポーネントにリンクされます。セレクト コンポーネントで選択が行われた場合、選択されたラベルがターゲット セルに入れます。



- 値

ターゲット セルは、セレクト コンポーネントにリンクされます。セレクト コンポーネントで選択が行われた場合、選択されたソース データの値がターゲット セルに入れます。

- 行

ターゲット行は、セレクト コンポーネントにリンクされます。セレクト コンポーネントで選択が行われた場合、選択されたソース データ行の値がターゲット行に入れます。

- 列

ターゲット列は、セレクト コンポーネントにリンクされます。セレクト コンポーネントで選択が行われた場合、選択されたソース データ列の値がターゲット列に入れます。

- ステータス一覧

ターゲット セル範囲は、セレクト コンポーネントにリンクされます。セレクト コンポーネントで選択が行われた場合、範囲内のそのターゲットセルに値 1 が入れられて選択されたことを示し、範囲内の方のターゲットセルには値 0 が入ります。

**注** ターゲット セルは空である必要があります。

## カテゴリ

このオプションは、各アイテム グループに拡張可能な最上位の表示を作成します。[追加] および [削除] ボタンで、[カテゴリ] ボックスに表示されるグループを制御します。

**注** このオプションは、アコーディオン メニュー コンポーネントのみに適用されます。

## 名前

[名前] ボックスに入力するか、隣接したセル セレクト ボタンをクリックして、その時点で選択しているカテゴリのラベルを選択します。

セル セレクト ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクト ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、アコーディオン メニュー コンポーネントのみに適用されます。

## アイテム

[アイテム] ボックスの横のセル セレクト ボタンをクリックし、その時点で選択されているカテゴリに関連付けるラベルを選択します。

セル セレクト ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクト ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、アコーディオン メニュー コンポーネントのみに適用されます。

## 情報ボタン

[情報] ボタンの詳細については、[103 ページの「情報ボタン」](#)を参照してください。

## ソース データ

[ソース データ] ボックスに入力し、[参照] ボタンをクリックするか、[ソース データ] ボックスの横のセル セレクト ボタンをクリックして、[挿入オプション] が行、列、または値のときに選択が行われた場合に挿入されるデータを選択します。

[参照] ボタンの詳細については、[103 ページの「参照ボタン」](#)を参照してください。

セル セレクト ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクト ボタン」](#)を参照してください。

## 注

- [ソース データ] オプションは、次のコンポーネントのみに適用されます。
  - チェック ボックス
  - フィルタ
  - アイコン
  - 再生セレクト
  - ソース データ
  - テーブル
  - リスト ビュー
  - 表示切り替えボタン
- [ソース データ] の [参照] ボタンは、次のコンポーネントの [プロパティ] パネルには表示されません。
  - フィルタ
  - リスト ビュー
  - 再生セレクト
  - テーブル

## 一部のセレクト コンポーネント を除き 共通

### タイトル

このセクションのオプションは、セレクト コンポーネントのタイトルとラベルを設定します。

**注** [タイトル] 領域は、テーブルおよびアイコン コンポーネントには適用されません。

#### タイトル

[タイトル] ボックスに入力するか、隣接したセル セレクト ボタンをクリックして、コンポーネントのタイトルを選択します。

セル セレクト ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクト ボタン」](#)を参照してください。

#### ラベル

[ラベル] ボックスの横の[参照] ボタンをクリックし、手作業でラベルを入力するか、または隣接するセル セレクト ボタンをクリックして、ラベルを選択します。

[参照] ボタンの詳細については、[103 ページの「参照ボタン」](#)を参照してください。

セル セレクト ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクト ボタン」](#)を参照してください。

#### 注

- [ラベル] オプションは、次のコンポーネントには適用されません。
  - ラベル メニュー
  - アコーディオン
  - リスト ビュー
  - フィルタ
- [ラベル] の [参照] ボタンは、次のコンポーネントのみに使用できます。
  - チェック ボックス
  - コンボ ボックス
  - 魚眼ピクチャ メニュー
  - リスト ボックス

## タイトル

[タイトル] ボックスの横の [参照] ボタンをクリックし、手作業でタイトルを入力するか、または隣接するセル セレクト ボタンをクリックして、コンポーネントのタイトルを選択します。

[参照] ボタンの詳細については、[103 ページの「参照ボタン」](#)を参照してください。

セル セレクト ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクト ボタン」](#)を参照してください。

**注** [タイトル (Titles) ] は、[タイトル (Title) ] オプションとは異なり、フィルタ コンポーネントのみに適用されます。

## 表示データ

[表示データ] ボックスの横のセル セレクト ボタンをクリックし、コンポーネント上に表示されるデータを選択します。

セル セレクト ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクト ボタン」](#)を参照してください。

**注** [表示データ] 領域は、次のコンポーネントのみに適用されます。

- テーブル
- リスト ビュー
- アイコン

## 方向

この領域のオプションは、コンポーネントの選択可能な要素の配置方法を制御します。[横] または [縦] をクリックし、コンポーネントの向きを選択します。

**注** [向き] 領域は、ラベル メニューおよびラジオ ボタン コンポーネントのみに適用されます。

## イメージ ファイル

このセクションのオプションを使用して、選択したコンポーネント用のイメージ ファイルを設定します。

### 埋め込み

[埋め込み] をクリックして、選択したコンポーネントにイメージ ファイルを埋め込みます。選択したファイルは、エクスポートされた Xcelsius ビジュアライゼーションの一部になります。

## インポート

[インポート] をクリックすると、[サムネイルのインポート] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、イメージまたは SWF ファイルを指定して、選択したコンポーネントに埋め込みます。レポートに埋め込む外部ファイルをインポートするには、ファイルの参照ボタンをクリックし、インポートするファイルを選択します。

### 注

- [インポート]を使用できるのは、[埋め込み]が選択されている場合のみです。
- [イメージファイル] は、魚眼ピクチャ メニューとスライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみに適用されます。

## アイコン コンポーネント 専用

### ラベル

[ラベル] ボックスに入力するか、隣接したセル セクタ ボタンをクリックして、アイコン コンポーネントにラベルを設定します。

セル セクタ ボタンの詳細については、102 ページの「セル セクタ ボタン」を参照してください。

## フィルタ コンポーネント 専用

### 表示オプション

この領域は、選択したフィルタ コンポーネント用に表示されるコンボ ボックスの数を制御します。

#### [フィルタの数]

[フィルタの数] ボックスに表示される値を調整し、フィルタ コンポーネントに表示されるフィルタの数を調整します。

## [動作] タブ

### 一部のセレクト コンポーネント を除き 共通

#### 動的ディスプレイ

[動的ディスプレイ] 領域で使用可能な機能の詳細については、[97 ページの「動的ディスプレイ」](#)を参照してください。

**注** [動的ディスプレイ] 領域は、ソース データ コンポーネントには適用されません。

#### 動作オプション

**注** [動作オプション] 領域は、次のコンポーネントには適用されません。

- ソース データ
- 再生セレクト
- アコーディオン メニュー

#### 常に拡張する

[常に拡張する] をクリックすると、メニューに含まれるすべてのラベルが常時表示されるようになります。このオプションを選択すると、他のオプションの一部が使用できなくなり、[更新のタイミング] パラメータが有効になります。

#### サウンドを有効にする

[サウンドを有効にする] ボックスをオンにすると、選択したコンポーネントのサウンドが有効になります。

#### アニメーションを開く

[アニメーションを開く] をクリックすると、アニメーションを開いたり、閉じたりできるようになります。この機能は、開いたり閉じたりする際に、ほんの一瞬のアニメーションを追加します。

#### 表示する場所

このオプションは、メニューがいったん開かれた後、拡張する方向を定義します。

#### **注**

- ラベル メニューおよびラジオ ボタンに関しては、このパラメータの動作は [向き] パラメータで決まります。

向きが横のときは、[表示する場所] リストで次のオプションを使用できます。

- 左
- 右

向きが縦のときは、[表示する場所] リストで次のオプションを使用できます。

- 中央下
- 左下
- 右下
- 中央上
- 右上
- 左上
- このオプションは、次のコンポーネントには適用されません。
  - 魚眼ピクチャ メニュー
  - スライド ピクチャ メニュー

### 更新のタイミング

このリストのオプションを使用して、選択が行われたことをコンポーネントが認識する方法を定義します。次のオプションがあります。

- マウス クリック

アイテムをクリックして選択します。

- マウス オーバー

アイテムの上をポインタが通過すると選択されます。

**注** このオプションは、次のコンポーネントには適用されません。

- 魚眼ピクチャ メニュー
- スライド ピクチャ メニュー

### 表示のタイミング

このリストのオプションを使用して、データを表示する必要のある選択が行われたことをコンポーネントが認識する方法を定義します。次のオプションがあります。

- マウス クリック

セレクト コンポーネントがクリックされたときのみデータが表示されます。

- マウス オーバー

セレクト コンポーネント上をポインタが移動したときのみデータが表示されます。

**注** このオプションは、次のコンポーネントには適用されません。

- 魚眼ピクチャ メニュー
- スライド ピクチャ メニュー

## デフォルトのオプション

### デフォルトの選択

この機能は、コンポーネントのデフォルトの状態を設定します。コンポーネントのどの部分が選択されるか、または Xcelsius ビジュアライゼーションが最初に起動されたとき、コンポーネントが選択されるか選択されないかをカスタマイズすることができます。リストのオプションは、作業対象のコンポーネントによって異なります。

**注** このオプションは、次のコンポーネントには適用されません。

- フィルタ
- アコーディオン メニュー
- ソース データ

### デフォルトのカテゴリ

Xcelsius ビジュアライゼーションがロードされたときに、コンポーネント内で選択されるカテゴリを選択します。さらにこのオプションは、Xcelsius ビジュアライゼーションがロードされたときに、[カテゴリの挿入先] に挿入されるデフォルト データも決定します。

**注** このオプションは、アコーディオン メニュー コンポーネントのみに適用されます。

### デフォルト アイテム

Xcelsius ビジュアライゼーションがロードされたときに、コンポーネント内で選択されるカテゴリ アイテムを選択します。さらにこのオプションは、Xcelsius ビジュアライゼーションがロードされたときに、[アイテムの挿入先] の範囲に挿入されるデフォルト データも決定します。

**注** このオプションは、アコーディオン メニュー コンポーネントのみに適用されます。



## 範囲オプション

### 後の空白を無視

[後の空白を無視] をクリックすると、最後の空白以外のラベルを超えたアイテムがコンポーネントに表示されなくなります。このオプションは、コンポーネント内のアイテム数を変える必要がある場合に便利です。

#### 注

- ラベル データ ソースは静的なので、コンポーネント内のアイテム数は、[Web Service] オプションか [XML データ] ボタンのいずれかを使用してデータ ソースが最新表示されるときだけ更新されます。
- [後の空白を無視] は、次のコンポーネントには適用されません。
  - チェック ボックス
  - アイコン
  - 表示切り替えボタン
  - フィルタ
  - アコーディオン メニュー
  - ソース データ

### 空のカテゴリを無視

[空のカテゴリを無視] をクリックすると、空のカテゴリはコンポーネントに一切表示されなくなります。このオプションは、コンポーネントに表示するカテゴリ数を変える必要がある場合に便利です。

#### 注

- このオプションは、アコーディオン メニュー コンポーネントのみに適用されます。
- [アコーディオン メニュー] は、[データ] 範囲内のすべてのデータを表示するとは限りませんが、Xcelsius ビジュアライゼーションのパフォーマンスは、範囲のサイズに影響されます。

### アイテムの後の空白を無視

[アイテムの後の空白を無視] をクリックすると、最後の空白以外のアイテムを超えた空白のアイテムは、コンポーネント内に一切表示されなくなります。このオプションは、コンポーネントに表示するデータの量を変える必要がある場合に便利です。

#### 注

- このオプションは、アコーディオン メニュー コンポーネントのみに適用されます。

- [アコーディオン メニュー] は、[データ] 範囲内のすべてのデータを表示するとは限りませんが、Xcelsius ビジュアライゼーションのパフォーマンスは、範囲のサイズに影響されます。

## 魚眼ピクチャ メニュー コンポーネント 専用

### 魚眼表示の動作

#### 魚眼表示の速度

[魚眼表示の速度] 目盛を調整し、マウス オーバー イベントに対する魚眼ポップアップの反応速度を設定します。

#### 魚眼表示の最大値

[魚眼表示の最大値] の目盛を調整し、魚眼ピクチャ メニュー サムネイルのマウス オーバー サイズを変更します。

## スライド ピクチャ メニュー コンポーネント 専用

### スライドの方法

このリストのオプションは、スライド ピクチャ メニューでサムネイル全体をスクロールする方法を制御します。次のオプションがあります。

- 矢印  
スライド ピクチャ メニューのサムネイルをスクロールするには、矢印アイコンをクリックする必要があります。
- マウス  
スライド ピクチャ メニューでは、マウスを移動させることでサムネイル全体をスクロールします。

### スライドのスクロール

このリストのオプションは、スライド ピクチャ メニューのスクロール動作を制御します。次のオプションがあります。

- 1 つ  
スライド ピクチャ メニューは、一度に 1 つのサムネイルをスクロールします。
- ページ  
スライド ピクチャ メニューは、一度に 1 ページずつサムネイルをスクロールします。

## 速度

[速度] の目盛を調整し、スライド ピクチャ メニューでサムネイル全体をスクロールするときのスライドの動作速度を制御します。

## テーブル コンポーネント 専用

### 選択可能な行

この領域内のオプションは、テーブル セレクト コンポーネントの行が選択できるかどうかを設定します。

#### 行番号

[行番号] ボックス内に行番号を入力するか、調整します。この番号は、[選択可能] チェック ボックスに影響します。

#### [選択可能] チェック ボックス

このオプションは、[行番号] ボックスに表示される行に関して、行の選択を有効または無効にします。

#### すべて選択

[すべて選択] ボタンをクリックすると、テーブルのすべての行で行の選択が有効になります。

#### すべて選択しない

[すべて選択しない] ボタンをクリックすると、テーブルのすべての行で行の選択が無効になります。

## アコーディオン メニュー コンポーネント 専用

### 開く / 閉じる動作

この領域のオプションは、アコーディオン メニュー コンポーネントの開く / 閉じる動作を制御します。

#### 速度

[速度] の目盛を調整して、メニュー項目が開いたり、閉じたりする方法をカスタマイズします。

## ソース データ コンポーネント 専用

### [ソース データ] オプション

#### インデックス セル

[インデックス セル] ボックスに入力するか、または隣接するセル セレクト ボタンをクリックして、ソース データ コンポーネントの選択されたインデックスをスプレッドシートにバインドします。Xcelsius ビジュアライゼーションの実行中は、指定したインデックスでソース データ内のアイテムが選択されます。インデックスがスプレッドシートにバインドされている場合、基本になっているスプレッドシートの値が変化すると、ソース データ コンポーネントは新しいインデックスに対応するソース データを挿入します。

セル セレクト ボタンの詳細については、[102 ページ](#)の「セル セレクト ボタン」を参照してください。

## 再生セレクト コンポーネント 専用

### 再生オプション

#### スライダを表示する

[スライダを表示する] をクリックし、対話形式のときに再生セレクト コンポーネントのプレゼンテーションの進捗をトラックするスライダを表示します。

#### 自動的に巻き戻す

[自動的に巻き戻す] をクリックすると、再生セレクト コンポーネントのプレゼンテーションで、再生終了後に自動的に巻き戻すことができます。

#### 自動的に再生する

[自動的に再生する] をクリックすると、プレゼンテーションで、再生終了後に自動的に再生されるようになります。

#### サウンドを有効にする

[サウンドを有効にする] をクリックすると、再生セレクト コンポーネントで選択を行ったときの音響効果が有効になります。

#### 巻き戻し / 早送りを表示する

[巻き戻し / 早送りを表示する] をクリックすると、再生セレクト コンポーネントに [巻き戻し] ボタンと [早送り] ボタンが表示されます。

### 前 / 次を表示する

[前 / 次を表示する] をクリックすると、再生セレクト コンポーネントに [前へ] ボタンと [次へ] ボタンが表示されます。

### 再生時間

[再生時間] ボックスの値を調整し、再生セレクト コンポーネントが再生する時間の長さを制御します。

## [アラート] タブ

[アラート] タブで使用可能な機能の詳細については、103 ページの「共通の [アラート] タブ機能」を参照してください。

**注** [アラート] タブは、次のコンポーネントのみに適用されます。

- アイコン

## [表示] タブ

**注** ソース データ コンポーネントには、[表示] タブはありません。

## 一部のセレクト コンポーネント を除き 共通

### ラベルの背景

**注** [ラベルの背景] 領域は、ラベル メニュー、チェック ボックス、およびフィルタ コンポーネントのみに適用されます。

### 背景を表示

[背景を表示] をオンにすると、ティッカー コンポーネント上のアイテムの後ろに背景が表示されます。

### カスタム カラーを使用

[カスタム カラーを使用] をクリックし、コンポーネントの表示をカスタマイズします。コンポーネントのどの部分をカスタマイズできるかは、作業対象のコンポーネントによって異なります。カラー セレクト ボタンをクリックして、次のオプションをカスタマイズできます。

- デフォルトの塗りつぶしの色

**注** デフォルトの塗りつぶしの色は、ラベル メニューのみに適用されます。

# 11 | セレクタ コンポーネントとは

[表示] タブ

- 選択された塗りつぶしの色

**注** 選択された塗りつぶしの色は、ラベル メニューおよびフィルタ コンポーネントのみに適用されます。

- マウス オーバーの塗りつぶしの色

**注** マウス オーバーの塗りつぶしの色は、ラベル メニューおよびフィルタ コンポーネントのみに適用されます。

カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページ](#)の「**カラー セレクタ ボタン**」を参照してください。

## 区切り

[区切り] ボックスの値を調節することで、メニュー アイテムの間隔を制御できます。

[区切り] の数値が大きいほど、メニュー アイテムの間隔が広がります。

**注** このオプションは、ラベル メニュー コンポーネントのみに適用されます。

## 透明度

[透明度] の機能の詳細については、[98 ページ](#)の「**透明度**」を参照してください。

## ラベル

### 注

- [ラベル] 領域は、次のコンポーネントには適用されません。
  - ラジオ ボタン
  - テーブル
  - チェック ボックス
  - リスト ビュー
  - 再生セレクタ
- [ラベル] 領域は、アコーディオン メニュー コンポーネントの [プロパティ] パネルの [アイテム ラベル] 領域に相当します。

## ラベルを表示

[ラベルを表示]をオンにすると、コンポーネント上にラベルが表示されます。

**注** このオプションは、次のコンポーネントのみに適用されます。

- 魚眼ピクチャ メニュー
- スライド ピクチャ メニュー
- 表示切り替えボタン

## 位置

[位置] リストの詳細については、[99 ページ](#)の「[位置](#)」を参照してください。

**注** このオプションは、次のコンポーネントのみに適用されます。

- ラジオ ボタン
- スライド ピクチャ メニュー

## 配置

[配置] リストの詳細については、[99 ページ](#)の「[配置](#)」を参照してください。

**注** このオプションは、次のコンポーネントには適用されません。

- アイコン
- スライド ピクチャ メニュー
- フィルタ

## 左右の位置調整

[左右の位置調整] の詳細については、[98 ページ](#)の「[左右の位置調整](#)」を参照してください。

**注** このオプションは、ラベル メニュー、リスト ボックス、および表示切り替えボタン コンポーネントのみに適用されます。

## 上下の位置調整

[上下の位置調整] の詳細については、[99 ページ](#)の「[上下の位置調整](#)」を参照してください。

**注** このオプションは、ラベル メニュー、リスト ボックス、および表示切り替えボタン コンポーネントのみに適用されます。

## フォントの設定

[フォントの設定] の詳細については、[96 ページ](#)の「[フォントの設定](#)」を参照してください。

**注** このオプションは、アイコン コンポーネントには適用されません。

## 数値形式

[数値形式] リストの詳細については、[100 ページ](#)の「[数値書式](#)」を参照してください。

**注** このオプションは、次のコンポーネントには適用されません。

- アイコン
- 表示切り替えボタン

## マウス オーバー テキスト

隣接するカラー セクタ ボタンをクリックし、[マウス オーバー テキスト] の色をカスタマイズします。

カラー セクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、次のコンポーネントのみに適用されます。

- コンボ ボックス
- リスト ボックス
- ラベル メニュー
- アコーディオン メニュー
- フィルタ

## 選択されたテキスト

隣接するカラー セクタ ボタンをクリックし、[選択されたテキスト] の色をカスタマイズします。

カラー セクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、次のコンポーネントのみに適用されます。

- コンボ ボックス
- リスト ボックス
- ラベル メニュー
- 表示切り替えボタン
- アコーディオン メニュー
- フィルタ

## 表示される行

[表示される行] ボックスの値を調整して、ドロップダウン リストに表示される行数を制御します。

**注** このオプションは、コンボ ボックスおよびフィルタ コンポーネントのみに適用されます。

## フィルタのギャップ

[フィルタのギャップ] ボックスの値を調整して、フィルタ コンポーネントに表示されるリスト間のスペースを設定します。

**注** このオプションは、フィルタ コンポーネントのみに適用されます。



## タイトル ボタン

**注** この領域は、ラジオ ボタン、表示切り替えボタン、および再生セレクト コンポーネントには適用されません。

### タイトルを表示

[タイトルを表示] をオンにすると、コンポーネントにタイトルが表示されます。

### 位置

[位置] リストの詳細については、99 ページの「位置」を参照してください。  
左右の位置調整

[左右の位置調整] の詳細については、98 ページの「左右の位置調整」を参照してください。

### 上下の位置調整

[上下の位置調整] の詳細については、99 ページの「上下の位置調整」を参照してください。

### フォントの設定

[フォントの設定] の詳細については、96 ページの「フォントの設定」を参照してください。

## [レイアウト] ボタン

**注** このボタンは、次のコンポーネントのみに適用されます。

- 魚眼ピクチャ メニュー
- スライド ピクチャ メニュー
- アコーディオン メニュー
- リスト ビュー
- 再生セレクト

### カスタム カラーを使用

[カスタム カラーを使用] をクリックし、コンポーネントの表示をカスタマイズします。コンポーネントのどの部分をカスタマイズできるかは、作業対象のコンポーネントによって異なります。カラー セレクト ボタンをクリックして、次のオプションをカスタマイズできます。

- 塗りつぶしの色

**注** このオプションは、次のコンポーネントのみに適用されます。

- アコーディオン メニュー

- [カテゴリ] 領域

**注** このオプションは、アコーディオン メニュー コンポーネントのみに用されます。

- デフォルト
- マウス オーバー
- 選択済み

- [アイテム] 領域

- デフォルト
- マウス オーバー
- 選択済み

- ラベル バーの色

**注** このオプションは、魚眼ピクチャ メニューとスライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみに適用されます。

- 背景色

**注** このオプションは、魚眼ピクチャ メニューとスライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみに適用されます。

- 上矢印

**注** このオプションは、スライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみに適用されます。

- 下矢印

**注** このオプションは、スライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみに適用されます。

- 無効な矢印

**注** このオプションは、スライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみに適用されます。

- 上ボタン

**注** このオプションは、スライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみに適用されます。

- 下ボタン

**注** このオプションは、スライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみに適用されます。

- 無効なボタン

**注** このオプションは、スライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみに適用されます。

- [ナビゲーション ボタン] 領域

**注** このオプションは、アコーディオン メニュー コンポーネントのみに用されます。

- 矢印のデフォルト
  - 下矢印
  - 無効な矢印
  - 塗りつぶしのデフォルト
  - 下塗りつぶし
  - 無効な塗りつぶし
- [スクロール バー] 領域

**注** このオプションは、次のコンポーネントのみに適用されます。

- アコーディオン メニュー
- リスト ビュー
- サムの色

**注** このオプションは、リストビュー コンポーネントには適用されません。

- 矢印の色
- 内側余白の色
- 棒の色

**注** このオプションは、リストビュー コンポーネントには適用されません。

- [サムネイルの背景] 領域

**注** このオプションは、魚眼ピクチャ メニューとスライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみに適用されます。

- デフォルトの色
  - 色の選択
  - マウス オーバーの色
- [背景を表示] 領域

**注** このオプションは、再生セレクト コンポーネントのみに適用されます。

- 背景色
- ボタンの背景色
- ボタンの前景色

# 11 | セレクタ コンポーネントとは

[表示] タブ

- 内側余白の色
- スライダの色
- [ヘッダー] 領域

**注** このオプションは、リスト ビュー コンポーネントのみに適用されます。

  - ヘッダーの色
  - 選択された塗りつぶし
  - マウス オーバーの塗りつぶし
- [並べ替え記号] 領域

**注** このオプションは、リスト ビュー コンポーネントのみに適用されます。

  - 記号の色
  - 選択された塗りつぶし
  - マウス オーバーの塗りつぶし
- [背景] 領域

**注** このオプションは、リスト ビュー コンポーネントのみに適用されます。

  - 背景色
- [行] 領域

**注** このオプションは、リスト ビュー コンポーネントのみに適用されます。

  - 行の色 1
  - 選択された塗りつぶし
  - 行の色 2
  - マウス オーバーの塗りつぶし

カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## 画像のサイズ指定

**注** この領域のオプションは、魚眼ピクチャ メニューとスライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみに適用されます。

以下のオプションは、メニュー用サムネイル画像のサイズを指定するときの動作を設定します。

- 方法

[方法] リストのオプションをクリックして、メニュー用サムネイル画像のサイズを指定する方法を設定します。次のオプションがあります。

- なし  
画像のサイズは、デフォルトのまま変わりません。画像の中でサムネイルの領域内に入る部分のみが見えます。
- 拡大縮小  
画像のサイズは、サムネイル領域に入るように縮小されます。画像の縦横比は保持されます。
- 拡張  
画像のサイズは、サムネイル領域に合うように変更されます。
- 高さ  
[高さ] ボックスの値を調整して、サムネイル画像の高さを設定します。
- 幅  
[幅] ボックスの値を調整して、サムネイル画像の幅を設定します。

### 余白

**注** この領域のオプションは、魚眼ピクチャ メニューとスライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみに適用されます。

次のオプションがあります。

- 横  
[横] ボックスの値を調整して、サムネイル領域の横の余白を設定します。
- 縦  
[縦] ボックスの値を調整して、サムネイル領域の縦の余白を設定します。

## マーカ

### 注

- この領域は、コンボ ボックス、リスト ボックス、ラジオ ボタン、チェック ボックス、トグル ボタン、およびフィルタ コンポーネントのみに適用されます。
- リスト ボックスおよびラジオ ボタン コンポーネントの [プロパティ] パネルでは、[マーカと背景] 領域が [マーカ] 領域に相当します。

### カスタム カラーを使用

[カスタム カラーを使用] をクリックし、コンポーネントの表示をカスタマイズします。コンポーネントのどの部分をカスタマイズできるかは、作業対象のコンポーネントによって異なります。カラー セレクト ボタンをクリックして、次のオプションをカスタマイズできます。

- リストのスクロール バー  
**注** このオプションは、コンボ ボックスおよびフィルタ コンポーネントのみに適用されます。
- リスト内側余白の色  
**注** このオプションは、コンボ ボックスおよびフィルタ コンポーネントのみに適用されます。
- デフォルトの矢印の色  
**注** このオプションは、コンボ ボックスおよびフィルタ コンポーネントのみに適用されます。
- デフォルトの塗りつぶし  
**注** このオプションは、リスト ボックス コンポーネントのみに適用されます。
- 選択された塗りつぶし  
**注** このオプションは、リスト ボックス コンポーネントのみに適用されます。
- マウス オーバーの塗りつぶし  
**注** このオプションは、リスト ボックス コンポーネントのみに適用されます。
- サムの色  
**注** このオプションは、リスト ボックス コンポーネントのみに適用されます。
- 矢印  
**注** このオプションは、リスト ボックス コンポーネントのみに適用されます。
- 透明度  
**注** このオプションは、リスト ボックス コンポーネントのみに適用されます。
- 塗りつぶしをオフにする  
**注** このオプションは、トグル ボタン コンポーネントのみに適用されます。
- 塗りつぶしをオンにする  
**注** このオプションは、トグル ボタン コンポーネントのみに適用されます。

## 背景を表示

**注** [背景を表示] オプションは、ラジオ ボタン コンポーネントのみに適用されます。

[背景を表示] 領域では、次のオプションを使用できます。

- 背景の塗りつぶしの色  
隣接するカラー セレクト ボタンをクリックし、コンポーネントの背景色をカスタマイズします。  
カラー セレクト ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクト ボタン」](#)を参照してください。

- 透明度  
透明度に関する詳しい説明は、98 ページの「[透明度](#)」を参照してください。
- マーカーのサイズ  
[マーカーのサイズ] ボックスの値を調整して、コンポーネントのマーカー サイズを指定します。
- 左右の余白  
[左右の余白] ボックスの値を調整して、背景とラジオ ボタンの左右の境界線の間に入る余白の量を制御します。
- 上下の余白  
[上下の余白] ボックスの値を調整して、背景とラジオ ボタンの上下の境界線の間に入る余白の量を制御します。
- マーカーのデフォルト  
隣接するカラー セレクト ボタンをクリックし、マーカーのデフォルトの表示をカスタマイズします。  
カラー セレクト ボタンの詳細については、102 ページの「[カラー セレクト ボタン](#)」を参照してください。
- 選択されたマーカー  
隣接するカラー セレクト ボタンをクリックし、選択されたときのマーカーの表示をカスタマイズします。  
カラー セレクト ボタンの詳細については、102 ページの「[カラー セレクト ボタン](#)」を参照してください。

## テーブル コンポーネント 専用

### グリッド

この領域のオプションを使用して、テーブル コンポーネントにグリッドを表示できるようにします。

#### グリッドを表示

[グリッドを表示] をオンにすると、テーブル コンポーネントにグリッドを表示できるようになります。

**注** [グリッドを表示] をオンにした場合、セルの境界線またはセルのパターンが Excel に指定されていないセルに対してのみグリッドが表示されます。

## グリッドの色

隣接するカラー セレクト ボタンをクリックし、グリッドの表示をカスタマイズします。

カラー セレクト ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクト ボタン」](#)を参照してください。

**注** [グリッドの色] は、[グリッドを表示] がオンになっている場合のみ使用できます。

## テーブルの背景

この領域のオプションは、選択された行やマウス ポインタが置かれた行を示すために使用される強調表示の色を設定します。

隣接するカラー セレクト ボタンをクリックし、テーブル コンポーネントの表示をカスタマイズします。次のオプションがあります。

- 選択された塗りつぶし

行が選択されると、この色がオーバーレイされます。スプレッドシートのセルの色が選択によって隠れないように、選択した色は、部分的に透明になっています。

- マウス オーバーの塗りつぶし

この色は、マウス ポインタが行の上に置かれると、その行にオーバーレイされます。スプレッドシートのセルの色がマウス オーバーによって隠れないように、マウス オーバーの色は、部分的に透明になっています。

カラー セレクト ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクト ボタン」](#)を参照してください。

## [スクロール] オプション

### スクロール バーを有効にする

[スクロール バーを有効にする] をオンにすると、テーブル コンポーネントにスクロール バーを表示できます。スクロール バーを使用して、表示パネル内に収まらないテーブルの領域をナビゲートできます。

### テーブルの目盛

[テーブルの目盛] ボックスの値を調整し、テーブル コンポーネント内に表示されるラベルのサイズを設定します。

### 水平スクロールの動作

この領域のオプションは、テーブル コンポーネントに表示される水平スクロール バーの動作をカスタマイズします。次のオプションがあります。



- 有効  
[有効] をクリックすると、テーブル コンポーネントに水平スクロールバーが表示されます。
- 無効  
[無効] をクリックすると、テーブル コンポーネントの水平スクロールバーは表示されなくなります。
- 自動非表示  
[自動非表示] をクリックすると、テーブル コンポーネントに水平スクロールバーが表示され、テーブル コンポーネント上のラベルがすべて見える場合は非表示になります。

### 垂直スクロールの動作

この領域のオプションは、テーブル コンポーネントに表示される垂直スクロールバーの動作をカスタマイズします。次のオプションがあります。

- 有効  
[有効] をクリックすると、テーブル コンポーネントに垂直スクロールバーが表示されます。
- 無効  
[無効] をクリックすると、テーブル コンポーネントの垂直スクロールバーは表示されなくなります。
- 自動非表示  
[自動非表示] をクリックすると、テーブル コンポーネントに垂直スクロールバーが表示され、テーブル コンポーネント上のラベルがすべて見える場合は非表示になります。

### カスタム カラーを使用

[カスタム カラーを使用] をクリックし、テーブル コンポーネントの表示をカスタマイズします。隣接するカラー セレクト ボタンをクリックし、テーブル コンポーネントの次の部分の表示をカスタマイズします。

- スクロール バーの色
- スクロール バー矢印の色
- スクロール バー内側余白の色

カラー セレクト ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクト ボタン」](#)を参照してください。

## アイコン コンポーネント 専用

### 表示

#### オン / オフを表示

[オン / オフを表示] をオンにすると、アイコン コンポーネントがオンのときとオフのときとで表示が変化します。

#### カスタム カラーを表示

[カスタム カラーを表示] をクリックし、アイコン コンポーネントの表示をカスタマイズします。

**注** このオプションは、アラートが無効になっている場合のみ使用できます。

#### 色の塗りつぶし

隣接するカラー セレクト ボタンをクリックし、アイコン コンポーネントの色をカスタマイズします。

カラー セレクト ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクト ボタン」](#)を参照してください。

#### 透明度

透明度の詳細については、[98 ページの「透明度」](#)を参照してください。

### マウス オーバー

この領域のオプションは、アイコン コンポーネント上をマウス ポインタが通過したときに表示される情報を決定します。ラベルや値を自由に組み合わせて表示でき、通常はこの情報を非表示にします。

#### ラベルを表示

[ラベルを表示] をオンにすると、アイコン コンポーネント上をポインタが通過したときにラベルが表示されます。

#### フォントの設定

[フォントの設定] の詳細については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。

#### 値を表示

[値を表示] をオンにすると、アイコン コンポーネント上をポインタが通過したときに値が表示されます。

## 数値形式

[数値形式] リストの詳細については、100 ページの「数値書式」を参照してください。

**注** Excel からインポートされた書式文字列の構造をアプリケーションで決定できない場合は、[数値形式] パラメータを [スプレッドシートから] に設定します。

# アコーディオン メニュー コンポーネント 専用

## タイトル

### カテゴリ名

この領域のオプションは、アコーディオン メニュー コンポーネントに示されるカテゴリ名の表示をカスタマイズします。次のオプションがあります。

- 配置

このリストでオプションをクリックし、アコーディオン メニュー コンポーネント上のカテゴリ名の配置を設定します。

[配置] リストの詳細については、99 ページの「配置」を参照してください。

- フォントの設定

[フォントの設定] の詳細については、96 ページの「フォントの設定」を参照してください。

- 数値形式

[数値形式] リストの詳細については、100 ページの「数値書式」を参照してください。

# リスト ビュー コンポーネント 専用

## [タイトル] ボタン

### ヘッダー

この領域のオプションは、リスト ビュー コンポーネントの [ヘッダー] 領域の表示を設定します。次のオプションがあります。

- フォントの設定

[フォントの設定] の詳細については、96 ページの「フォントの設定」を参照してください。

## 11 | セレクタ コンポーネントとは [表示] タブ

- マウス オーバー テキスト

隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックし、ポインタが通過したときのテキストの色をカスタマイズします。

カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

- 選択されたテキスト

隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックし、選択されたときのテキストの色をカスタマイズします。

カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

### 値

この領域のオプションは、リスト ビュー コンポーネントに示される値の表示をカスタマイズします。次のオプションがあります。

- フォントの設定

[フォントの設定] の詳細については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。

- マウス オーバー テキスト

隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックし、ポインタが通過したときのテキストの表示をカスタマイズします。

カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

- 選択されたテキスト

隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックし、選択されたときのテキストの表示をカスタマイズします。

カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

マップ コンポーネントとは

12

章

## 概要

この章では、[マップ ライブラリ] フォルダ内のコンポーネントに使用するプロパティ パネルの機能について説明します。

## [一般] タブ

[一般] タブでは、マップ コンポーネントを、インポートした Excel スプレッドシートのデータにリンクすることができます。

## 全マップ コンポーネント 共通

このセクションの機能は、すべてのマップ コンポーネントに適用されます。

### タイトル

マップ コンポーネントにタイトルを付けるには、[タイトル] ボックスに適切なタイトルを入力します。[タイトル] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートからタイトルを選択することもできます。セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

### 地域名

[地域名] は、マップ コンポーネントの各地域にコードを定義します。定義したコードは、適切な地域パラメータに値を関連付けるために、表示データ、ソース データ、およびターゲット データに使用されます。地域コードは、次のいずれかの方法で指定できます。

- インポートしたスプレッドシートの地域コードを使用する場合は、[地域名] セル セレクタ ボタンをクリックし、インポートしたスプレッドシートから地域コードを選択します。セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。
- 地域コードを手作業で入力する場合は、[地域名] の [参照] ボタンをクリックします。[地域名] ダイアログ ボックスで、[ラベル名] 列に地域コードを入力します。[参照] ボタンに関する説明は、[103 ページの「参照ボタン」](#)を参照してください。

## 挿入オプション

[挿入オプション] の各項目は、選択した地域に関するデータを Xcelsius が挿入する方法を決定します。

- 行

Xcelsius は、セルが空の行に適切なデータを挿入します。

- 列

Xcelsius は、セルが空の列に適切なデータを挿入します。

## ソース データ

[ソース データ] セル セレクタ ボタンを使用すると、インポートしたスプレッドシートのソース データをマップ コンポーネントにリンクできます。セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## 挿入先

[挿入先] セル セレクタ ボタンを使用すると、Xcelsius でデータを挿入するために、インポートしたスプレッドシート内で空のセルの範囲を選択できます。マップ コンポーネント上の地域を選択した場合、関連するデータが空のセルに挿入されます。

[挿入オプション] リストで [行] を選択した場合、ソース データの範囲に含まれる行と同じ数のセルを持つ、空のセルの行を選択します。[挿入オプション] リストで [列] を選択した場合、ソース データの範囲に含まれる列と同じ数のセルを持つ、空のセルの列を選択します。

セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## 表示データ

[表示データ] セル セレクタ ボタンを使用すると、インポートしたスプレッドシートでマップ コンポーネント用の表示データを選択できます。マップ コンポーネント上の領域を選択した場合、関連するデータが表示されます。

データ範囲のレイアウトに応じて、Xcelsius は、[地域名] に指定された地域コードを次の方法で検索します。

- データ範囲に 2 つの列と 3 つ以上の行が含まれる場合、Xcelsius は、範囲の最初の列でコードを検索します。
- データ範囲に 2 つの行と 3 つ以上の列が含まれる場合、Xcelsius は、範囲の最初の行でコードを検索します。

- データ範囲に 2 つの列と 2 つの行が含まれる場合、Xcelsius は、最初の行と最初の列を検索し、地域コードが一番多いのはどこかを判断します。その後、Xcelsius は、最初の行または最初の列を地域コードとして使用します。

地域コードの位置に応じて、Xcelsius は、関連する表示データを次の方法で取得します。

- 地域コードが最初の列にある場合、Xcelsius は、地域コードの右側のデータを表示データと解釈します。
- 地域コードが最初の行にある場合、Xcelsius は、地域コードの下のデータを表示データと解釈します。

セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## [動作] タブ

[動作] タブでは、対話形式でのマップ コンポーネントの動作を制御します。

## 全マップ コンポーネント 共通

このセクションの機能は、すべてのマップ コンポーネントに適用されます。

### サウンドを有効にする

[サウンドを有効にする] チェック ボックスは、マップ コンポーネントが選択されたときに音を出すかどうかを設定します。[サウンドを有効にする] チェック ボックスをオンにすると、地域が選択されたとき、マップ コンポーネントは音を出します。[サウンドを有効にする] をオフにすると、地域が選択されても、マップ コンポーネントは音を出しません。

### 更新のタイミング

[更新のタイミング] リストの項目で、地域を選択するために必要に操作を決定します。

- マウス クリック  
地域をクリックして選択します。
- マウス オーバー  
ポインタを地域の上に置いて、選択します。



## 動的ディスプレイ

[動的ディスプレイ] 領域にある機能の詳細については、[97 ページ](#)の「動的ディスプレイ」を参照してください。

## [アラート] タブ

[アラート] タブの機能の詳細については、[103 ページ](#)の「共通の [アラート] タブ機能」を参照してください。

## [表示] タブ

[表示] タブでは、マップ コンポーネントの表示をカスタマイズすることができます。

## 全マップ コンポーネント 共通

このセクションの機能は、すべてのマップ コンポーネントに適用されます。

### タイトルを表示

[タイトルを表示] チェック ボックスをオンにすると、マップ コンポーネントのタイトルが表示され、タイトルの表示をカスタマイズするために、次のオプションを使用できるようになります。

- 位置

[位置] リストの詳細については、[99 ページ](#)の「位置」を参照してください。

- 左右の位置調整

[左右の位置調整] ボックスの詳細については、[98 ページ](#)の「左右の位置調整」を参照してください。

- 上下の位置調整

[上下の位置調整] ボックスの詳細については、[99 ページ](#)の「上下の位置調整」を参照してください。

- フォントの設定

フォントの設定領域にある機能の詳細については、[96 ページ](#)の「フォントの設定」を参照してください。

## マウスの場所を表示

[マウスの場所を表示] チェック ボックスは、地域にポインタが置かれたときに、地域名を表示するかどうかを制御します。

[マウスの場所を表示] をオンにすると、地域名に対する [フォントの設定] がアクティブになります。フォントの設定領域にある機能の詳細については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。

## 値を表示

[値を表示] チェック ボックスは、マップ コンポーネント内の地域の上にポインタが置かれたときに、地域の値を表示するかどうかを制御します。

## 地域

[地域] 領域のオプションを使用して、特定のポインタ操作中のマップ コンポーネントの領域表示をカスタマイズします。

- デフォルトの塗りつぶし

選択されていない地域と、ソース データのない地域のデフォルトの色をカスタマイズできます。

- 透明度

[透明度] ボックスの詳細については、[98 ページの「透明度」](#)を参照してください。

- 選択可能な塗りつぶし

選択可能な地域と、ソース データのある地域のデフォルトの色をカスタマイズできます。

- 選択された塗りつぶし

選択された地域の色をカスタマイズできます。

- マウス オーバーの塗りつぶし

ポインタが置かれた地域の色をカスタマイズできます。

塗りつぶしの色をカスタマイズするには、隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックします。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

背景コンポーネントとは

13

章

## 概要

この章では、[アートと背景] フォルダ内のコンポーネントに使用する [プロパティ] パネルの機能について説明します。

## [一般] タブ

このセクションの機能は、特定のタイプのコンポーネントに適用されます。

## 一部のコンポーネントに共通

このセクションは、背景および画像コンポーネントに適用されます。

### マウス イベントをキャプチャ

[マウス イベントをキャプチャ] チェック ボックスは、背景コンポーネントを使用して、他のコンポーネントと対話ができないようにします。この機能は、デザインの表示で、背景コンポーネントが他のコンポーネントの上に積み上げられている場合のみ有効です。

[マウス イベントをキャプチャ] をオンにすると、下にあるコンポーネントに対して行われるどのようなポインタ操作も無効になります。

[マウス イベントをキャプチャ] をオフにすると、下にあるコンポーネントとのやり取りが可能になります。

**注** [マウス イベントをキャプチャ] は、[一般] タブではオフになっている場合でも、インポートされた SWF ファイルに対しては有効になっています。

## 背景コンポーネント 専用

このセクションの機能は、次のコンポーネントに適用されます。

- 背景 -0
- 背景 -1
- 背景 -2
- 背景 -3

## 境界線のサイズ調整

[境界線のサイズ調整] スライダーを使用して、背景コンポーネントの境界線の幅を調整します。ポインタを右にドラッグすると、境界線は太くなります。ポインタを左にドラッグすると、境界線は細くなります。

## 形状コンポーネント 専用

このセクションの機能は、次のコンポーネントに適用されます。

- 楕円
- 四角形

## 境界線を表示

[境界線を表示] チェック ボックスをオンにすると、形状コンポーネントの境界線が表示され、境界線の表示をカスタマイズするために、次のオプションを使用できるようになります。

- 幅

[幅] ボックスの詳細については、[98 ページの「幅」](#)を参照してください。

- 透明度

[透明度] ボックスの詳細については、[98 ページの「透明度」](#)を参照してください。

- 色

カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## 塗りつぶしのスタイル

[塗りつぶしのスタイル] リストの項目は、形状コンポーネントの色と陰影を決定します。

- 線形

形状コンポーネントの一方の側から他の側へ移動するにつれて、塗りつぶしの色が色 1 から色 2 へと変化します。

- なし

この形状コンポーネントに、塗りつぶしはありません。

- 放射状  
形状コンポーネントの中央から境界線の方へ移動するにつれて、塗りつぶしの色が色 1 から色 2 へと変化します。
- 塗りつぶし  
一色で塗りつぶします。

## 塗りつぶしのスタイル設定

[塗りつぶしのスタイル] リストで、線形、放射状、または塗りつぶしをクリックすると、塗りつぶしの表示をカスタマイズするために、次のオプションを使用できるようになります。

- 回転  
[回転] ボックスは、[塗りつぶしのスタイル] リストで線形をクリックした場合のみ使用可能です。[回転] ボックスには、0 から 360 までの値を入力し、色 1 と色 2 が交わる軸の位置を決定します。
- 色 1  
[色 1] 領域のオプションを使用して、形状コンポーネントの色 1 の表示をカスタマイズします。
  - 色  
カラー セレクタ ボタンを使用すると色 1 を選択できます。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。
  - 透明度  
[透明度] ボックスの詳細については、[98 ページの「透明度」](#)を参照してください。
  - 位置  
[位置] スライダは、色 1 の階調度を決定します。これは、[塗りつぶしのスタイル] リストで、線形または放射状を選択した場合のみ使用可能です。ポインタを左端へドラッグすると、色 1 はほぼすぐに色 2 に変わります。ポインタを右端へドラッグすると、色 1 は色 2 に変化することなく、形状全体を塗りつぶします。
- 色 2  
[色 2] 領域のオプションは、[塗りつぶしのスタイル] リストで線形または放射状を選択した場合のみ使用可能です。ここで使用できるオプションは、色 1 と同じです。

## 線コンポーネント 専用

このセクションの機能は、次のコンポーネントに適用されます。

- 垂直線
- 水平線

### 線の色

[線の色] の隣のカラー セレクタ ボタンを使用すると、線コンポーネントの色を選択できます。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## 画像コンポーネント 専用

このセクションの機能は、画像コンポーネントのみに適用されます。

**注** 画像コンポーネントは、Xcelsius モデルだけでなく、JPG および SWF ファイルにも対応しています。ただし、次のファイル形式はサポートしていません。

- プログレッシブ JPG
- CMYK カラーリングを使用した JPG
- ネストされた SWF ファイル

### インポート時に画像サイズに合わせる

[インポート時に画像サイズに合わせる] チェック ボックスをオンにすると、インポートした JPG または SWF ファイルが、実際のサイズで表示されます。このチェック ボックスをオフにすると、Xcelsius がキャンバス上の画像コンポーネントのサイズに合わせてインポートしたファイルのサイズを調整します。

### インポート

[インポート] ボタンを使用して、画像ファイルを参照できます。インポートする画像ファイルを選択すると、そのファイルの名が [ファイル名] ボックスに表示されます。

### ファイルを埋め込む

[ファイルを埋め込む] チェック ボックスを使用して、Xcelsius モデルに画像ファイルのコピーを埋め込みます。[ファイルを埋め込む] をオンにすると、画像ファイルは Xcelsius モデルの一部になります。[ファイルを埋め込む] をオフにすると、対話形式でモデルを表示するときに、Xcelsius が画像ファイルをロードします。

## 13 | 背景コンポーネントとは

[動作] タブ

### 背景色を表示

[背景色を表示] チェック ボックスは、SWF ファイルをインポートした場合のみ使用可能です。このチェック ボックスで、SWF ファイルの背景を画像コンポーネントに表示するかどうかを制御します。[背景色を表示] をオンにすると、SWF ファイルの背景が表示されます。

### [動作] タブ

[動的ディスプレイ] 領域にある機能の詳細については、[97 ページ](#)の「[動的ディスプレイ](#)」を参照してください。



テキスト コンポーネントとは

14

章

## 概要

この章では、[テキスト] フォルダにあるコンポーネントのプロパティ パネルの機能について説明します。

## [一般] タブ

### 一部のコンポーネント に共通

#### セルのデフォルト テキスト（入力テキスト -0、入力テキスト -1、入力テキスト領域）

[セルのデフォルト テキスト] をクリックし、次に [セルのデフォルト テキスト] の下のセル セレクタ ボタンをクリックして、スプレッドシートからデフォルト テキストを選択します。

セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

#### テキストの入力

このオプションを使用して、[デフォルト テキスト] フィールドに手作業でテキストを入力します。

#### ロード時に挿入（入力テキスト -0、入力テキスト -1、入力テキスト領域）

[ロード時に挿入] チェック ボックスをオンにすると、生成したアプリケーションがロードされた時点で、[データの挿入先] のセルにデフォルト テキストが挿入されます。

#### データの挿入先（入力テキスト -0、入力テキスト -1、入力テキスト領域）

[データの挿入先] セル セレクタ ボタンを使用して、テキストを挿入するセルをスプレッドシートから選択します。

セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## ラベル専用

### リンク先セル

[リンク先セル] セル セレクタ ボタンを使用して、スプレッドシートのセルにラベルをリンクします。このセルの値が変化すると、ラベルにも反映されます。

セル セレクタ ボタンの詳細については、102 ページの「セル セレクタ ボタン」を参照してください。

## [動作] タブ

### 一部のコンポーネントに共通

#### パスワードの入力（入力テキスト -0、入力テキスト -1）

[パスワードの入力] チェック ボックスをオンにすると、入力した文字がアスタリスク (\*) で表示されます。この機能を使用すると、パスワードやその他の機密情報が画面上に表示されないようにすることができます。

#### 最大文字数（入力テキスト -0、入力テキスト -1、入力テキスト領域）

[最大文字数] チェック ボックスをオンにすると、入力できる文字数を「最大文字数」で指定した文字数に制限することができます。

[最大文字数] チェック ボックスがオンの場合、この値によってラベルに入力できる最大文字数が設定されます。テキスト ボックスに適切な値を入力するか、上 / 下矢印を使用して最大文字数を調整します。

#### 使用できる文字の設定（入力テキスト -0、入力テキスト -1）

このフィールドを使用して、特定の文字をラベルに入力できないようにします。このフィールドを空白にした場合、すべての文字が使用できるようになります。[使用できる文字の設定] ボックスに入力できる数だけ、手作業で文字を入力できます。

[使用できる文字の設定] セル セレクタ ボタンをクリックし、スプレッドシートから値を選択することもできます。セル セレクタ ボタンの詳細については、102 ページの「セル セレクタ ボタン」を参照してください。

最も単純な式は、“a”などの単一文字で、これを設定すると“a”の文字をラベルに入力できるようになります。複数の式を連結し、許可する文字や許可しない文字のグループを作成することもできます。たとえば、“abc”という式は、ラベルに“a”、“b”、“c”の文字を入力できるようにします。

ダッシュ (-) を使用して、文字の範囲を定義することもできます。たとえば、“a-z”という式は、すべての小文字を定義しています。

許可しない文字がごくわずかな場合は、その文字を指定する方が、許可する文字をすべて指定するよりも簡単です。この方法で指定するには、フィールド全体の前に、カレット (^) を付けます。これで、フィールドに指定された文字を除くすべての文字が許可されます。

たとえば、数字の入力を避けるには、このフィールドに“0-9”を設定します。

カレットは、文字列の中で、許可する文字と除外する文字を切り替えるために使用することもできます。フィールドで最初に設定されたカレットと次のカレットの間に式で定義された文字は、許可されません。2番目のカレットから、次のカレットまでの間に式で定義された文字は、許可されます。

たとえば、[使用できる文字の設定] に ^0-9^abc^def を設定すると、次のように定義されます。

- 数字は許可されない
- a、b、および c は許可される
- d、e、および f は許可されない

ダッシュとカレットは特別な意味を持っているので、文字セットの一部として実際にダッシュとカレットを指定するには、特別な方法があります。

文字セットの一部としてダッシュやカレットを指定するときは、特殊文字の前にバックスラッシュ (\) を付けます。たとえば、ダッシュを指定するときは“¥-”のように入力し、カレットを指定するときは“¥^”のように入力します。

バックスラッシュにも特別な意味があるので、バックスラッシュを表すときにも、その前にバックスラッシュを付ける必要があります。

以下に、一般的な文字セットをいくつか示します。

- 整数 (123) : “¥0-9”
- 実数 (1.5) : “¥0-9”
- 分数 (1/2) : “¥-/0-9”
- 正の整数 : “0-9”
- 正の 10 進数 : “0-9”
- 英字 : “a-zA-Z”
- 英数字 : “0-9a-zA-Z”

## 水平スクロールの動作

このセクションでは、水平スクロール バーの動作を定義します。水平スクロール バーを使用すると、テキスト全体を水平方向にすばやく移動できるため、幅の狭いテキスト領域に長いテキスト行を表示するときに便利です。

### 有効（ラベル、入力テキスト領域）

このオプションを選択すると、テキスト領域に水平スクロール バーが付加されます。このスクロール バーは、常に表示されます。

### 無効（ラベル、入力テキスト領域）

このオプションは、水平スクロール バーが不要な場合、または不適切な場合に選択します。

### 自動非表示（ラベル、入力テキスト領域）

このオプションを選択すると、テキスト領域に水平スクロール バーが付加されます。このスクロール バーは、各行の長さがテキスト領域の幅に合っているときは、自動的に非表示になります。

## 垂直スクロールの動作

このセクションでは、垂直スクロール バーの動作を定義します。垂直スクロール バーを使用すると、テキスト全体を垂直方向にすばやく移動できるため、高さが短いテキスト領域に複数行のテキスト行を表示するときに便利です。

このオプションは入力テキストには適用できません。

### 有効（ラベル、入力テキスト領域）

このオプションを選択すると、テキスト領域に垂直スクロール バーが付加されます。このスクロール バーは、常に表示されます。¥

### 無効（ラベル、入力テキスト領域）

このオプションは、垂直スクロール バーが不要な場合、または不適切な場合に選択します。

### 自動非表示（ラベル、入力テキスト領域）

このオプションを選択すると、テキスト領域に垂直スクロール バーが付加されます。このスクロール バーは、テキストのすべての行がテキスト領域の高さに収まるときは、自動的に非表示になります。

## 動的ディスプレイ

動的ディスプレイの詳細については、[97 ページの「動的ディスプレイ」](#)を参照してください。

## 入力テキスト 領域専用

### HTML

[HTML] チェック ボックスをオンにすると、デフォルトのテキストが HTML としてレンダリングされます。このコンポーネントは、デフォルト テキストを HTML であるかのように解析し、インターネット ブラウザと同じ方法でレンダリングしようとします。

サポートされる HTML タグは、href、b、フォントの色、書体、サイズ、i、p、u です。

HTML とサポートされるタグの説明は、オンライン ヘルプで HTML 関連のセクションを参照してください。

## [表示] タブ

## 全コンポーネント 共通

### 配置

[配置] リストの詳細については、99 ページの「配置」を参照してください。

### フォント

フォントの詳細については、96 ページの「フォントの設定」を参照してください。

## 一部のコンポーネント に共通

### 透明度（入力テキスト -0、入力テキスト -1、入力テキスト領域）

[透明度] ボックスの詳細については、98 ページの「透明度」を参照してください。

### カスタム カラーを使用（入力テキスト -0、入力テキスト -1、入力テキスト領域）

[カスタム カラーを使用] チェック ボックスをオンにすると、テキスト コンポーネントの色をカスタマイズするために、次のオプションを使用できるようになります。

- 背景色

テキスト コンポーネントの背景色をカスタマイズできます。

- スクロール バーの色  
スクロール バーのサム部分の色をカスタマイズできます。
- スクロール バー矢印の色  
スクロール ボタンの矢印部分の色をカスタマイズできます。
- スクロール バー内側余白の色  
スクロール バー内側余白の色をカスタマイズできます。

色をカスタマイズするには、隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックします。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## 折り返して全体を表示（入力テキスト領域、ラベル）

[折り返して全体を表示] チェック ボックスをオンにすると、コンポーネントの幅より長いテキスト行は、ラベルの次の行に折り返されます。このオプションは入力テキストには適用できません。

## ラベル専用

### 数値形式

[数値形式] リストの詳細については、[100 ページの「数値書式」](#)を参照してください。

### 背景

次のオプションを使用して、ラベルの背景と境界線の表示を設定します。

- 境界線  
このオプションを使用して、その時点で [境界線を表示]、[塗りつぶしを表示]、[幅] オプションによって、境界線のどちら側が調整されるかを指定します。ラベルの上下左右の四方の境界線は、適切な側を選択することにより、個々に調整できます。[すべての側] を選択すると、四方すべての側を同時に調整できます。
- 幅

[幅] ボックスの詳細については、[98 ページの「幅」](#)を参照してください。

## 14 | テキスト コンポーネントとは

[表示] タブ

- 境界線を表示

[境界線を表示] を選択し、[境界線] リストで指定した側のラベルの境界線を表示します。境界線の色をカスタマイズするには、隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックします。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

- 塗りつぶしを表示

[塗りつぶしを表示] チェック ボックスをオンにすると、ラベルの後に、設定された色の背景が表示されます。塗りつぶしの色をカスタマイズするには、隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックします。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## テキスト

### 配置

[配置] リストの詳細については、[99 ページの「配置」](#)を参照してください。

### 折り返して全体を表示

[折り返して全体を表示] チェック ボックスをオンにすると、コンポーネントの幅より長いテキスト行は、ラベルの次の行に折り返されます。このオプションは入力テキストには適用できません。

フォント設定の詳細については、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。





Web 接続コンポーネントとは



15

章



## 概要

この章では、[Web 接続] フォルダ内のコンポーネントに使用するプロパティパネルの機能について説明します。

## [一般] タブ

### 一部のコンポーネントに共通

#### ラベル

このオプションを使用して、ボタンに表示されるラベルを設定します。[ラベル] ボックスに入力するか、隣接したセル セレクタ ボタンをクリックしてコンポーネントのラベルを選択します。

セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

**注** このオプションは、外部のスライドショー コンポーネントを除くすべての Web 接続コンポーネントに適用されます。

#### URL

このオプションを使用して、ボタンの Uniform Resource Locator (URL) リンクを入力します。URL は、Web アドレスとも呼ばれます。[URL] ボックスに入力するか、隣接したセル セレクタ ボタンをクリックしてコンポーネントの URL を選択します。生成されたビジュアライゼーションの場合、ボタンに関連付けられた URL は、選択したセルの値が変わるたびに更新されます。この機能を使用すると、ビジュアライゼーションの状態に応じて、さまざまなページにリンクするボタンを作成することができます。

セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

#### 注

- “http://” は、すべての URL に必要です。
- このセクションのオプションは、次の Web コンポーネントのみに適用されます。
  - URL リンク ボタン

## 外部のスライド ショー コンポーネント 専用

### URL (JPEG または SWF ファイル)

このオプションを使用して、ボタンのラベルを入力します。[URL] ボックスに入力するか、URL のセル セレクタ ボタンをクリックしてスライドショーの URL を選択します。URL がスプレッドシートのセルにバインドされている場合、セルの値が変更されると、スライド ショーはセルに指定された URL にある画像をロードします。

セル セレクタ ボタンの詳細については、102 ページの「セル セレクタ ボタン」を参照してください。

**注** プログレッシブ JPG および（標準の RGB カラーリングではなく）CMYK カラーリングを使用した JPG には、対応していません。

いったん画像がロードされると、スライド ショーは、定義済みのトランジション パラメータを使用して画像にトランジションします。

## URL リンク ボタン専用

### ウィンドウ オプション

このセクションのオプションを使用して、[URL リンク] ボタンがクリックされたときに開くリンクを選択します。

#### 新しいウィンドウ

このオプションを選択すると、新しいブラウザ ウィンドウにリンクが開かれます。

#### このウィンドウ

このオプションを選択すると、同じブラウザ ウィンドウにリンクが開かれます。その時点でウィンドウに表示されている内容が、置き換えられます。

## [動作] タブ

## 全コンポーネント 共通

### 動的ディスプレイ

動的ディスプレイの詳細については、97 ページの「動的ディスプレイ」を参照してください。

## 一部のコンポーネント に共通

### ロード時に最新表示（外部のスライド ショー、Live Office コネクタを除く）

このチェック ボックスをオンにすると、生成されたアプリケーションがロードされた時点で、データが最新表示されるようになります。

**注** このオプションは、以下のコンポーネントを除く、すべての Web 接続コンポーネントに適用されます。

- 外部のスライド ショー

### 間隔を指定して最新表示

このチェック ボックスをオンにすると、データは指定した間隔で、自動的に最新表示されます。間隔は、[最新表示間隔] で指定します。

**注** このオプションは、以下のコンポーネントを除く、すべての Web 接続コンポーネントに適用されます。

- 外部のスライド ショー
- 

### 最新表示間隔

このオプションを使用して、自動最新表示が行われる間隔を秒単位で調整します。適切な値を入力します。

**注** このオプションは、以下のコンポーネントを除く、すべての Web 接続コンポーネントに適用されます。

- 外部のスライド ショー
- 

### トリガ セル

**注** このセクションのオプションは、外部のスライドショー コンポーネントを除くすべての Web 接続コンポーネントに適用されます。

このオプションを使用して、[URL] ボタンをトリガできるセルをスプレッドシートから選択します。この機能を使用すると、[リスト ボックス] 選択など、ビジュアライゼーション内の他の操作で、ボタンが押された場合と同様に、ボタンをトリガすることができます。ボタンは、基本になっている [トリガ セル] の値が変化したときに、トリガされます。

### 挿入時にトリガ

[URL] ボタンは、基本になっている [トリガ セル] にコンポーネントが挿入されるたびにトリガされます。

### 変更時にのみトリガ

[URL] ボタンは、基本になっている [トリガ セル] の値が変化したときに、トリガされます。

## 外部のスライド ショー コンポーネント 専用

### スライド ショーの動作

このセクションのパラメータを使用して、トランジションのタイミングやスタイルを制御します。

#### トランジションの開始 / 終了

このオプションを使用して、トランジションの開始 / 終了動作を設定します。次のオプションがあります。

- スローイン  
トランジションはゆっくり始まり、進行するにつれて加速します。
- スローアウト  
トランジションは急速に始まり、進行するにつれて減速します。
- スローイン / アウト  
トランジションはゆっくり始まり、トランジションの中盤までは加速します。その後、トランジションは終了に向けて減速していきます。

#### トランジション タイプ

このオプションを使用して、各スライド間のトランジションのスタイルを設定します。

#### 間隔の時間

このオプションを使用して、アニメーションの各フレーム間の時間を設定します。テキスト ボックスに適切な値を入力するか、上 / 下矢印を使用して時間を調整します。

**注** 数値が小さいほど、トランジションは滑らかになり、数値が大きくなるほど、パフォーマンスが向上します。

## [表示] タブ

### 一部のコンポーネント に共通

#### 位置

このオプションの詳細については、99 ページの「位置」を参照してください。

#### フォント

このオプションの詳細については、96 ページの「フォントの設定」を参照してください。

#### 選択されたテキスト

[選択されたテキスト] カラー セレクタ ボタンをクリックし、ボタンが押されたときのラベルの色を設定します。

カラー セレクタ ボタンの詳細については、102 ページの「カラー セレクタ ボタン」を参照してください。

#### 透明度

このオプションの詳細については、98 ページの「透明度」を参照してください。

#### カスタム カラーを使用

このオプションを使用して、コンポーネントのさまざまな部分の色をカスタマイズします。

#### デフォルトの塗りつぶし

[デフォルトの塗りつぶし] カラー セレクタ ボタンをクリックし、デフォルト状態のボタンの背景色を変更します。

カラー セレクタ ボタンの詳細については、102 ページの「カラー セレクタ ボタン」を参照してください。

#### 選択された塗りつぶし

[選択された塗りつぶし] カラー セレクタ ボタンをクリックし、クリックされたときのボタンの背景色を変更します。

カラー セレクタ ボタンの詳細については、102 ページの「カラー セレクタ ボタン」を参照してください。

## URL リンク ボタン専用

### 配置

このオプションの詳細については、[99 ページの「配置」](#)を参照してください。

### 背景を表示

[背景を表示] チェック ボックスをオンにすると、URL リンク ボタンと共に背景が表示されます。[背景を表示] チェック ボックスをオフにすると、テキストのみのリンクを作成できます。このチェック ボックスをオフにして、インポートした画像の上に透明な URL ボタンを配置し、カスタム URL リンク ボタンを作成することもできます。

### カスタム カラーを表示

[カスタム カラーを表示] チェック ボックスをオンにすると、URL リンク ボタンに特定の色を設定できます。

#### デフォルトの塗りつぶし

[デフォルトの塗りつぶし]に隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックし、URL リンク ボタンの色を指定します。

カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

#### 選択された塗りつぶし

[選択された塗りつぶし] に隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックし、URL リンク ボタンがクリックされたときの背景の色を指定します。

カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。





その他のコンポーネント

16

章

## 概要

この章では、[セレクトア] フォルダ内のコンポーネントに使用するプロパティパネルの機能について説明します。

## [一般] タブ

### 一部のコンポーネント に共通

#### タイトル

この機能では、選択したコンポーネントのタイトルを設定できます。[タイトル] ボックスを使って、コンポーネントのタイトルを手動で入力します。

その他に、[タイトル] セル セレクトア ボタンを使って、スプレッドシートからタイトルを選択することもできます。タイトルがスプレッドシートと結び付いている場合、スプレッドシートの基底のセルの値を変更すると、それがボタン ラベルに反映されます。セル セレクトア ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクトア ボタン」](#)を参照してください。

**注** この領域は、次のコンポーネントにのみ適用されます。

- 対話型カレンダー
- グリッド
- パネル セット

#### ラベル

[ラベル] テキスト ボックスを使って、ボタン ラベルを手動で入力します。

[ラベル] セル セレクトア ボタンを使って、スプレッドシートからボタン ラベルを選択することもできます。ラベルがスプレッドシートと結び付いている場合、スプレッドシートのセルの値を変更すると、それがボタン ラベルに反映されます。セル セレクトア ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクトア ボタン」](#)を参照してください。

**注** この領域は、次のコンポーネントにのみ適用されます。

- ローカル シナリオ ボタン
- FSCCommand ボタン

## 対話型カレンダー コンポーネント に固有

### データの挿入

このセクションのオプションを使って、選択時の対話型カレンダー コンポーネントの動作を定義します。

#### 挿入オプション

このオプションを使って、選択時に挿入されるデータの構造を指定します。

#### データの挿入先

このオプションを使って、対話型カレンダーの日付の挿入先セルを選択します。セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## グリッド コンポーネント に固有

### リンク先セル

このオプションを使って、スプレッドシートからグリッドのすべてのデータを選択します。グリッドは選択した各セルの値を、選択した順序に並べて表示します。これらのセルのいずれかの値を変更すると、それが、対応するグリッド値に反映されます。同様に、グリッドのいずれかの値を変更すると、それが、対応するセルにリンクされた他のすべてのコンポーネントに反映されます。

## トレンド アイコン 0 とトレンド アイコン 1 に固有

### データ

[データ] セクションを使って、トレンド アイコンの [データ] パラメータを設定します。[データ] パラメータの値は、コンポーネントに表示されるアイコンを決めます。

- [データ] の値が 0 より大きい場合に、余白に表示されるアイコンが表示されます。
- [データ] の値が 0 未満の場合に、余白に表示されるアイコンが表示されます。
- [データ] の値が 0 に等しい場合に、余白に表示されるアイコンが表示されます。

[データ] テキスト ボックスを使って、コンポーネントのデータ値を手動で入力します。

セル セレクタ ボタンを使って、スプレッドシートからデータ値を選択することもできます。セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## カスタム カラーを使用

[カスタム カラーを使用] チェック ボックスをオンにすると、トレンド アイコンのさまざまな状態の色をカスタムできます。色をカスタマイズする次のオプションがあります。

- 正の値

トレンド アイコンのデータ値が 0 より大きいときに変更されるトレンド アイコンの色をカスタマイズできます。

- ゼロの値

トレンド アイコンのデータ値が 0 に等しいときに変更されるトレンド アイコンの色をカスタマイズできます。

- 負の値

トレンド アイコンのデータ値が 0 未満のときに変更されるトレンド アイコンの色をカスタマイズできます。

色をカスタマイズするには、隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックします。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## ローカル シナリオ ボタン コンポーネント に固有

### ラベル

[ラベル] テキスト ボックスを使って、ボタン ラベルを手動で入力します。

[ラベル] セル セレクタ ボタンを使って、スプレッドシートからボタン ラベルを選択することもできます。ラベルがスプレッドシートと結び付いている場合、スプレッドシートのセルの値を変更すると、それがボタン ラベルに反映されます。セル セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「セル セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## パネル セット コンポーネント に固有

### レイアウト

[レイアウト] オプションを使ってパネルの表示を選択します。さまざまなレイアウトを選択できます。

### タイトル バー

#### タイトル バーを表示

このチェック ボックスは、パネル セット コンポーネントの各フレームにタイトルが表示されるかどうかを決めます。

- タイトル

[参照] ボタンかセル セレクタ ボタンを使って、パネルの各フレームに表示するタイトルを示すことができます。[参照] ボタンを使用する場合は、タイトルを手動で入力できます。セル セレクタ ボタンを選択する場合は、タイトルを Excel スプレッドシートのセルにリンクできます。

### コンテンツ

#### パネル

[パネル] リストを使って、オブジェクトのリンク先パネルを選択します。ここで選択するパネルは、コンテンツ セクションに指定する特性を受け取ります。

#### JPG または SWF を使用

- 埋め込み

[埋め込み] オプションを使って、コンピュータまたはネットワークの場所から SWF ファイルまたは JPEG をパネルに直接リンクします。[埋め込み] オプションの横にある [インポート] ボタンをクリックして、ファイルを指定します。

- URL

[URL] オプションを使って、パネルにリンクする JPEG または SWF ファイルの URL の場所を入力します。

- ラベル

[ラベル] オプションを使って、特定のパネルにリンクするオブジェクトの一部またはすべてにラベルを追加します。[参照] ボタンを使用する場合は、ラベルを手動で入力できます。セル セレクタ ボタンを選択する場合は、ラベルを Excel スプレッドシートのセルにリンクできます。

## [動作] タブ

### 全コンポーネント 共通

#### 動的ディスプレイ

動的ディスプレイの詳細については、97 ページの「動的ディスプレイ」を参照してください。

### 対話型カレンダー コンポーネント に固有

#### カレンダーのデフォルトと範囲

このオプションを使って、対話型カレンダー コンポーネントのサウンド、デフォルトの日付、日付の範囲を制御します。

##### サウンドを有効にする

[サウンドを有効にする] チェック ボックスをオンにすると、選択したコンポーネントのサウンドが有効になります。

##### 現在の日付を使用

このオプションを使って、対話型カレンダー コンポーネントのデフォルトの日付を制御します。このオプションを選択すると、対話型カレンダー コンポーネントは常に現在の日付をロードします。このオプションを選択解除した場合は、デフォルトのデータを入力するために、[デフォルトの月]、[デフォルトの年]、[デフォルトの日] の各入力フィールドを有効にする必要があります。

- デフォルトの月

このオプションを使って、対話型カレンダー コンポーネントのデフォルトの月を指定します。

- デフォルトの年

このオプションを使って、対話型カレンダー コンポーネントのデフォルトの年を指定します。

- デフォルトの日

このオプションを使って、対話型カレンダー コンポーネントのデフォルトの日を指定します。

## カレンダー制限を使用

このオプションを使って、対話型カレンダー コンポーネントの日付の範囲を制御します。このオプションを選択した場合は、スクロール範囲を指定するために、[開始月]、[開始年]、[終了月]、[終了年] の各入力フィールドを有効にする必要があります。このオプションを選択解除すると、ユーザーは、会話型カレンダー コンポーネントのすべての日付をスクロールできます。

### 開始月

このオプションを使って、対話型カレンダーコンポーネントの開始月を指定します。

### 開始年

このオプションを使って、対話型カレンダーコンポーネントの開始年を指定します。

### 終了月

このオプションを使って、対話型カレンダーコンポーネントの終了月を指定します。

### 終了年

このオプションを使って、対話型カレンダーコンポーネントの終了年を指定します。

## グリッド コンポーネント に固有

### 目盛の動作

このセクションのオプションを使って、下限と上限の動作を定義します。この制限はグリッドのすべての項目に適用されます。

制限を使用すると、ユーザーがグリッド項目を手動で特定の値に設定することを防止できます。

#### 下限の動作

このオプションを使って、コンポーネントの下限の動作を設定します。次のオプションから選択します。

- 固定 - ユーザーはグリッド項目を最小値より下の値に設定できません。
- オープン - ユーザーは上限と競合しない任意の値にグリッド項目を設定できます。

#### 上限の動作

このオプションを使って、コンポーネントの上限の動作を設定します。次のオプションから選択します。

- 固定 - ユーザーは最大値を超える値にグリッド項目を設定できません。

- オープン - ユーザーは下限と競合しない任意の値にグリッド項目を設定できます。

## 最小値

最小値は下限であり、下限の動作が固定の場合にのみ使用できます。テキストボックスに希望する値を入力するか、上下の矢印を使って値を調整します。

## 最大値

最大値は上限であり、上限の動作が固定の場合にのみ使用できます。テキストボックスに希望する値を入力するか、上下の矢印を使って値を調整します。

## 増分サイズ

手動で設定されるグリッド項目値が [増分サイズ] の値に丸められます。これにより、特定の増分値が必要な数量（ダースなど）に合わせて入力を制限することができます。

数値を読みやすくするために、[増分サイズ] の値を使用して特定の桁に丸めることもできます。テキスト ボックスに希望する値を入力するか、上下の矢印を使って値を調整します。

## 再生オプション

### 再生ボタンを表示する

[再生ボタンを表示する] チェック ボックスをオンにすると、そのコンポーネントに再生ボタンが表示されます。

### 自動的に巻き戻す

[自動的に巻き戻す] チェック ボックスは、Xcelsius ビジュアライゼーションが対話型で実行する場合にコンポーネントの再生が自動的に巻き戻されるかどうかを制御します。

### 自動的に再生する

[自動的に再生する] チェック ボックスは、Xcelsius ビジュアライゼーションが対話型で実行する場合にコンポーネントの再生が自動的に再生されるかどうかを制御します。

### サウンドを有効にする

[サウンドを有効にする] チェック ボックスをオンにすると、そのコンポーネントのサウンドが有効になります。



## 対話機能オプション

### 入力を無効にする

[入力を無効にする] をオンにすると、グリッドの値に対する実行時操作が無効になります。

**注** このオプションとは関係なく、式を含む Excel セルにリンクされたすべてのグリッド項目には値を入力できません。

### マウスの感度

この設定を使って、ポインタの動きに対する感度を表すコンポーネントの値を決めます。コンポーネントの値を使って広範囲をカバーする必要がある場合に感度設定を高くすると有効です。これに対し、感度設定を低くすると、コンポーネントの値を使ってきめ細かい操作が可能です。

### スクロールの動作

[スクロールの動作] を使って、ユーザーがコンポーネントの値を調整する方法を指定します。

- 手動：セルの値は、マウスを手動でドラッグして制御します。マウスを上または下にドラッグすると、値はドラッグされた距離に近い値で調整されます。上にドラッグすると、コンポーネントの値は上がります。下にドラッグすると、コンポーネントの値は下がります。
- 自動：セルの値は、マウスをセルの上または下にドラッグし、その状態を維持することで制御します。マウスのボタンを押し続ける限り、値は自動的に継続して調整されます。マウスがセルの上方にある場合、値は上がります。マウスがセルの下方にある場合、値は下がります。マウスが値の表示位置から離れるに従って、値は速く変化します。

## パネル セット コンポーネント に固有

### 動作オプション

#### 最大化を有効にする

このオプションを選択すると、ユーザーは 1 つのパネルを拡大して、別のパネルを背後に回し、それから再び最小化して、最後に元のサイズに戻すことができます。この機能は、プレゼンテーション中のそのときに異なるデータを強調表示する場合に便利です。

## 16 | その他のコンポーネント

[表示] タブ

### 範囲オプション

#### 後の空白を無視

[後の空白を無視] をクリックすると、末尾の空でない値の後ろに続くすべての空値がパネル セット コンポーネントで表示されなくなります。このオプションを使用すると、可変量のデータをパネル セット コンポーネントで表示できます。

### デフォルトのオプション

#### パネル

デフォルトのオプションを設定するパネルを選択します。

#### デフォルトの選択

選択したパネルにビジュアライゼーションの起動時に表示するファイルを選択します。

### スライドの動作

#### 速度

速度目盛を調整して、ユーザーがさまざまなファイルを選択してそれぞれのパネルに表示するときのパネルの動作速度を制御します。

## [表示] タブ

### 一部のコンポーネント に共通

#### タイトルを表示

このオプションは、選択したコンポーネントのタイトルの表示 / 非表示を制御します。[タイトルを表示] チェック ボックスをオンにすると、タイトルの表示をカスタマイズする次のオプションを使用できます。

- 位置  
このオプションについては、[99 ページの「位置」](#)を参照してください。
- 左右の位置調整  
このオプションについては、[98 ページの「左右の位置調整」](#)を参照してください。
- 上下の位置調整

このオプションについては、99 ページの「上下の位置調整」を参照してください。

- フォントの設定

このオプションについては、96 ページの「フォントの設定」を参照してください。

**注** [タイトルを表示] は、次のコンポーネントにのみ適用されます。

- 対話型カレンダー
- グリッド
- パネル セット

## 対話型カレンダー コンポーネント に固有

### タイトル

#### 月

次のオプションを使って、選択したコンポーネントの月のラベルの設定ができます。

- 位置

[位置] リストの詳細については、99 ページの「位置」を参照してください。

- フォントの設定

フォントの設定については、96 ページの「フォントの設定」を参照してください。

#### 曜日

- 位置

[位置] リストの詳細については、99 ページの「位置」を参照してください。

- フォントの設定

フォントの設定については、96 ページの「フォントの設定」を参照してください。

#### 日付

このセクションのオプションを使って、選択したコンポーネントの日付のラベルの設定ができます。

- 位置

このオプションについては、99 ページの「位置」を参照してください。

- フォントの設定  
このオプションについては、[96 ページの「フォントの設定」](#)を参照してください。

## レイアウト

このセクションのオプションを使って、対話型カレンダー コンポーネントの表示を設定します。ここにリストされた各オプションの横にあるカラー セレクタ ボタンを使って、色を変更します。

### カスタム カラーを使用

対話型カレンダー コンポーネントの次の部分と状態に対して色をカスタマイズできます。

- セルのデフォルト
- マウス オーバー セル
- 選択セル
- 曜日の塗りつぶし
- 日にち
- 月
- 矢印のデフォルト
- ボタンのデフォルト
- 下矢印
- 下ボタン
- 無効な矢印
- 無効なボタン

色をカスタマイズするには、隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックします。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## グリッド コンポーネント に固有

### タイトル

#### 値

このセクションのオプションを使って、選択したコンポーネントに値ラベルの表示を設定します。

- 位置  
このオプションについては、99 ページの「位置」を参照してください。
- フォントの設定  
このオプションについては、96 ページの「フォントの設定」を参照してください。

## レイアウト

### カスタム カラーを使用

[カスタム カラーを使用] チェック ボックスをオンにすると、グリッド コンポーネントの色をカスタマイズする次のオプションを使用できます。

- 塗りつぶしの色

色をカスタマイズするには、隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックします。カラー セレクタ ボタンの詳細については、102 ページの「カラー セレクタ ボタン」を参照してください。

### グリッドの余白

このセクションのオプションを使って、グリッド セル間の余白を制御します。

- 上下の間隔  
[上下の間隔] は、各グリッド値の上下の間隔を決めます。テキスト ボックスに希望する上下の間隔を入力するか、上下の矢印を使って値を調整します。
- 左右の間隔  
[左右の間隔] は、各グリッド値の左右の間隔を決めます。テキスト ボックスに希望する左右の間隔を入力するか、上下の矢印を使って値を調整します。

## ローカル シナリオ ボタン コンポーネント に固有

### テキスト

次のオプションを使って、コンポーネントのテキストの表示をカスタマイズします。

- 配置  
このオプションについては、99 ページの「配置」を参照してください。
- フォントの設定  
このオプションの詳細については、96 ページの「フォントの設定」を参照してください。

- 選択されたテキスト

[選択されたテキスト]の横にあるカラー セレクタ ボタンを使って、ユーザーがボタンをクリックしたときのボタン ラベル テキストの色を指定します。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## 背景

このセクションのパラメータを使って、ボタン ラベルの表示をカスタマイズします。

### 背景を表示

このオプションは、ボタンの背景の表示 / 非表示を制御します。

### カスタム カラーを表示

[カスタム カラーを表示] チェック ボックスをオンにして、コンポーネントの次の部分の色をカスタマイズします。

- デフォルトの塗りつぶし

ボタンのデフォルトの色をカスタマイズできます。

- 選択された塗りつぶし

ボタンをクリックしたときに変更されるボタンの色をカスタマイズできます。

色をカスタマイズするには、隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックします。カラー セレクタ ボタンの詳細については、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。

## パネル セット コンポーネント に固有

### タイトル

#### タイトルを表示

[タイトルを表示] チェック ボックスは、コンポーネントのタイトルの表示を制御します。[タイトルを表示] チェック ボックスをオンにすると、タイトルの表示をカスタマイズする次のオプションを使用できます。

- 位置

このオプションについては、[99 ページの「位置」](#)を参照してください。

- 左右の位置調整

このオプションについては、[98 ページの「左右の位置調整」](#)を参照してください。

- 上下の位置調整

このオプションについては、99 ページの「[上下の位置調整](#)」を参照してください。

- フォント

このオプションについては、96 ページの「[フォントの設定](#)」を参照してください。

## タイトル バーのラベル

次のオプションでは、タイトル バーのラベルの表示をカスタマイズできます。

- 配置

このオプションについては、99 ページの「[配置](#)」を参照してください。

- フォント

このオプションについては、96 ページの「[フォントの設定](#)」を参照してください。

## ドロップダウン ラベル

次のオプションでは、ドロップダウン ラベルの表示をカスタマイズできます。

- 配置

このオプションについては、99 ページの「[配置](#)」を参照してください。

- フォント

このオプションについては、96 ページの「[フォントの設定](#)」を参照してください。

- マウス オーバー テキスト

横にあるカラー セレクタ ボタンを使って、ユーザーがマウスをテキストの上に置いたときに表示されるテキストの色を指定します。カラー セレクタ ボタンの詳細については、102 ページの「[カラー セレクタ ボタン](#)」を参照してください。

- 選択されたテキスト

横にあるカラー セレクタ ボタンを使って、ユーザーがテキストを選択したときに表示されるテキストの色を指定します。カラー セレクタ ボタンの詳細については、102 ページの「[カラー セレクタ ボタン](#)」を参照してください。

## レイアウト

### 透明度

[透明度] ボックスを使って、背景の透明度を設定できます。このオプションについては、[98 ページの「透明度」](#)を参照してください。

### カスタム カラーを使用

[カスタム カラーを使用] チェック ボックスをオンにすると、コンポーネントの一部の色をカスタマイズする次のオプションを使用できます。

- 背景
  - パネルの色  
パネルの背景色をカスタマイズできます。
  - 背景色  
全体の背景色をカスタマイズできます。
  - タイトル バーの色  
パネルのタイトル バーの色をカスタマイズできます。
- ボタン
  - デフォルトの背景  
パネル内のオブジェクトの切り替えに使用する矢印ボタンと最大化ボタンの背景色をカスタマイズできます。
  - デフォルトの記号  
矢印ボタンと最大化ボタンのアイコンの色をカスタマイズできます。
  - 選択された背景  
ボタンをクリックしたときに変更されるボタンの背景の色をカスタマイズできます。
  - 選択された記号  
矢印ボタンと最大化ボタンをクリックしたときに変更されるアイコンの色をカスタマイズできます。
- ラベルの背景
  - デフォルト  
ラベルの背景色をカスタマイズできます。
  - マウス オーバー  
ユーザーがマウスをラベルの上に置いたときに変更されるラベルの背景色をカスタマイズできます。



- 選択済み  
ユーザーがラベルをクリックしたときに変更されるラベルの背景色をカスタマイズできます。
- スクロール バー
  - 棒の色  
スクロール バーの色をカスタマイズできます。
  - 内側余白の色  
スクロール バー内側余白の色をカスタマイズできます。
  - 矢印の色  
スクロール バーの矢印の色をカスタマイズできます。

色をカスタマイズするには、隣接するカラー セレクタ ボタンをクリックします。カラー セレクタ ボタンについては、[102 ページの「カラー セレクタ ボタン」](#)を参照してください。



サポートされる Excel の関数

17

章

# サポートされる Excel の関数

この章では、Xcelsius がサポートする Microsoft Excel の関数の一覧を示します。

サポートされる Excel の関数		
ABS	ACOS	ACOSH
AND	ASIN	ASINH
ATAN	ATAN2	ATANH
AVEDEV	AVERAGE	AVERAGEA
CEILING	CHOOSE	COMBIN
CONCATENATE	COS	COSH
COUNT	COUNTA	COUNTIF
DATE	DATEVALUE	DAVERAGE
DAY	DAYS360	DB
DCOUNT	DCOUNTA	DDB
DEGREES	DEVSQ	DGET
DMAX	DMIN	DOLLAR
DPRODUCT	DSTDEV	DSTDEVP
DSUM	DVAR	DVARP
EDATE	EOMONTH	EQUALS
EVEN	EXP	EXPONDIST
FACT	FALSE	FISHER
FISHERINV	FIXED	FLOOR
FORECAST	FV	GEOMEAN
HARMEAN	HLOOKUP	HOUR
IF	INDEX	INT
INTERCEPT	IPMT	IRR
ISBLANK	KURT	LARGE
LN	LOG	LOG10
MATCH	MAX	MEDIAN
MIN	MINUTE	MIRR

サポートされる Excel の関数		
MOD	MODE	MONTH
NETWORKDAYS	NORMDIST	NORMINV
NORMDIST	NORMSINV	NOT
NOW	NPER	NPV
ODD	OR	PI
PMT	POWER	PPMT
PRODUCT	PV	RADIANS
RAND	RATE	ISBLANK
ROUND	ROUNDDOWN	ROUNDUP
SECOND	SIGN	SIN
SINH	SLN	SMALL
SQRT	STANDARDIZE	STDEV
SUM	SUMIF	SUMPRODUCT
SUMSQ	SUMX2MY2	SUMX2PY2
SUMXMY2	SYD	TAN
TANH	TEXT	TIME
TIMEVALUE	TODAY	TRUE
TRUNC	VALUE	VAR
VDB	VLOOKUP	WEEKDAY
WEEKNUM	WORKDAY	YEAR
YEARFRAC		



# 索引

## C

Components Explorer 16

移動 17

Crystal Xcelsius

Excel ファイルのインポート 11

以前のバージョンからの XLF ファイルのインポート 9

サポートされる Excel の関数 228

新機能 8

ツール 13

仕組み 10

バックアップ ファイルの作成 24

Crystal Xcelsius のインターフェイス 13

## E

Excel

FAQ 84

サーバー ビジーのメッセージ 86

サポートされる関数 88

サポートされる地域の書式設定 89

マクロ 90

リンクされた Excel ファイル 89

Excel ファイル

インポート 11

再インポート 32

最大サイズ 89

ビジュアライゼーションでの複数ファイル  
34

別のものを使用 34

リンクされた 89

Excel ファイルのインポート 11, 30

Excel ファイルの再インポート 32

## F

Flash

ビジュアライゼーションのエクスポート 76

実行時間の遅延 86

Flash Player の設定 61

FSCCommand ボタン 58

## L

Live Office

Xcelsius ビジュアライゼーション データ ソース 93

LiveOffice コネクタ 64

最新表示可能なビジュアライゼーションの  
作成 93

## M

Macromedia Flash のインストール 84

## O

OHLC チャート 38

Outlook によるビジュアライゼーションの電子  
メール送信 78

## P

PowerPoint

FAQ 85

ビジュアライゼーションのエクスポート 77

## U

Unicode フォント オプション 21

URL ベースのイメージ 87

URL リンク ボタン 64

トラブルシューティング 85

## 索引

## V

VLOOKUP 87

## W

Web サービス コネクタ コンポーネント 64

web 接続コンポーネント 64

[ 一般 ] タブ 202

[ 動作 ] タブ 203

[ 表示 ] タブ 206

## X

XLF ファイル

Xcelsius 3.0/3.5 からのインポート 9

国際設定での使用 88

バックアップの作成 24

XML データ ボタン コンポーネント 64

XY チャート 38

## あ

アートおよび背景コンポーネント 55

アイコン コンポーネント 45

アコーディオン メニュー コンポーネント 45

アコーディオン メニューのビジュアライゼーションのサンプル 49

値コンポーネント 43

ビジュアライゼーションのサンプル 44

アラート 69

[ アラート ] タブ

機能 103

セレクト コンポーネント 165

チャート コンポーネント 119

マップ コンポーネント 185

ビジュアライゼーションのサンプル 69

## い

[ 位置 ] リスト 99

[ 一般 ] タブ

web 接続コンポーネント 202

セレクト コンポーネント 152

その他のコンポーネント 210

チャート コンポーネント 108

テキスト コンポーネント 194

背景コンポーネント 188

マップ コンポーネント 182

インストールに関する FAQ 84

## う

埋め込みフォント 21

## え

エクスポート設定 32

円チャート 38

## お

オブジェクト ブラウザ 13

コンテキスト メニュー 13

コンポーネントのグループ化 14

コンポーネントの削除 15

コンポーネントの選択 13

コンポーネント名の変更 15

コンポーネントを隠す 14

オブジェクト ブラウザでのコンポーネントのグループ化 14

オブジェクト ブラウザでのコンポーネントの非表示 14

オブジェクト ブラウザでのコンポーネント名の変更 15

折れ線チャート 38

## か

外部ファイル

埋め込み 56

ネスト 57

画像コンポーネント 55

外部ファイルの埋め込み 56

使用方法 56

ネストされた外部ファイル 57

カラー セレクト ボタン 102



## き

- キャンバス
  - コンポーネントに合わせる 19
  - コンポーネントの配置 19
  - サイズ調整 20
- キャンバスをウィンドウに合わせる 20
- キャンバスをコンポーネントに合わせる 19
- 魚眼ピクチャ メニュー コンポーネント 45
- 切り捨てエラー 88

## く

- 組み合わせチャート 38
- グリッド コンポーネント 58
  - ビジュアライゼーションのサンプル 62
- グリッド ツール 24
- グローバル スタイル 27, 72
  - 作成 73
  - 転送 74
  - 変更 72
- グローバル スタイルの転送 74

## こ

- 国際設定 88
- コンボ ボックス コンポーネント 45
- コンポーネント
  - オブジェクト ブラウザでの選択 13
  - オブジェクト ブラウザでの非表示 14
- コンポーネントの削除 15

## さ

- サーバー ビジーのメッセージ 86
- 再生セレクト コンポーネント 45
- 再生ボタン 43
- 最大行数 22, 89
- 作成
  - グローバル スタイル 73
  - ビジュアライゼーション 30
    - Excel ファイルのインポート 30
    - データ ソースの選択 31
  - チャート 40

テンプレート 71

バックアップ ファイル 24

サポートされる Excel の関数 228

サポートされる機能

Excel の関数 228

地域の書式設定 89

標準以外の文字 90

[左右の位置調整] 98

参照ボタン 103

## し

- ビジュアライゼーション開始時の
  - トラブルシューティング 87
- ビジュアライゼーションの Adobe PDF への
  - エクスポート 78
- ビジュアライゼーションの HTML への
  - エクスポート 76
- ビジュアライゼーションの Plumtree ポータルへの
  - エクスポート 79
- ビジュアライゼーションの Word への
  - エクスポート 80
- ビジュアライゼーションの印刷 86
- ビジュアライゼーションのエクスポート
  - Adobe PDF に 78
  - Flash に 76
  - HTML に 76
  - Outlook による 78
  - PowerPoint に 77, 85
  - Word に 80
  - ポータルに 79
- ビジュアライゼーションの公開（「ビジュアライゼーションのエクスポート」を参照）
- ビジュアライゼーションのサンプル
  - アラートを使用する単一値 69
  - Xcelsius での表示 25
  - アコーディオン メニュー コンポーネント 49
  - さ値コンポーネント 44
  - グリッド コンポーネント 62
  - ステータス一覧 67
  - スライド ピクチャ メニュー 51
  - 動的ディスプレイ 66
  - ドリルダウン チャート 41

## 索引

表示ステータス 67  
フィルタ コンポーネント 48  
マップ コンポーネント 53  
ビジュアライゼーションの電子メール送信 78  
ビジュアライゼーションのプレビュー 25, 31  
四角形コンポーネント 55  
[上下の位置調整] 99  
情報ボタン 103  
[書式] メニュー 22  
    同じサイズに設定 23  
    均等間隔 23  
    その他のコマンド 23  
    ドキュメントの中央 23  
    配置 22  
書式設定  
    指数 85  
    地域の 89  
    テーブル コンポーネントとスプレッドシート 84  
進捗バー 43

## す

垂直線コンポーネント 55  
水平線コンポーネント 55  
[数値書式] リスト 100  
スキン 55  
ステータス一覧のビジュアライゼーションのサンプル 67  
スナップショット 81  
スピン コンポーネント 43  
スプレッドシート (「Excel ファイル」を参照)  
スライダ コンポーネント 43  
スライド ピクチャ メニュー コンポーネント 46  
スライド ピクチャ メニューのビジュアライゼーションのサンプル 51

## せ

静的データ ソース 27  
セル セレクタ ボタン 102  
セレクタ コンポーネント 45  
    [アラート] タブ 165

    [一般] タブ 152  
    [動作] タブ 158  
    [表示] タブ 165

## そ

ソース データ コンポーネント 45  
その他のコンポーネント 58  
    [一般] タブ 210  
    [動作] タブ 214  
    [表示] タブ 218

## た

ダイアル コンポーネント 43  
対話型カレンダー 58  
楕円コンポーネント 55  
縦棒チャート 38  
単一値コンポーネント 43  
    固定 85  
    出力 44  
    入力 44

## ち

チェック ボックス コンポーネント 45  
チャート コンポーネント 38  
    [アラート] タブ 119  
    [一般] タブ 108  
    作成 40  
    種類 38  
    [動作] タブ 115  
    [ドリルダウン] タブ 111  
    [表示] タブ 120  
チャート コンポーネントの [ドリルダウン] タブ 111

## つ

ツール  
    Components Explorer 16  
    オブジェクト ブラウザ 13  
    [プロパティ] パネル 17  
積み上げチャートの種類 38

## て

データ ソース  
 更新 32  
 最新表示 87  
 最新表示のトラブルシューティング 87  
 静的 27  
 選択 31  
 動的 26  
 データ ソースの選択 31  
 データ ソースのリンク 31  
 データ選択の最大行数 22  
 データの更新 32  
 テーブル コンポーネント 45  
 テキスト コンポーネント 63  
   [一般] タブ 194  
   [動作] タブ 195  
   [表示] タブ 198  
 テンプレート 27  
 作成 71

## と

[動作] タブ  
 Web 接続コンポーネント 203  
 セレクタ コンポーネント 158  
 その他のコンポーネント 214  
 チャート コンポーネント 115  
 テキスト コンポーネント 195  
 動的ディスプレイ 97  
 背景コンポーネント 192  
 マップ コンポーネント 184  
 動的ディスプレイ 97  
 機能 66  
   ビジュアライゼーションのサンプル 66  
 動的データ ソース 26  
 透明度ボックス 98  
 トラブルシューティング  
   Excel 86  
   FAQ 85  
   Microsoft Office のアップグレード 84  
   URL ペースのイメージ 87  
   URL ボタン コンポーネント 85

固定された単一値コンポーネント 85  
 ビジュアライゼーションの印刷 86  
 ビジュアライゼーションの開始 87  
 実行時間の遅延 86  
 シナリオの場所 85

ドリルダウン チャートのビジュアライゼーション  
 のサンプル 41  
 トレンド アイコン 58

## な

名前を変更されたシートがある Excel ファイルの  
 再インポート 34  
 名前を変更したスプレッドシートの  
 再インポート 84

## に

入力テキスト領域コンポーネント 63

## ね

ネストされた外部ファイル 57

## は

背景コンポーネント 55  
   [一般] タブ 188  
   [動作] タブ 192  
 [配置] リスト 99  
 バックアップ ファイルの作成 24  
 パネル セット 58  
 [幅] ボックス 98  
 バブル チャート 38

## ひ

非埋め込みフォント 21  
 ビジュアライゼーション  
   印刷 86  
   解決例 12  
   公開 12  
   作成 11, 30  
   スナップショットの取得 81  
   データの更新 32

## 索引

プレビュー 25  
[表示] タブ  
    web 接続コンポーネント 206  
    セレクト コンポーネント 165  
    その他のコンポーネント 218  
    チャート コンポーネント 120  
    テキスト コンポーネント 198  
    マップ コンポーネント 185  
表示切り替えボタン コンポーネント 45  
表示ステータスのビジュアライゼーションのサンプル 67  
標準以外の文字でサポートされるもの 90

## ふ

フィルタ コンポーネント 45  
フィルタ コンポーネントのビジュアライゼーションのサンプル 48  
フォント オプション 21  
フォントの設定 96  
[プロパティ] パネル 17  
    タブ 17  
    開く 15  
    複数のコンポーネント 18  
[プロパティ] パネルを開く 15

## へ

変更  
    キャンバス サイズ 20  
    グローバル スタイル 72  
    フォント 21

## ほ

棒チャート 38  
保存したシナリオの場所 85

## ま

マップ コンポーネント 53  
    [アラート] タブ 185  
    [一般] タブ 182  
ビジュアライゼーションのサンプル 53

セレクト コンポーネントとして 53  
動作 53  
    [動作] タブ 184  
    [表示] タブ 185  
表示コンポーネントとして 53

## め

メーター コンポーネント 43  
面チャート 38

## も

モデルのインポート 20, 30, 32

## ら

ラジオ ボタン コンポーネント 45  
ラベル コンポーネント 63  
ラベル メニュー コンポーネント 45

## り

リスト ビュー コンポーネント 46  
リスト ボックス コンポーネント 45

## れ

レーダー チャート 38

## ろ

ローカル シナリオ ボタン コンポーネント 58  
    使い方 61  
ローソク足チャート 38